

令和6年度岐阜県小中学校教頭会研修総会

アンケート結果(令和6年7月19日)

1. 義務教育総括監 青木 孝憲 様のメッセージ動画を視聴した感想をお書きください。

- ・ 教頭としての信念を持ち、子どもたちのために何ができるかを考えていきたいと思いました。
- ・ 教職員の笑顔は子どもたちの笑顔を作り出す…誰もが経験できることではない学びを、今まさに行わせていただいているのだから、がんばらなくちゃと改めて思いました。わたしたちも若いころ、大勢のベテランの先生にわいがって頂きました。返す番だと改めて思っています。ありがとうございました。
- ・ 「管理職として、子どもも教職員も一人の人間として尊重すること。」「コミュニケーションを大切に、感謝に気持ちが伝えられる管理職で常にあること。」「思いの実現に向けたサポートと価値づけができるように見届ける」など、当たり前と思って実践してきたことを見つめ直す機会となった。子ども中心の実践の積み重ねによって、笑顔いっぱい为学校にしていきたいと思いました。
- ・ 「生徒を一人の人間として尊重すること」は、自分として大切にしてきたことです。青木先生のお話をお聞きして、さらに大切にしていこう気持ちになりました。私自身新任教頭として勤務する中で、自分にゆとりがないと、なかなか周りの先生方への配慮ができない時があります。生徒、保護者、地域の方々、職員の皆が笑顔でいられることを目指して、いつも誠実に取り組んでいきたいと思っています。
- ・ 勉強させていただき本当にありがとうございました。
- ・ わかりやすいお話でとてもよかった。勇気をもらった。
- ・ 子どもにも教職員にも笑顔溢れる学校を目指して、教頭としてできること、しなければならぬことを教えていただきました。特に、信頼される教頭となるために、プレゼンで示された信頼できない事象を生み出さないよう、真摯に職務に専念していきたいと思っています。また、青木義務教育総括感が初任の時の各務教頭先生の話がされましたが、私自身も初任当時の教頭先生のおかげで今があることを忘れず、少しでも勤務校の先生方のためになる動き、助言ができるよう努めたいと思っています。教頭職最後の一年を充実させようという思いを強くさせて頂きました。ありがとうございました。
- ・ 児童生徒を一人の人間として尊重し、温かい眼差しで寄り添う教師という言葉は、全ての教員が自分の信条として、常に大切にしなければならないことだと強く思いました。教頭として、若い先生がやりたいことの後押しができる自分、教職員の笑顔と子どもたちの笑顔を作ることのできる自分になれるよう、日々努力していきます。貴重な学びのあるご講演でした。ありがとうございました。
- ・ 講和ありがとうございました。先生方の笑顔が、その先にある生徒の笑顔につながる。現在私の職場では、どうだろうかと振り返ってみると、まだまだ十分ではないと感じています。まずは、先生方はどんなことに長けているのか、どんな部分が強みであるのか、そういった部分から得意を伸ばすという形で、どんどんリーダーシップを発揮して、自信をつけていってほしいと願っています。そのための方支援などを進んで行っていきたいと考えています。また、どんなことに困り感を持っているのか、担任の先生や教科担任の先生方お一人お一人に寄り添いながら、親身になって関わっていきたくて考えています。まだまだ不十分な点があり、この先も自分自身にも磨きをかけ、先生方へも還元していきたいと考えています。私は、特に人材育成には、力を入れていきたいです。これからの教育を背負って立つ若い先生方に少しでも力を身につけることができるよう、できることはすべて行っていきます。私自身のこれまでの実践をブラッシュアップし、現代の教育ニーズに対応しながら伝えたいです。また、冒頭にありました、児童生徒一人ひとりを大切にすることのお話の中に、「どうですか」「同じです」、ハンドサイン、全員挙手そういった部分にこれまでも気持ち悪さを感じていましたが、青木先生のお話を聞き、私が感じていたことをおっしゃってお見えてしたので、この部分についても、本校の先生方へ投げかけていきたいと思っています。本日はご多用の中ありがとうございました。
- ・ 大変に分かりやすい動画で、心に響く内容でした。私たち教頭は、授業をこなしながら、次々と湧いてくる目の前の業務に追われています。自分自身、難しい顔で職員室の最前列中央に座っている時間が長いです。でも、目の前の業務よりも、今起こっている、先生たちが直面している、抱えている、身近で切実な問題に気づき、耳を傾け、声をかけていくことが先ずもって重要だと改めて再確認することができました。どんな時でも、笑顔を忘れず、真っ先に気軽に声をかけてもらえる教頭でい続けようと思っています。あと数年たてば、定年後の人生が待っています。若い教員を育て、託すことにシフトをチェンジすることになります。私は、自分自身の生きがいや幸福について、自分自身と向き合い、日々を過ごしていきたいし、自分に与えられた使命を果たすことの価値、果たせることの喜びについても、じっくり考えていきたいと思いました。
- ・ 教頭(管理職)に対する期待と大切にしていこうと、ご自身の経験や我々が若い時に経験したことと紐付けながら、分かりやすくお話していただけたと思います。職員室の雰囲気や職員間の関係作りが学校の全てであると思って日々実践しています。至らない所や改めてはっとすることをご示唆していただけたと思います。
- ・ 厳しい現場状況ですが頑張るしかないです。
- ・ 自分自身がバージョンアップし、職員一人一人に寄り添っていくことの大切さを改めて確かめることができました。コミュニケーションを大切に、信頼関係を築いていきたい。
- ・ 教頭として2年目を迎えました。まだまだ教職員間の連携がうまくとれていないので、自分が教職員の要になれるように尽力していきます。
- ・ 青木先生の言葉が励みになり、これから頑張ろうという気持ちになりました。また、日々の忙しさにかまけず、知識や情報をアップデートしようと思っていました。
- ・ 講演を聴かせていただき、「今、教頭として、自分は…」と立ち止まって見つめることができました。現在の自分の姿から、どのお話(言葉)も心にささり、残念ながらできていないと反省することばかりでしたが、先生方と子どもたちの笑顔のために、教頭として、アップデートすることをあきらめず、一歩ずつがんばっていきたくて改めて思いました。ありがとうございました。
- ・ 学校が笑顔で教職員も笑顔である学校づくりに、教頭として何ができるかを再考しました。児童も教職員も保護者も笑顔であるような学校であるために、教頭として何ができるかを再考するきっかけになりました。
- ・ 自分自身の職務を振り返りながら、試聴しました。総括監の話をご共感しながら試聴しました。先生方の得意を活かし

たり、学び合う職員集団の育成に努めたりして、日常からコミュニケーションをとりながら、職員とのつながりを作りたいと思います。また、日常から、承認、感謝の気持ちを伝え、信頼関係を築けたらと思います。教職員の笑顔、子ども達の笑顔をつくるために大切な仕事であることに誇りを持ち、教職員、子ども達のよさをどんどん価値付けていきたいと思っています。多忙の中ですが、教職員、児童生徒のために尽力していきたいです。ありがとうございました。

- 職員を大切にするというこの具体をお示いただきしました。やはり、職員室の人間関係はとても難しいものだと感じますし、言葉かけ1つとても気を使います。もちろん、教職員の働き方についても責任があります。時にはもどかしいこともあります。すべてのことについて、相手を大切に思う思いで対応していくべきであると思いました。ありがとうございました。
- 教頭になり2年目になります。特に、「職員間の人間関係を良好に保つこと」と「若手が元気よく働けること」を大切に日々仕事をしています。ただ、思っていた以上に職員からの相談や児童のトラブルが多く、一人一人の話をしっかりと聞けていないのが現状です。今日のお話にあったように、何事も人間関係の上で成り立っていることを改めて考えることができましたので、忙しいときほど焦らず話が聞ける教頭になりたいと感じました。仕事が忙しいときに、「忙しいオーラ」を出さないことに心がけます。また、忙しいという理由で、新しいことを取り入れることができていませんでした。自分自身が教諭の時に、管理職の先生から最新の話題を教えていただいたとき、とても参考になり、尊敬の念を抱いたことを思い出しました。いきなり多くのことは無理かもしれませんが、自分の得意分野からアップデートしていきたいと思っています。
- 教頭として知っておくべき多様な情報を教えていただいて、学びが大きかったです。特に現場では、若手指導と職場環境を整えることに多くのエネルギーを使っている中で。
- 生徒、教職員に寄り添うということの大切さを再認識しました。若い教職員の声をじっくり聴き、やりたいことを後押ししていきたいと思っています。
- 教頭のことを大変大事に考えてくださっているのが伝わる内容が多く、励みになりました。
- ・時間、内容、資料、お話が適切で分かりやすく、とてもありがたかったです・「時事に通じていない」について反省させられました・キーワード(組織ハチで動き、人は情で動く)が多くあって勉強になりました
- 子どもも職員も、大げさに言えば世界の人々が、一人一人を大切に温かさ、コミュニケーションを通しての信頼関係など、これからの時代も(こそ)大切になると改めて感じました。歳を取ったら説教、自慢話、昔話は慎むとよいと先輩の先生から聞いたことがあります。個人的ではありますが、私も今年度で役職定年です。職員の笑顔を目指して最後まで努力したいと思っています。
- ICT充実の重要性を痛感しました。第2期として、学校間格差が出ないように、担当者とアンテナを高くして、実践を積み上げたいと思いました。
- 教頭希望も少ないことを知り、やはり教頭として職員に寄り添うことが大切であり、それを示し切れていないことが原因だと痛感した。
- 「説教と自慢話はいらぬ、若手の後押しを」その通りだと思いました。自分がやれないことを上から指導するのではなく、丁寧に寄り添って若手を育てていきたいと改めて思いました。
- 子どものことは、思いや願いに寄り添いたいと思いつつ話を聞くように努めていましたが、職員には知らず知らず説教や自慢話になってしまっていたこともあるのでは

ないかと改めて振り返ることができました。担任だった頃と同じように先生方に接することができる管理職でありたいし、職員がやりたいことの後押しができるように自身も学び続けていきたいです。

- 児童に寄り添う教師を育てるためには、管理職自身が先生方に寄り添うことが大切であることを改めて見つけ、考え直す機会となりました。「寄り添う」という言葉を何気なく、職員会や打合せ等で使いますが、実際に具体的な姿や方策を伝えていたかと自問自答しました。もしかしたら、自分分かる範囲で伝えていたのかもしれない、初任者の先生の表情を確認しながら伝えていたかなどです。今一度、私自身だけでなく先生方と一緒に、今の児童の姿や願う姿をイメージしながら「寄り添うとは何か」を具体的に考え、伝えていきたいです。そして、まず私が先生方と児童を信頼するとともに、先生方や児童を尊重して歩み続けたいです。ありがとうございました。
- 「子ども達を、一人の人間として尊重して」という視点で、本校の現状を振り返ると、まだ本当に一人一人を尊重していると言えない姿が、まだあると感じさせられました。職員に伝えていきたいと思っています。また、信頼されない管理職の例をもとに、これまでの自分を振り返りながらお聞きしました。あてはまる部分がいくつかあったので、先生方や子ども達の笑顔を生み出すためにも、今後意識して取り組んでいきたいと思っています。本日はありがとうございました。
- どれもその通りだと思う内容でした。教頭として、やらなければいけないことについて、じっくり向き合う時間がないのが現状です。職員の働き方改革を進めると、管理職に負担が来てしまっている現状があります。学校経営がうまく回せていないことに、愚痴をこぼしたくなる教員の皆さんには申し訳ありませんが、やっていないのではなく、向き合う時間がないからできない部分もあるのだと思います。これから教員のなり手を増やすためにも、管理職が本来のその仕事に集中できる環境を整えていただけたらと思います。
- 「教職員の笑顔→子どもたちの笑顔」をつくることこそ、管理職の責務。ということを毎日実感してます。過去の勤務校では、働き盛りの30歳前後の教員が年度途中で退職することがありました。その原因は未だにわかりません。一番活躍できる、してほしい年代の人が辞めていく。というのは、本当に残念でならなかったし、現場に残された先生方はもちろん、子どもたちにも申し訳なかったという思いでいっぱいでした。ありがたいことに、現任校では、体調を崩して休まれたり、暗い表情で勤務している職員はいません。管理職として、子どもにも先生方にも寄り添い、とにかく気軽に話ができる存在でありたいと強く思います。
- 温かい励ましのメッセージ等ありがとうございました。特に私も教頭としては、皆さんが安心して楽しみながら働くことができる職場を目指しています。いろいろな課題がありますが、今後も自分も職場の仲間も充実した学校教育が実践できるように心がけていきたいです。
- 児童生徒の「やりたい」を後押しする教員(担任)が、子どもを主役にしかつ尊重し大切にできる教員であるように、(若い)職員の「やりたい」を後押しし、働きがいややりがい共有できる職員集団を育成する管理職(教頭)を目指したいと感じた。エピソードトークは多々あるものの、「昔はこうだった・・・」「今までこんな風にやってきた・・・」という語りではなく、現在の状況に応じつつ、要所を抑えた指導で特に若手の教職員の育成を目指したい。
- 役職定年まであと2年。心をあらたに頑張ることを心に誓うことができた。
- 教頭は、教職員のために、子どものためにというお言葉が何度もありました。確かに私も若いころ、何人もの教頭

先生方に助けいただきましたし、力になってくださった教頭先生のことをよく覚えています。今日を機会に、自分は職員のためになっているかという視点をもって行動していきます。また子どもたちの明るい笑顔が見られるように対応していきます。ご示唆をいただきありがとうございました。

- 子ども達の笑顔をつくるためには、やはり1番身近にいる教職員が笑顔でなければならない本当に思います。そのためには、教職員が働きがいのある職場であることが重要だと常に感じています。管理職として支えることの大切さを改めて感じました。もちろん、教職員一人ひとりのスキルアップのための研修やメンタルヘルスなど健康管理体制などすべきことは多くあると思いますし、やらなければいけないことだと思います。教職員という子どもを育てる職業への魅力を感じられるようにしていくことが本当に重要だと感じます。
- 教頭としてあと1年これまで行ってきたことを振り返りながら、任務を全うしようとおと思っています。教職員を育てることこそが将来の子どもたちを育てることと肝に銘じてあと9か月間頑張りたいと思います。これから変わっていくこともたくさんあり生きていくことが大変ですが、変化に対応しながら前に進んでいける職員を育てたいと思います。
- 本日は、大切なお話をありがとうございました。教頭になって3年目を迎えました。1年目は目の前の仕事に追われ、教職員のことより自分の仕事を優先していたように思います。振り返ってみると、申し訳ない気持ちでいっぱいです。「あたたかいまなざしで先生方に寄り添うこと」本当に大事だと思います。現任校にはいろいろな働き方をする教職員がいます。私が、今心掛けていることは、毎日どの教職員とも1回は必ず話すことです。「傾聴と対話」を大切にしています。それぞれの思いを知った上で支援していくとその人の教育観などが理解できます。私自身の中にはない考え方や指導の仕方にてあったとき、否定するのではなく肯定的に捉え、指導や支援ができます。本日は、これらことを今後も大切にしていけばよいのだと学ぶことができました。「教頭先生に相談してみよう」「教頭先生に頼んでみよう」という存在になり、教職員の支えになるようアンテナを高くして教職員と子どもたちのために頑張りたいと思います。
- 「職員室の担任として」とよく言われるが、改めて教職員とのコミュニケーションをはかりながら同僚性を高め、風通しのいい学校にしていきたいと感じました。ありがとうございました。
- 自校の職員の年齢層は偏りがあり、日々、コミュニケーションの重要性を感じている。今回の研修内容を踏まえ、現場で実践していきたいと考えている。また、「管理職の知識のバージョンアップ」を自分自身の課題と捉え、今後も情報の収集に努めていきたい。
- あたたかいお言葉とともに、具体的な数値をもとに岐阜県教育の現状や未来を教えてくださいました。説得力とぬくもりのあるお話に勇気付けられました。ありがとうございました。
- 教頭として、職員、児童、保護者の気持ちに寄り添うことができるように、心がけていきたいと思うし、そんな気持ちで声をかけていきたいと思う。
- 「子どもたちを一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」という言葉を管理職としての立場に置き換えて職員に寄り添うことの大切さについては、まさにその通りで、その気持ちがなかったら、自分にとって職員にとっても、さらには目の前の子どもたちにとっても不幸なことだと感じました。
- 端的に教頭として大切なことを話していただけ分かりやすかったです。オンデマンドであったため、繰り返して聞

きたいところも聞き直すことができました。ぜひ、新しい通知などをタイムリーに知らせていただき、自分自身がアップデートしながら、職員を守ることができる管理職でありたいと思いました。

- 生徒の笑顔は職員の笑顔からだと思って、職員の笑顔を大切にしていきたい。
- 本年度から、新任教頭として勤務しております。ここまで、町の教育委員会の先生方をはじめ、校長先生、学校の先生方のご支援やご助言、そして子どもたちの温かいまなざしのおかげでここまで無事に勤めてくることができました。また、日々、自分は新任ということもあり、先生方に迷惑をかけていないだろうか、ベテラン教頭だったら、もっとうまく学校がまわっていきたくて考えてしまうことも何度もありました。今日の青木先生のお話を聞いて、教頭としてのめざす姿が見えてきたように思います。なかなか叱るということは苦手な自分ですが、先生方の動きをよくみて、よさや頑張りを認め、先生方をその気にさせられるような、教員としてのやりがいを感じてもらえるような働きかけをしていきたいと思います。それぞれの先生方のよさを伸ばしていく、得意を伸ばしていく、それが子どもたちの指導にも、学校の組織にも生きてくると思います。今後も、あたたかいまなざしを大切に、全ての先生方のために、子どもたちのために、教頭として日々、努力していきたいと思います。本日は、教頭としてのめざすべき姿を示していただき、本当にありがとうございました。自分らしさを大切に、また明日から頑張っていきます。
- 社会の変化に対応していくことが今更ながら再認識させられました。流れるように早く変化していく今の社会にとりのこされないようにしたい。
- 学校に活力がなくなっていると思います。子供達が好きで、真剣に気づかりながら、明日は何して楽しませてやろうと私たちの方がワクワクしていた世代とは違うのは承知しながらも、教育委員会が首を絞めていることが多すぎると思いませんか？新しい教育が始まれば、研修をしなくては指導できません。現状、個人任せではありませんか。長くなるので割愛しますが、人を確保して現場に送れないことこの責任とらずして、職員に語るな！と声を大にして言いたい。退職職員の勤務体系を柔軟にし、給与を上げたり、たとえば中学校校区でいいので ICT 専門職員を県が責任もってはったり、もっと現場が求める効果的な施策を考えて欲しい。
- 温かな声で「がんばれ」と励ましてくださっている気持ちになりました。挙手の話は、昔若いころ、みんなで参加とか、自分の声を聞かせなくちゃと教わり、その様行ってもいました。でも、私自身も小さなころ、なかなか手のあげることができない子だったので、もじもじしながら「こうだともう。」と口には出せなかったのですが、考えていたと思います。あいさつも同じで、大きな声でできない子は、ちょこんと頭を下げて意思表示すればいいいのではないかなと方向転換しました。 当たり前…まだまだ学校の中に残っている気がします。若い先生でも、そのように思っている先生もみえます。いろいろな取り組みを大切にしながら、個々の子どもの個性を大切にしたい学びができるように私自身もがんばります。「信頼される管理職」いつも学校の先生、教頭先生という肩書を取った時に、一人の人間として受け入れられるかなと思っています。謙虚に取り組めます。先生のお話の中でもありましたが、私も失敗ばかりで、講師の時代も含めて大勢の先生に大変かわいがって頂きました。可愛がって頂いた分を、職場の先生、これから出会う若い先生に返していきたいと思っています。笑顔だけは忘れず、にこにこ過ごしています。これからもよろしくお願ひいたします。
- 信頼される管理職を目指して、努力しようと思いました

- ・ 教頭として、本校の職員一人一人を尊重した学校経営をしていくことの大切さを改めて実感した。私は、人とのコミュニケーションをとることは好きな方であるが、今後はもっと広い視野から職員個々をとらえ、一人一人に対して承認したり感謝を伝えたりしていきたいと感じた。GIGA スクール構想については、職員間で学ぶ研修会を充実させることで、全体のレベルアップを図りたいと思った。そのためには、効果的な活用や他の実践について、他校から学ぶなど率先して行っていきたいと感じた。
- ・ 教頭職を応援してくださる思いがとても嬉しく、大変励みになりました。また、今後の課題や教育の展望についてご示唆をいただき、有意義な研修となりました。ありがとうございました。
- ・ 教職員に寄り添う教師…教師を管理職に言い換えたから…よく聞くようになりました。まさにその通りだと実感することが多々あります。
- ・ 「教職員は、笑顔で勤務していますか。」という問いには、全ての教職員がそうではないなあと考えさせられました。特に今年1年目の職員には、私も授業をもっている中で、なかなか関わることができていないと反省しました。ただ職員は、本当によく頑張っています。だからこそ、職員のやりたいことについて真摯に聞いて、その思いが実現するように考え、支援していきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・ 教頭という立場から、自分の学校と一緒に勤めている教員に対して、あたたかいまなざしで寄り添っていたかどうかを振り返ると、まだまだそうではなかったように感じました。困っている職員に寄り添ったり、頑張っている職員に賞賛の声をかけたりするなど、働きかけていきたいと思えました。そして、信頼される管理職を目指していきたいと思えました。本日はありがとうございました。
- ・ 最後の「説教はいらない 自慢話もいらない」「若手がやりたいことを その後押しをする」というお話に深く同感しましたし、自戒していかなければならないなと思えました。実際のところは、日々の実務に忙殺されてなかなかコミュニケーションが取れないことが多く、反省しています。信頼される管理職、信頼できない管理職というお話からも、同様に自分の課題点が見えてきました。様々な働き方が進められている昨今ですので、以前のように「飲みケーション」だけでは不十分です。なんとか時間をとっていかねばならないと思いつつも、留守学級に入る日々が多く、なかなか先生方と話せなかったり、子供たちの様子を十分見に行けなかったりしています。まずは自分自身が笑顔で過ごせるよう、踏ん張っていこうと思えました。ありがとうございました。
- ・ 教頭として2年目を迎えますが、毎日の業務に追われ、自分が教頭としてできていないことがたくさんありすぎて、何からやるべきかさえ考える時間も生み出せずにいました。動画を見て、まず、承認と感謝を伝えること、私の思いを児童の姿や経験から、根拠を明確にして伝えていくことを実践していこうと思えます。このような研修の機会をつくっていただき、ありがとうございました。また、児童一人一人を人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う具体を考えて指導できるようにします。
- ・ 非常にわかりやすかったです。GIGA スクール構想について、先頭を切って取り組んでいかなければいけないと強く感じました。効果がないことが分かることも大切と言う言葉が印象的でした。ありがとうございました。
- ・ 最近、教頭の職員への関わり方に関する話を聞く機会が多くあり、今回の講話も通ずるものが多くあり、より自分の役割を考えるよい機会となりました。ありがとうございました。職員の良いところを認め、励ますことを心掛けていますが、忙しさに追われ、十分にできていないことも多々あります。自分が担任の頃に学級経営で大切にしてい

きたことを職員室で実践していくことが最も大切と思っています。職員の笑顔のために、自分の笑顔、やりがいのために、先生方一人一人を大切に、やりがいを感じられる笑顔あふれる学校づくりに尽力していきたいと思えました。

- ・ 全児童の笑顔のために「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」を全職員で目指していきたいです。そのために「教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職」に近付けるよう日々努力していきます。自分の言動を振り返るよい機会をいただきました。明日からの生活にいかしていきます。ありがとうございました。
- ・ 一人一人を尊重することの大切さを改めて実感しました。また、全員挙手や一律の反応を求める指導で、窮屈な思いをしている子もいるだろうと私達は考えなければならず、児童主体の授業へ本気で転換しなければならないと感じました。そのために教頭として、特にベテラン層の意識改革を進める手立てを講じたいと思えます。私は新任教頭です。業務に追われてばかりの余裕のない日々を送っていますが、励ましの言葉をいただけて、明日からもがんばろうという思いになりました。ありがとうございました。
- ・ 本当にその通りだと思えました。私たちが笑顔ならば職員室は笑顔になります。私が一番注意していることです。
- ・ 子どもも教員も一人の人間として尊重するという言葉が一番心に響いています。これまでの自分の失敗の多くは(ほとんどが)、私自身の思いや願いを生徒や保護者、教員に押し付けようとしたことによるものです。そうはしたくないと思いつつも、願いが先行してしまい、失敗を繰り返してきました。そのたびに、先輩の先生から教えられた「自分を他人に押し付けるな」という言葉を思い出し、自戒していました。だからこそ、今大切にしたいのは、教師こそ相手に合わせて、自分を変えていくこと、人は変えられない、変えようとしな。むしろその人の良さをどうやって見抜いて、伸ばすことができるのか必死に考えることだと思っています。そのような人間になれるように頑張りたいと思えます。本日は、貴重なご講演をいただき、ありがとうございました。
- ・ 管理職として、職員のモチベーションを上げる声掛けについて勉強になりました。
- ・ いろいろ考えさせられました。特に、職員とのコミュニケーションの不足を反省させられました。明日からもっとこちらから職員に話しかけ、コミュニケーションを深めたいと思えました。
- ・ ひとりひとりの教職員を大切に、互いの良さを認め合う職員集団の風土を育むためにも、管理職として「育てる」視点をもち、ひとりひとりに応じた接し方をするとともに、温かい気持ちで接していくことを意識していこうと思えました。そして、頼られる管理職になれるよう必要な支援を行うだけでなく、適切な指導を行うことができるよう学び続けなければならないと思えました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 職員にとって温かい管理職であるかを自問自答し、職務を全うしたいと思えます。
- ・ 自分は教員とのコミュニケーションが不足していると感じました。「先生方のやりたいを後押し」の発想が弱かった気がします。その視点で、もっと先生たちの声に耳を傾けて、自分が柔軟になれるようにしたいです。また、必要な教育時事的情報は先生方にわかりやすく伝え、アップデートがみんなできるように勉強したいと改めて思いました。「子どもと教員の笑顔と成長を守ること」ができる教頭になれるよう日々やれることからやります。今後ともご指導よろしくお願ひします。

- 子どもにとって魅力的な先生とは、子供に寄り添い、温かく見守ってくれる先生と感じます。そしてともに成長を喜んでくれる先生であると思います。教頭として、業務は大変ですが、先生方が子供の成長に喜んだり、感動したりする場面に出会うことで、自分のやりがいを感じます。コンプライアンスや危機管理等の徹底は、管理職として、先生方を守ることにもつなげる思い、責務を果たしたいです。そして、常に先生方に寄り添い、温かく見守れる存在でありたいと感じました。
- 子どものために、教職員のために、自分にできることを精一杯努力したいと改めて思いました。
- 職員とのコミュニケーション、教育時事の大切さを再認識する機会となった。
- 担任時代、学級の生徒全員の成長を願い、支援をしてきました。今、教頭という立場になっても、基本的なことは何も変わらず、対象が子どもから先生方(大人)になっただけです。人を育てることに変わりはありません。誇りと情熱をもって、先生方のウェルビーイングの向上を目指し、業務に邁進する覚悟です。
- 視聴する中で、一つ一つのお言葉が心に響いてきました。教頭の笑顔や温かさは職員室の雰囲気より良いものにします。いつも実感しています。共に働ける素晴らしさに感謝しながら、目の前の教職員の皆さんがやりたいと思うことに寄り添う管理職であるよう努める所存です。とても心温まる、決意につながるお話をさせていただき、感謝いたします。ありがとうございました。
- 笑顔溢れる学校は、私も求めている学校です。そのために職員の笑顔を増やして、働きやすい職場として、それが子どもたちの笑顔に繋がると大いに思います。時代は目まぐるしく変わり、人の考えも教具も内容も変化し続けます。教具だけのアップデートだけでなく、私たち人間も同時にアップデートしていくことを大切にしたいです。また何より、一人の人を尊重し、命の尊厳を絶対大切にしていきたいと思っています。
- 「教頭があなたかれば、職場もあなたかくなる」という青木義務教育総括監のお言葉が深く印象に残りました。現在、管理職という立場になり、今までとは違った視点で職員を見たり、話をしたりすることが多々あります。その中で、特に一人職の職員は孤独感を感じ、不安な中で仕事をしていることも分かりました。私は「職員室の担任」として、こういった職員を大切にできる気持ちを忘れずに風通しのよいあなたかな職場をつくっていきたくと思っています。教育の根底にある「教育は人なり」を常に心に刻み、児童・生徒や教職員を一人の人間として尊重する、温かいまなざしで寄り添う教頭を具現していきたいと思いました。
- 「教頭の笑顔で、教職員も笑顔に」まさにその通りと実感していますが、なかなかできないことだとも実感しております。どんな仕事よりも最優先で、心にゆとりをもって教職員との対応・対話を大切に寄り添うことができる管理職になりたいと改めて思いました。こうした講話をお聞きしたことをチャンスに、自らをバージョンアップしていきたいです。まずは、今日、たくさんの教職員と関わります。ありがとうございました。
- これまで教職員に寄り添っていたつもりであったが、再度自らの姿勢を見直してみようと考えさせられました。適切な時期に端的に価値付けたり、指導したりと適時適量を意識しようと思います。さらに信頼される教頭として、様々な教育場面で教職員の方の姿勢や動きをつかんで、動きがいのある職場と思ってもらえるよう尽力したい。
- 管理職としての役割を学ぶことができました。これまでの経験上、憧れるような管理職に何人もお会いしてきました。その方々に対してどうしてそのように思えたのか、体系的にとらえることができたのは大きな収穫でした。ま

- た、これまでの自分の欠点は、何でも自分でやろうとしてしまい、時には消化不良となってしまうことでした。タブレットの活用等については得意な教員を生かすなど、組織としての改善を心がけていきたいです。
- 「説教はいらない 自慢話はしない」を心がけていきます。
- 管理職教頭に期待を持って、今の教育の現状から何をすべきかご示唆いただけた貴重なお話をいただけました。現在、私自身教頭を務めながら、日々先生方が「一日よかった。明日はこうしよう」と思い考えていける学校運営ができることをいつも気にかけています。本日お話いただいた中で、やはり教職採用のパンフレットの文言のように「1人の人間と尊重し、あたたかい眼差しで寄り添う」教頭でありたいと改めて思うことができました。教職員の笑顔が、子ども達の笑顔に必ずつながります。そのためにタブレットの効果的な使用など益々推進すること、不祥事が起こらない地域、保護者から信頼を得る学校づくり、教職員への研修や普段の接し方などこれからすべきことが明確になりました。信頼される教頭になれるように誠心誠意努めていくことを再確認、再認識する機会になりました。
- 改めて気付かせていただけた部分も多々あり、身の引き締まる思いとなりました。学校という場で働く職員も、そこで一日の大半を過ごす子どもたちも、大切な子どもたちを信頼のもとに預けてくださっている保護者も、数々の温かい支援をくださっている地域の方も、皆が幸せを感じられる時間がたくさん続くように、今一度、自分にできることを考えて動きたいと決意しました。
- 具体的で分かりやすい資料から、青木義務教育総括監様のご経験を踏まえた岐阜県の教育全体への願い、県の求める管理職像について学ばさせていただき、ありがとうございました。特に「教職員に寄り添う管理職」として、児童生徒及び教師を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教頭となれるよう、3つの重点を常に念頭におき、これからも学び続け、校長先生の学校経営構想の具現化に努めたいです。ありがとうございました。
- 「職員を一人の人間として尊重する。」「温かいまなざしで職員に寄り添う。」「承認と感謝を伝える。」「組織は知で動き、人は情で動く」「説教や自慢話よりも、若手がやりたいことの後押しを。」随所に、自分は管理職として働きやすい職場づくりができているかを見直す視点をいただきました。職員や児童生徒の将来の幸せに軸足があれば、きつと信頼に足る教育活動が行えるのだと、改めて考える機会となりました。ありがとうございました。
- 今日も分かりやすくお話していただきありがとうございました。様々な立場で岐阜県の教育に関わっていますが、みんなと同じ気持ちで頑張っていきたいと思いました。
- 組織は知で動き、人は情で動く。教頭があなたかか接することで、あたたかな雰囲気になる。今の教育情勢を理解し、職員に啓発する。等々、教頭職の大切さをあらためて実感した。先生方に役に立って、それが子ども達の笑顔につながるよう精進していきたい。
- 「児童生徒を一人の人間として尊重しあたたかなまなざしで寄り添う教師」→「教職員を一人の人間として尊重しあたたかなまなざしで寄り添う管理職」、子どもに対しても職員に対してもそうでありたいと考えさせられた。主体的な学びが大切なのと同様に、職員も主体的な働き方が大切で、子どもたちのためにこんな方法で迫りたい、こんな活動に取り組みたいという職員の熱意を大切にしていきたい。やりたいことに耳を傾け、ともに考え背中を押したいと思った。情報端末の活用や不祥事根絶、60歳以降の働き方については、適宜情報のアップデートが必要で、更新された情報を職員に提供したい。が、自分自身IC

Tの活用は不得意で先頭に立つのは難しいと感じているので、得意な職員と連携を取りながら学校間格差が生じないように留意したい。

- 一貫して、「教頭」という職の難しさややりがいに寄り添う形でメッセージを発信して下さっていることが強く感じられて、とても有り難い思いになりました。これからも、子どもの笑顔、教師の笑顔のために、努力・挑戦を続けていこうと思いました。ありがとうございました。
- 人間尊重がキーワードとして心に残りました。子供にも大人にも、目と目を合わせて心を探ることを大切にしたいです。情報が溢れ返っている社会なので、曖昧な情報や偏見に惑わされず信念をもって頑張りたいと思います。
- 教頭という役割は当然大変さもありますが、先生方の成長を応援するという、やりがいや魅力もあるのだと、再認識しました。青木先生の「教頭先生を応援している」という温かいメッセージが伝わり、私自身も本校職員に対してより一層愛情をもって、関わっていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 教員に対するニーズや管理職に求められていることが大きく様変わりしていて、仕事量も膨大になっている現状を改めて感じました。教職員が笑顔であり続けるために、社会全体で考えていく必要があります。教頭として将来の学校を支えるために、できる支援を続けていきたいです。
- 子ども一人一人、教師一人一人、それぞれ大切な人として真摯に向き合うことができる管理職でならないと改めて感じました。心がけていきたいです。
- 教職員の育成、危機管理等、多岐にわたる内容でしたが、どれも今現在自分がどう指導しようか直面しているものや、多忙感の中で意識はしているものの、十分成果を挙げられていないものばかりで、映像をみながら頭の中が整理できた気分でした。どんな立場になってもどんな取り組みであっても、その先にある「子どものために」ということを念頭に置き、職員室の先生方で具体的に語れる自分でありたいと改めて感じました。
- (自分自身)ハッとされることや改めて大切だなと思うことが多く、ついつい真顔になって対応してしまう自分を反省しながら、笑顔で話せる心のゆとりや教員や子どもにかけ言葉の大切さを感じました。ありがとうございました。1人の人間として尊重する大切さ(個を大切にすること)やICT活用に関わってのよさ等、日々の授業の中で生徒と関わる中で伝えていきながら、範として示せるよう、精進していきます。
- 自分自身が今取り組むべきテーマを「結節点となり、職員の話をよく聞き、承諾し、ゴールを共有する」と設定しています。青木総括監様のお話を聞き、先生方の後押しができる教頭でありたいと改めて強く感じたところです。先生方に、授業や生徒指導、教育相談の力をつけてもらいたい、危機管理意識を高くもってもらいたい、などと考え実践に取り組んでおるところですが、やはりその土台となる、「安心できる職場」「心理的安全性が保たれる」ことの取組は大変重要であると考えます。今後も若手からベテランまで、職員間のコミュニケーションを活発にして協働体制を築いていくこと、また、自分の考えが反映され任されていると先生方が感じられるような組織づくりに努めること、について、その結節点となるよう取り組んでいきます。GIGAスクール構想については、私自身勉強することばかりです。本日のお話を聞き、危機感をもって見直しをもった動き取らなくてはならないと感じました。職員が困ることはもちろん、最も困るのは子どもたちです。私たちのアップデートにつとめ、この危機感を職員と共有していきます。本日は、ありがとうございました。
- 「教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教頭」であるかを振り返りながら研修を行います。

- した。いくつかの項目の中に『相手は自分の言葉の重みを感じている』というところ、ここは改善していかなければならないと感じました。若手(講師)が多く、毎日が大変そうです。良いところを伝え、褒めることもしているつもりですが、指導の比重が大きいのではないか、もっと、こうしたいという願いをもてる伝え方をして、アドバイスしていくことも必要だと感じていました。今後、行なっていきたくて考えています。また、『教育事情に通じていない』という話がありました。教育の動向について自分なりに調べるようにしています。しかし、その内容は職員の方に、わかりやすく伝わっているかは難しいです。伝え方の工夫をしながら、情報をアップデートしていきたいです。
- 一人一人の児童を大切にすること、当たり前と思わず、これまでの指導法を見直すことが大切だと思いました。
- 優しいだけでもダメ、厳しいだけでもダメ、大切なのは確固たる教育理念があり、それに沿って児童生徒一人一人を見て、教職員一人一人を見ているかということだと感じました。これからも、教職員一人一人が生き生きと働くことができ、児童生徒一人一人が生き生きと学べる学校を目指し、励んでいきます。
- 明解で、かつ温かみにあふれる講話でした。教頭としての心得を様々な業務の視点から述べていただき、とても分かりやすかったです。そして、「今、目の前にいる仲間(自校の教職員)のために、自分自身の教員としてのスキルを磨こう」と改めて思いました。ありがとうございました。
- 職員とガチ対話のできる関係作りが大切だと、改めて感じました。
- 動画内で示されている資料が大変リアル(具体的)で、現状を表していると感じました。今日の資料を常に心に留め、職員や子どもたちの前に立ちたいと強く思いました。また、教育時事やICT活用など時代に流れを活かせるために、自らが積極的に情報収集、活用できる好奇心、学ぶ謙虚さなどもち続けていきたいと思っています。
- 研修講話ありがとうございました。小学校から転勤になり中学校に勤務しています。3つの小学校が集まり地域の方々にも支えられています。しかし、それぞれの特徴を生かすことに苦戦しています。傾聴はして案もっていますが、これが将来どうつながっていくのかが不安で動けない自分がいます。また、日々色々なことが起き対応に追われています。やるしかないと思いつつあえず、快適な環境になるよう日々努力しています。アップデートをすることと、自分や同僚、児童生徒磨きに頑張っていきたいと改めて思いました。本当にありがとうございました。
- 「子どもが主役になる学校」にしていきたい、すべきであるという気持ちを十分もつことができました。また、「当たり前を見直す」ことの重要性を再確認することができました。課題はたくさんありますが、ICT機器の活用や「叱り」の改善、「知識をバージョンアップさせること」など、すべて大切なことなので、まんべんなく取り組んでいきたいと思っています。大変貴重なお話をしていただき、誠にありがとうございました。「あこがれられる教頭先生」をめざして、明日からも日々努力し続けていきます。
- 職員との日ごろのコミュニケーションが大切であること、そのためには、一人一人を尊重する気持ちが欠かせないことを、改めて痛感しました。教頭として、職員の意欲を喚起し、やりたいことをバックアップできる存在となれるよう、ポジティブな言葉をかけ、悩みに寄り添っていきたくてと思っています。また、教育時事に通じるとともに、情報に敏感であらねばならないと、わが身を反省しました。目の前の仕事に追われて、学校内外の情報に疎くなつてはいけなないので、心に余裕をもち、アンテナを高くして、情報収集に努めたいと思っています。
- 職員を笑顔にするためには、まず自分自身が笑顔でなくてはならないということを感じました。保護者や地

域の信頼を得るためにも自分自身が中核となって、職員とともに知恵を出し合いながら学校運営をしていきたいと思えます。ありがとうございました。

- ・授業中の子供たちの反応の仕方についてのお話で、「同じです」「なるほど」という反応はいかかなものかということが話題にあがっていました。全く同感で、初任のころから子供たちにはバラバラの反応、素直な反応を求めてきました。現在でも、授業参観等でみられる反応は揃っているものが多く、そのたびに違和感を覚えモヤモヤしていました。それが、このお話を聞いて非常にすっきりとしました。心の中で「ですよ」とつぶやいていました。今後も職員への指導、生徒への呼びかけなどを通して「それは本当に正しいのか」「生徒にとって本当に必要なのか」を追求していきます。
- ・忘れていたわけではありませんが、当たり前ことができなかつたりすることを、再度自分の中で見つめ直す良い機会をいただきありがとうございました。
- ・お忙しい中、管理職のために動画を作ってくださいまして本当にありがとうございました。「生徒を一人の人間として尊重する」というお話から、授業の当たり前を変えていくことを示唆いただきました。本校でも、「どんな学習にしたいか」について委員会や全校で話し合う機会を設けながら検討しています。その中で「分かるために交流したい」というような意見が出てきました。生徒とともによりよい授業を目指したいと思えます。また、「信頼できない校長」の中で『無理をしないように』と言って職員を育てようとしなさい」という表記にまさに自分だと思いました。管理職としての先生方と接する中で、まずは体調と思いを掛けますが、本当は踏ん張るための方途や作戦を練りたかったのではないかと思います。生徒も職員も一人一人の思いを尊重しながら、時には教室で、時には職員室で、やりたいことの「後押し」ができるように頑張りたいと思えます。ありがとうございました。
- ・現代的な課題であり、とてもためになった。教頭としての立場、心待ちを新たにすることになった。また、over60の問題は自分にとって切迫した内容で、考えさせられた。
- ・教頭としての職務を再確認できた非常に内容の濃いお話でした。特に、GIGA 第2期のことは情報収集不足で知らなかったのも、今後国が進めていく方向を踏まえて学校でも実践していきたいと思った。また、「組織は知で動き、人は情で動く」という言葉が印象的でした。管理職として、自分自身の人間性を磨いていくことと、組織の中で論理的に話をしていくことを頑張っていきたいと思った。大変有意義な研修となりました。
- ・「教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職」というフレーズが印象に残りました。教職員それぞれに、個性があり、それを見極めながらその人に合った言葉掛けや指導をすることに努めています。「教頭先生、聞いて欲しいことがあります」「ここで(職員室)いいの？」表情から探りながら言葉をかけていきます。ヤング・ミドル・ベテラン、それぞれが助け合い、互いを補い合いながら、児童が笑顔で過ごせる学校づくりを目指していけるように、今後「あたたかいまなざしで寄り添う」ことのできる管理職を目指していきたいと思えます。
- ・私自身、児童生徒を一人の人間として尊重することを心がけてきましたが、担任していた頃に全員挙手を求めた時期がありました。今は、ハンドサインを含め、大人社会ではやっていないのに、学校現場では子どもにやらせているものがあることに疑問を感じています。特に、何気なく取り組んでいることについて、誰のためにやっているのか、本当にあたたかいものなのかを見直していきたいと思えます。また、私自身、情報収集の努力が足りなくて、法改正や教育時事的な情報アップデートができいな

かつたり、目の前のことの対処に追われて教室を覗に行く回数も減り、子どもを観ることができていなかったりしていたことを反省しました。教職員に対しても、一人の人間として尊重し、特に若手のやりたいことについて真摯に聞き、その思いが実現するように考え、支援していけるような教頭を目指していきたいと考えています。ご講話によって自身を見つめ直すよい機会となりました。ありがとうございました。

- ・自分が教職員を一人の人間として尊重しているか、暖かい眼差しで寄り添っているか振り返ることができた。毎日様々な問題への対応に追われて、ついこのような視点を忘れがちであることに反省。初任の時自分がお世話になった教頭先生のように、自分もなりたいたって教頭職を志したことを忘れず、教頭として過ごしていきたい。
- ・日頃の自身の業務や生き方について振り返る機会となった。
- ・とても勇気づけられ職員に寄り添う管理職でありたいと改めて思いました。
- ・信頼される管理職となるために、教職員に寄り添うことが必要であるということは分かっていたが、信頼されるための具体を学ぶことができた。今の自分に照らすと、できている姿、足りない部分があり、気持ちを新たにできた。情報をアップデートすることも管理職の責務である。時間には限りがある為、効率的に情報収集できる方途を明らかにする必要があると思った。GIGA スクール構想については、確かに各種の格差を感じる現状であるが、現在の整備状況によりできることに最大限チャレンジしなければならぬ。ただ、市町格差は一教職員では現状を改善することは不可能であるため、教育の機会均等が図られることを願っている。(ICT機器の種類、ネットワーク環境の優劣により、現場での教育活動には限界があるため。困るのは子供！)
- ・若手に対して、接し方に迷いがありましたが今回のメッセージを聞いて素直に応援しよう、背中を押すようにしようと思えました。
- ・私の立場でこんなことを言うのはどうかと思いますが、今年度の教採パンフレットを観て、県教委の本気度を感じていました。今回、青木先生の動画を視聴して、若手の力を育てることはもちろん、次期管理職となる人材を育てなければ空洞化してしまうと思いました。これからも、現任校が人を育て、次の学校へと送り出していく好循環を担う一校となっていけるよう取り組んでいきます。
- ・職員室の雰囲気をよくするのも悪くするのも、教頭であるということは自覚している。いろいろな方がいらっしゃる中で、良さを認める声かけをしたりアドバイスをしたり。アドバイスもさらっと端的に伝えるように考えて声掛けをしている。若い先生たちもあと5年もすれば、学校を動かす中心になることは必須なので、新しい取り組みを背中を押すように心がけているし、その取り組みや行動は、本当に子供たちのためになることなのかを管理職として見極めることも自分の今の仕事の1つだと思っている。単に自分が楽をするための動きに対しては、説明して他の方途はないかと考えさせていっているつもりである。かつてとは異なる考え方に変わっていく中で、時代というか大切にすべきことは何かと考えながら日々、進んでいきたいと思っている。
- ・冒頭の「児童生徒を一人の人間として尊重し、温かいまなざしで寄り添う教師」という言葉を改めて重く受け止めることができました。普段何気なく「尊重」「温かく」という言葉を使っていたのですが、具体的な姿で職員に語っていただく大切だと感じました。子どもたちの笑顔のために、子どもたちへの指導の在り方も再確認が必要だと考えられます。講話の中で青木様のご説明された通り、全員挙手、反応の在り方などこれまで「当たり前」とされていること

が子どもにとって負担に感じていることもあります。指導の在り方を見直していく必要があると感じました。「若手がやりたいことの後押しを」と青木様が説明されましたが、自分もそんな教頭でありたいと思います。そのために・職員の得意を生かす・学び合う集団を作る・個別最適を生み出すことを大切に、子どもたちも職員も笑顔あふれる学校にしていきたいと思います。貴重な講話をいただき、ありがとうございました。

- 具体的な話でとてもわかりやすかったです。どのような管理職であるべきかわかりましたし、職員から頼られる管理職になる努力を続けたいと感じました。また、今後のライフプランについてもきちんと考えたいと思いました。
- 自分の役割を再認識しました。風通しのいい職員集団にしたいと日頃から思っていますが、日々の業務に追われがちなので、もっとコミュニケーションを大切にしたいと思いました。
- 全員挙手については、昔やっていました。今は授業スタイルも変わり、一人一人を大切にしているかという視点で見えています。現在小学校からあがってきた1年生の「いいです」という生徒の反応をどう変えていこうかと悩んでいるところです。
- 一人ひとりを尊重することは、本当にその通りだと感じます。かつて担任をしていた頃、一斉指導、連帯責任が集団を高めると信じていました。それに応えられる少数派の陰で辛い思いをしてきた子どもたちのことを思うと本当に申し訳ないと思います。教員も子供も一律の能力や成果を期待するのではなく、その人の良さが少しでも発揮できる環境と一緒に作っていきける職員集団でありたいと強く思います。
- コミュニケーションを大切に、あたたかい気持ちで、先生方が思う教育ができるよう一緒に考え、意見を出し合い、子どもたちを育てていきたいと思っています。
- 職員が相談しやすい存在、職員をエンパワメントできる存在になりたいと思いました。
- ありがとうございました。様々な「生の声」を知ることができ、勉強になりました。若い頃、「ハンドサインを、社会生活で使うのでしょうか。」と疑問を呈したときに、「自分の考えを表現することが大事なんだ」と言われ、徹底してハンドサインを子どもに教えなければならなかったことを思い出しました。管理職であろうが、教師であろうが、一人の人間として、常識的な考え方や、人として当たり前な接し方など、見失わないようにしていきたいと思っています。特に「教職員に寄り添う管理職」「信頼される管理職」の話題が心に残り、考えさせられました。私たちは一人の常識的な人間であるはずなのに、「子供のために」「学校のために」という免罪符のような言葉に惑わされて、結果「全員挙手」など、極端な考え方に陥りやすいのかもしれない。「学校」という場所はとても素晴らしく、尊いところですが、常に危うさもあるということを自覚し、今後も職務に邁進していきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。
- 「自慢話をしない、説教をしない」を忘れることなく、日々の教育活動に邁進したいと思いました。
- 教職員に寄り添う管理職であること、常に情報をバージョンアップしていくことの大切さを学びました。
- GIGAスクール構想、60代職員についてなど、勉強になった
- 動画を視聴しながら、教職員一人一人に寄り添うことができただろうか、教職員が元気であってこそ子どもたちにより指導ができると考えてはきたものの果たしてそれができていたのだろうかかと振り返ることができました。今後このことを意識して日々生活していきます。
- 教頭の仕事は、教職員と子どもたちの笑顔をつくることだというお話に深く考えさせられました。私もこれまで、

「主役は笑顔の生徒と先生」という言葉を胸に、それを実現するための職場環境づくりに力を入れてきたつもりです。しかし、毎日遅くまで仕事をしている先生方が心から笑顔になれる職場環境づくりは、まだまだ遠いと感じています。働き方改革が叫ばれ、教員の業務もだいぶ軽減されてきましたが、これ以上改善できる業務も少なくなってきたと感じています。物理的な業務改善が厳しくなってきた現状で、先生方の負担感を減らしていくためにはどうすればいいのかということが、ここ最近の私の悩みでしたが、青木孝憲様のメッセージ動画に、それを克服するためのヒントが含まれていたように思います。2)教職員に寄り添う管理職のお話の中で、「職員のやりたいことについて真摯に聞いて、その思いが実現するように考え、支援する」というものがありました。教頭がこれを心がけることで、先生方が業務を自分事として考えることができるようになります。それが「自分の働きが生徒をこう変えた。自分が学校をこう動かした。」という思いにつながり、先生方の自己有用感を高め、業務への負担感を減らし、先生方の笑顔を生み出すことにつながるのではないかと感じました。また、6)信頼される管理職のお話の中の、「説教はいらぬ、自慢話も…」という言葉は、心に刺さりました。自分も日々の業務の中で、ついつい口から出ているのではないかと心配になり、今後特に気を付けていかなければならないことだと感じました。日々の業務の中で、今日のお話で心に残ったことを特に意識していきたいと感じました。

- 自分が常に感じていることを、理解し気遣い認めていただいた気がしました。「若手の職員への指導について、自分がきちんとできていない。」とか「時間外勤務が減らせないのは、自分にマネジメント力がないからだ。」と、反省することばかりです。「大人を指導することが自分には合わないなあ。子どもと学級で過ごすのは楽しいけど…」と、自分の毎日に疑問を感じることもあります。今回のお話のように、教頭が先生方の今の状態や頑張り、成長を確認でき、教員も笑顔になることが、児童を笑顔にすることである。と、再確認しました。もともとみんなが笑顔でいることが私の一番好きなことです。ありがとうございました。
- コミュニケーションを通じた教職員との信頼関係づくり、あたたかい眼差しで教職員を支援し、笑顔を生み出す教頭としての動きを大切に継続していきたいと学ばせていただきました。
- 教職員が笑顔で、生き生きと活躍できる環境をつくる要になるのが教頭であると学ばせていただきました。あたたかい眼差しでコミュニケーションをとり、教職員の笑顔、子どもの笑顔につながるように取り組みたいと感じました。
- 教頭2校目、4年目になります。前任校でもそうでしたが、若い教職員の多い職場です。青木先生のお話にあったように、教職員と向き合うときは、どんな話でも丁寧に聞くこと、思いに共感すること、困っていることであれば一緒に考えてやってみること、頑張っていることについては認めたり、励ましたりすることを心掛けています。また、自分が得た教職員に関わる話や勤務の様子について感じたことはすぐに校長先生に伝え、共有しています。ありがたいことに、校長先生はすぐに対応してくださったり、職員に声をかけてくださったりするため、自分の判断に自信をもつことができている。生徒指導案件や保護者対応など、毎日、いろいろなことがありますが、教職員が明るく、元気であれば、大抵のことは乗り切れます。青木先生のお話をお聞きして、教頭の役割の重みを再認識しました。子どもも、教職員も、保護者も…一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添うこと、その具

体はどうあるべきかを考えて実行できるように、明日からも頑張ります。ありがとうございました。

- ・ご教示いただき、教頭としての役目をもう一度理解し直し、果たしていきたいと改めて強く感じました。特に、教頭があたたかければ、職場はあたたかいものになるという言葉が印象的でした。教職員一人一人がやりがいを感じ、伸びていくよう、常日頃から承認と感謝のコミュニケーションを大切にしながら具体的に語り伝えていきたいと考えました。また、本校から、教職員の信頼を失墜させるような事態を生まないよう、情報をアップデートしながら教職員が自分ごととして考えられる言葉をもち、風通しのよい職場を作っていきたいと強く思いました。
- ・先生方がやりたいと思うことを知る。そしてその後押しができるように心がけます。
- ・温かく、かつ、管理職として必要なこと、大切なことはきっちりとお話していただけた。メッセージが一言ずつ伝わってくる内容のお話で、時間があっという間に過ぎました。明日からまたがんばろうという気持ちになれました。ありがとうございました。
- ・講演を聴きながら、現場を振りかえることができましたし、早速明日から取り組む課題もはっきりさせることができました。具体的に指摘くださり、感謝いたします。
- ・「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」という言葉から、その真逆の姿として現在報道の渦中にある本市の児童生徒性暴力事件を思い起こします。こういった事件が起こるたびに学校教育全体への信頼が傷つきますが、目の前の子どもたちを大切にすることによって、目の前の保護者や地域からの信頼を回復するよりほかにない、という気持ちになります。全員挙手や「同じで一す」など、本質に立ち返って見直すべきものがほかにも数多くありそうです。自身の教育観が不明瞭だと疑うことができずに流されてしまう気がします。そのような視点からあらためて自校を見てみます。ご指導をありがとうございました。
- ・「信頼できない」と感じる校長とはと、具体でお示いただき、校長を管理職と置き換えて自分自身を振り返ることができました。また、これらは、『教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職』にもつながっていることを感じました。学び続けることを忘れず、そして、児童もそうですが、教職員にも寄り添い、コミュニケーションをさらに図っていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・事前に視聴した教頭仲間から、「3回聞いた」という話を聞きました。その言葉の意味がわかりました。私も何度も視聴したいと思うくらいに、勇気をいただきました。教職員と児童生徒の笑顔のために日々頑張っていますが、最近は職員の年休や妊娠に対する措置などで対処しなければならないことが多く、夢をもって何かに取り組むことよりも、補充をどうするかを考えるだけで精一杯でしたので、私のやっていることは笑顔につながっているのか…と気持ちが下がっておりました。信頼できないと感じる校長(教頭)になっていないか？一つ一つ自分の胸に手をあてながら考え、メモしました。少なくとも自分はそうならないように、決してなりたくないという思いで日々勤めているつもりなので、自信を持って明日を迎えたいと思います。また、不祥事や退職後のことも具体的な法律や給与のお話が聞けて、よくわかりました。自分の学校の教職員にも具体的な助言ができそうです。
- ・改めて、管理職として、職員や子どもたちのことをよく見て、寄り添いながら、ほめたり指導したりしていきたいと思いました。
- ・改めて教頭としての立場を見つめ直すことができました。教職員の管理職に対する声はとても参考になりました。

また、第二期 GIGA スクール構想の話も印象に残りました。この夏休みには、自己研鑽に努めたいと思えます。

- ・教師と子どもの笑顔を作るために、コミュニケーションを図りながら、やりたいことを思い切ってやらせてあげることについて、改めて励ましのお言葉をいただき、次の日に職員や子どもたちとどんな話をしようかと考えさせていただきました。各教科等の授業や学校の生活以外に、事務処理、中体連等の外部の仕事、様々な研修、時間外勤務への意識等、現場の教員には本当に多く課せられるものがありますが、その一つ一つを実直に進めながら、子どもたちと向き合っていることについて、管理職として感謝と労いの思いです。それでも、それが言葉としてどの職員にも伝えられているか、さらに学びや活力を与える内容を示唆できているか、改めて自分の関わり方を見つめ直していきたいと思えます。そして、「ぜひ、うちの子どもたちと職員を見てやってください。」と、言えるような事実をたくさん見つけ、校外の人たちに伝えていきたいと思えます。貴重な学びの機会をありがとうございました。
- ・教職員一人一人を大切にすることは、子どもたち一人一人を大切にすることにつながるということを改めて痛感し、先生方の笑顔のために管理職として尽力をつくしたいと思いました。
- ・現任校の先生方をみていると、日々、いろいろな生徒指導問題が起きるが、腐ることなく粘り強く一生懸命対応してくださっている。改めて「一人一人の先生方を大切にしていかなければと感じた。ありがとうございました。
- ・とてもわかりやすいお話ばかりでした。大変勉強になりました。ありがとうございました。明日から少しでも実践していきたいです。
- ・大変温かい言葉で、何を大切にしていかなければいけないかを具体的に示して頂け、よく分かりました。
- ・子どもの笑顔のためにも、まずは教職員が笑顔で職務にあたれるような環境作りに努めたいと思いました。また、学校全体を見ながら動くように努めたいです。
- ・情報を常にアップデートし、職員の指導・支援に活かしていきたい
- ・普段の忙しさで少し頭から離れてしまっていた教頭としての役割、責務を改めて考えることができました。
- ・子どもに対しても教職員に対しても信頼され、笑顔になれる存在でありたいと思う。
- ・若手教員や経験が少ない教員が増え、先生方に伝えたいものみのことが十分伝わらないことを今年度は感じている。先生方が「やりたい」と思えることを後押ししていけるような環境づくりに尽くしていきたいと考えている。
- ・若手教員の育成とともに、自らが教頭(管理職)としてどのような姿であるべきか、どのような態度で接していくべきか、どのように指導していくと指導が入っていくのかを、改めて見つめ直す機会になりました。ありがとうございました。(小学生の頃、穂積町の警察アパートで青木さんに仲良くしていただいたことは、今でも忘れていません。)
- ・信頼されるにはどんな管理職であるべきか。職員に求められている管理職とは。ということを考えさせられた。職員・児童・保護者・地域など学校に関わる方を大切に寄り添わなくてはならないし、安全管理など責任も重い。大変だが、笑顔で接していこうと思う。
- ・自分が若手だった頃と今の教育界は大きく変わり、管理職も変わっていかなくてはいけないと実感しました
- ・いかに子どもに寄り添う教員になるために、なおかつ、いかに先生方に寄り添うことができる学校、職場にしていけることが、これからの教育現場に必要であると確信しました。特に、若手の先生方の心を満たすことで、子どもたち

の心を満たしていけるようにしていかなければならないと痛感いたしました。

- ・管理職として大切にしていけるべきことを改めて学ばせていただきました。今まで、担任として大切にしてきたことを先生方にすべきこと、承認する、感謝するを大切にしたいと思います。また、今こそ若手の先生方がやりたいことの後押しをすることを今日から行なって生きたいと感じました。
- ・「教職員によりそう」例など具体的ですぐに実践できることが多く、勉強になりました。
- ・教頭として何を大切にすべきか、改めて考え、日々の自分の振り返りを行うことができました。
- ・すぐ前向きな気持ちになれました。今自分が頑張っていることに、間違いはないんだ。と強く思いました。ありがとうございます。
- ・「子どもを(先生方を)一人の人間として尊重しているか」「子どもに(先生方に)温かいまなざしで寄り添っているか」この2点について、自分自身の言動を常に振り返ることが大切であると感じました。また、管理職として先生方から信頼されるような言動を心掛けたいと改めて感じました。教育関係に限らず、世の中の動きについて情報をアップデートし、知らなかったということがないようにしたいと感じました。タブレットの使い方を含めて、日々が学習であることを肝に銘じて職務にあたりたいと思います。
- ・人材育成の大切さを感じました。先生方をほめる、認めるで、自信をもち、モチベーションをあげて、業務に向かえると思います。叱るという話がありましたが、必要ときは、指導をしています、言い方や伝え方を考えて、話すところまで相手が理解したのか、どのように受け取ったのか、時々心配になることがあります。
- ・承認する、感謝を伝える、小さな一歩を見逃さず大きくほめる、という言葉が心に強く残りました。チーム学校として学校内外の関係者の力を最大化するために、今自分が心して取り組まなければならないことだと感じました。ありがとうございます。
- ・勉強になった。
- ・危機管理について、改めて自身の判断や考え方について戒めるきっかけになりました。また、先の世の中、時代を想像して管理職を務めるためには、若手の育成とともに定年延長をされた職員や退職校長がいきいきと職務にあたる事ができる職場環境を整える必要性について考える事ができました。
- ・子どもも職員も一人の人間として尊重してあかるか、という部分で、これまでの自分を振り返ることができました。
- ・日々の報告文書の作成、保護者対応、地域への対応、生徒指導対応など、その日を作り切るのに精一杯の毎日が続いています。そんな中でも、子どもたちと授業で過ごす時間は心が洗われる気持ちになりますし、また、担任の先生と一緒に取り組んだことで、子どもが喜んだり、壁を乗り越えたりした時は、同じ学校の仲間として嬉しい気持ちになります。本研修でご指導いただいた子どもや職員をひとり一人の人間として尊重し温かく寄り添うことは、当たり前なことなのに、ふと、我を振り返って見ると、自分が忙しくなると、職員が話しかけにくい雰囲気を出してないかなあ、子どもの話をじっくりとうなずいて聞いてあげていけるかなあ、と反省ばかりです。日々の忙しさは、すぐには解消されなと思っていますが、こうして、時々、原点とも言うべき、大切にことに立ち返る時間が必要だと感じました。ありがとうございます。
- ・管理職として、児童・生徒、先生方とどのように関わっていくべきか、どのように勤務していくのかについて、改め

て考えさせていただきました。世の中の流れを知ることや情報を収集することなど、アップデートの重要性について自分なりに理解しているつもりでしたが、今回の動画を拝見して一層大切にしていきたいと考えました。様々な管理職の下で勤めて参りましたが、どの方からもたくさんのご意見を学ばせていただきました。また、育てていただきました。私自身、まだまだそんな管理職ではありませんが、かつて自分が仕えた先輩方のようになれるよう努力していきたいと、改めて考えました。

- ・一人の人間として尊重することは、対象が大人であっても子どもであっても同じだということを改めて考えることができました。また、自分がICTが得意でなくてもいいというお話から、ICTに限らず、職場のメンバーの個性や得意を生かして、私も先生方を頼って学校経営を行っていこうと思うことができました。ありがとうございました。
- ・教頭としての働き方や職員への関わり方について見つめることができる講義をしていただきました。ICTを子ども達に活用させる必要性・重要性についても確認することができました。今後、自分も含め学校職員と共に、活用を広めていきたいです。
- ・生徒に対してはもちろん、教職員に対しても一人の人間として尊重して温かい眼差しで寄り添う教頭でありたいと改めて思いました。また、頼り甲斐のある教頭であるために努力したいと思いました。
- ・管理職として、大切にしなければいけないことを再確認出来てとてもよかったです。
- ・「教頭先生にお伝えしたいこと」、「教職員に寄り添う管理職」、「GIGA スクール構想について」、「情報をアップデート」、「60歳以降の勤務選択」、「信頼される管理職について」、講話をいただきました。特に、「教職員に寄り添う総管理職」の中から、今までの担任時代に、子どもたちを大切にしてきたことを、今後は教職員を大切にしていきたいこと、その中でも教職員に合わせた人材育成をしていくことに、力を入れていきたいと考えました。そのために、日頃のコミュニケーションを大切にしていきたいです。心身の健康状態を見極め、その個、その日に合わせた指導をしていきたいと思いました。もしかすると子どもよりも個を見極めることが難しいかもしれませんが、子どもよりも接する時間は少ないです。だからこそ、日頃のコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。そのために、サーバントリーダーシップの考え方を取り入れていきたいです。上からではなく、下からという考え方です。傾聴し、共感し、癒し、共に成長できる関係づくりに取り組みたいです。若手教員を成長させようとすることは、もしかすると自分の成長が不可欠であると思います。自分自身が素直に謙虚に職務に当たっていきたく思います。本日は貴重な講話を聞かせていただきました。ありがとうございました。
- ・教職員の笑顔のために管理職としてやっていかなければならないことはよくわかったが、私たち管理職の笑顔はどう生み出されるのだろうか。教育委員会や校長にも同じメッセージを共有していただきたい。忙しいことに対応してくださいと言っていたが、何をしていたのだろうか。具体が知りたい。
- ・GIGA スクールについては、職員室内で一番遅れている事を自負しているところです。若手に学びながら知見を深めたい。日々の事務処理を言い訳に、教室から足が遠のいている。信頼関係づくりの優先順位を上げる必要がある。
- ・これまで担任としてやってきたことを教頭になっても大切にしていけばいいんだということを再確認できました。教頭として2年目となり、昨年よりは先生方のことを見る余裕が出てきました。担任として生徒をみてきたように

先生方にも目を向け、また自分自身も研修に励んでいこうと思いました。そして、新しい情報、教育にも興味関心をもち、自分自身も学びをとめない教師であり続けたいと思います。

- あたにかいご指導をありがとうございました。「組織は知で動き、人は情で動く」という言葉、とても響きました。どちらかだけではだめなんです。納得しながら聞かせていただきました。知と情、両方を兼ね備えた教頭を目指したいと思います。私は子どもたちが大切です。しかし、職員を通してでしか、子どもたちを育てることは難しいです。だからこそ、大切な子どもたちを安心して任せられる、大いに育ててくれる、幸せにしてくれる、そんな職員を育てなければなりません。それが「職員室の担任」たる所以なのでしょう。これからも1人1人の職員を活かしながら、学校全体を活性化させ、ひいては子どもたちの成長・幸せにつながるよう、そして、その事が職員の成長・幸せとなるよう、努めていきます。本日はありがとうございました。
- 1人の人間として相手を尊重することは、学校に限らず、いつでもどんな場所においても大切にしたい考え方だと思いました。「個を尊重する」ということは、「子どもは…するもの」「先生なら…するべき」といった分類や決めつけを排除し、みんな違う人格をもつ人間として、相手の考えや意思を尊重することだと思えます。従って、子どもに対しても若い先生方に対しても、一方的に指導するのではなく、相手の思いや考えを傾聴し、相手の願いを受け止め、納得や理解を得ながら接していきたいです。本人の願いが実現できれば、笑顔は自然に出てくるはずです。そんな子ども達の笑顔や先生方の笑顔を見て、自分も笑顔になれるよう今後も「職員室の担任」を頑張っていきたいと思いました。
- 管理職登用試験の際、「困った時に顔が思い浮かぶ」そんな教頭になりたいと話した。そして面接終了後、青木義務総から「すごくよかったよ！」とかけていただいたその一言で、涙で出そうになったことを思い出す。苦しい時や困っている時にかけていただく言葉というのは、心に染みる言葉になることを実感した。新任教頭として、様々な事案対応に追われ、その都度100点満点の回答(方針)を迫られている。プレッシャーとの闘いが続く中、「教頭が温かければ、職員も温かい雰囲気になる」というお言葉が心に響いた。想いを尊重する言動の積み重ねが信頼へとつながり、温かい風土を醸成していくものだと思う。先生方に声をかければかけるほど、多くの情報や相談があり、より苦しくなることもある。しかし、絶対にそこからは逃げたくない。本校の合言葉である『元気に登校 笑顔で下校』は、生徒だけでなく、教職員にも体現してもらわなければならない。決断力と実行力を大切にしながら、頼られる・頼りになる教頭を目指し、最高の笑顔で突っ走っていきこうと思う。改めて力をいただける応援講話だった。ありがとうございました。
- 教頭会へ向けてメッセージありがとうございました。「あたにかいまなざしで寄り添う」ということについて、改めて大切なことだと感じました。私は、「子どもが明日も行きたいと思える楽しい学校」を創っていくことが職員の仕事だと思っています。そのためには、職員があたにかいまなざしで子どもに寄り添うことが必要だと感じますし、職員にとってやりがいの感じられる職場にしていこうために管理職に必要なことだと思えました。「communication」というお話がありましたが、意図をもって、「communication」をしていけるようにしたいと思いました。また、60代以上の職員の割合(常勤、非常勤)が増えてきているというお話も聞きました。定年が延長されることにより、今度学校のあり方や運営の仕方が大きく変わってくるのだと感じました。大きな変化の中

で、いろいろな年代の先生が、もっている力を発揮して、学校を創っていけるように、自分にできることをしていきたいと考えました。

- 信頼される管理職、信頼されない管理職のアンケート結果を見て、考えさせられました。若手の教職員が、「やりたい」と思うことを後押しすることを心掛けたい。また、学び続ける姿を大切にしていきたいと感じました。
- 「教職員を一人の人間として尊重し、あたにかいまなざしで寄り添う管理職」であることを心掛けることの大切さを再確認しました。先生方を支え、子どもたちの前で自信をもって笑顔で立てるようにすることが、子どもたちの笑顔につながります。これからも先生方には常に感謝の言葉をかけること、授業の工夫、発問の良さや指導による児童の成長びりなどを先生方にフィードバックすることを心掛けていくことを大切にしていきます。そのために、自分自身が学び続ける姿勢を忘れずに精進していきます。
- 児童生徒を一人の人間として尊重すること、温かいまなざしで寄り添うことについて、具体的にどう伝えていくのか、これからの夏休みでじっくり考えたいと思いました。
- 先生方を笑顔にする仕事に誇りを持たなくては…と思いました。そのために、児童生徒及び一人一人の先生方を人間として尊重するということや、温かいまなざしで寄り添うとはどんなことなのかを自分なりに具体的に言うようにしていけないといけなと思いました。また、劇的に変化する教育現場も自分はずついていけなくても、若手と一緒に頑張ろうとしたり、任せたりして、その変化をしっかり共有していくことが大切だと思いました。何かと落ち込むことが多い性格ですが、前向きに頑張ろうと改めて思えました。ありがとうございました。
- 具体的で今日の話題で興味をもって視聴できました。
- 子どもたち同様、多様な先生がたが働く職場を、明るく、挑戦したり協力したりできる場にしたいと改めて思いました。日々起きる出来事は、自分はもちろん、先生方や学校にいる子どもたちのためのチャンスにしたいと思えます。
- 改めて、管理職とは…と、我が身を振り返りました。理想としていた管理職像に近づけているだろうか、教職員に信頼される教頭になれるだろうか。お話を聞いて、毎日の雑多な業務の中でも、これだけは忘れてはいけないという気持ちになりました。温かい職場環境を作っていけるように、精進していきたいと思えます。ありがとうございました。
- 私は、今、やりがいや楽しさをもって教頭職を務めさせていただいています。昨年度から現任校で勤務していますが、停滞気味であった学校に新しい風を吹き込み、慣習、学校のあたり前、風土・風習を見直し、子ども目線で、子どもが楽しいと実感できる新たな教育活動の創造を職員が一丸となって行っている最中です。形式的なことをスクラップし、できることは効率化し、その中でゆとりを生み出し、新たな活動の創造をしています。それも、手前味噌ですが、「～ねばならない」ではなく、ベテランもモデルも若手も遊び心をもって取り組んでくれていると自負しています。そうした流れをつくるのに教頭として一番大切にしてきたことは、校長先生と思いを一致し、連携することです。これまでにお任せさせていただいた三人の校長先生は、タイプは違いますが、みなさんそれぞれの考えをしっかりともたれている方です。まずは、私が校長先生の思いや考えに共感し、そのうえで自分の考えや個性をお伝えし、校長先生にとって安心してもらえる教頭になるということを常に念頭においてきました。また、そうした自分の姿勢や背中を職員に見せることも学校づくりの大切な視点だと考え、実際に見せてきたつもりです。そうした土台が、今の学校の大きな流れを生み出していると考えられています。ただ、動画を視聴させていただいて、改

めて教頭として職員を見る目や関わりを考えなければという思いをもちました。仮に、大きな流れの中で職員が同じ方向を見ながら進んでいるとしても、やはり、それぞれの考え方や個性があります。やりがいや楽しい機運があったとしても所々では、行き違いやうまくいかないことはあり、些細なことも含めて不満はでできます。そんな中で、自分は職員をフラットな目を見て、常に穏やかな雰囲気であるかということに反省の思いをもちました。正直、推進力となったり、自ら苦勞してくれたりする職員を大切にしている一方、なかなか思うように動けない職員にはどんな教頭になっているのだろうと感じました。職員指導において、校長先生と役割分担はできていると思います。ただ、そこには、あくまでも自分の考えであった、職員とのズレがあるかもしれないということを戒め、教頭としての姿を示していきたいと感じました。ご講演、ありがとうございました。

- 大変勉強になりました。教頭の役割をいただく前は、子どもの成長だけを考えて仕事に没頭していました。教頭の職をいただいた当初、その視点が抜けきらないところもありましたが、今は「子どもの成長…」を「職員の成長…」に置きかえて考えることで、自分なりの理想の学校をイメージして教頭業務にあたることができるようになってきました。今日の講話を拝聴して、さらにその必要性を実感し、モチベーションを高めることができました。「教職員を1人の人間として、あたたかいまなざしで寄り添う」意味を、今の時代に合わせた的確に捉え、日々の実践に取り組みたいと思います。笑顔あふれる学校づくり、頑張ります。
- 教頭として、職員の思いに寄り添ったり、後押しをしたりする教頭に自分がなれているか。自分があこがれていた教頭になれているか改めて考えさせられました。また、現在の教育界の動向について理解したうえで、教職員に指導・助言していくことの大切さを改めて学びました。
- 教職員とのコミュニケーションを大切に、雰囲気がよく、温かい心が通い合う、働きがいのある職場づくりをしていきたいと思う。また、ICTを活用した授業を積極的にに行い、学びあうことのできる職場にしていきたいと思った。
- 全員拳手など同調圧力による学級経営、本当に子どもたちは人として大切にされているのか？など、今まで当たり前だと思っていたことをもう一度立ち止まって考える機会となりました。学校を子どもたちが自分らしく生活できる場にしなければいけないという使命感を強くもちました。ありがとうございました。
- 今年度より新任教頭として務めさせていただいております。青木義務教育総括監からのあたたかく力強いメッセージに勇気と元気をいただきました。また、教頭としてあるべき方向性を示していただき、深く納得し、こんな教頭になりたいという気持ちを新たにすることができました。自分がこれまでお世話になった教頭先生を思い浮かべながら聞きました。初任の時、お世話になった教頭先生(故坂本幸雄先生)は、私が苦しいとき、親身に話を聞いてくださり、共感してくれ、自分の失敗談を交えながら、私の心を軽くしてくださいました。今でも優しい笑顔が鮮明に思い浮かびます。教頭としての「人柄」の大きさを感じます。また、ある教頭先生(現校長先生)は、あたたかくも鋭い視点でしっかりと指導してくださいました。ぶれない信念と理論をもった教頭先生から、様々な事を学びました。今でも「〇〇教頭だったら」と思いながらものごとを考えるときが多いです。他にも、私は尊敬できる管理職(校長先生・教頭先生)の先生方に恵まれ、それぞれのキャリアステージで先生方から学び、育てていただきました。その方々のお陰で今があると思っています。教頭は「人柄」と「信念」、「原理原則」が大事だと思います。職員一人一人

に寄り添い、職員を信頼し、偉ぶらず、でも、ぶれない軸をもって職員を導き、子どもの可能性と共に歩む学校づくりに尽力していき、校長をサポートしていきたいと思えます。貴重なお話をありがとうございました。

- 今まで当たり前のように指導してきたことが本当に一人の子供として尊重しているのかという問いにハッとさせられました。同様に教職員一人一人を尊重できているか見直すことができました。「承認」と「感謝」を伝えることは意識してきましたが、具体性に乏しいことや学級や児童の変化に鈍感なことが足りない部分だと気づかされました。自分の経験だけでなく、最新情報から学び、教職員のやりたいことを後押ししていきたいです。ありがとうございました。
- 老害という言葉をよく聞きます。自分自身もそうならないよう、お話にあったようなことを日々意識して生活しています。自分がこの学校にいる意味がどこにあるのか、自分ができることは何なのかを改めて考えながら、お話を伺うことができました。ICTも含め、常に新しい情報に目を向けて、できるかぎり理解しようと努力してはいますが、やはりそこはICT担当者が理解も早く、実践方法も具体化しやすいのが現状です。自分はあまり背伸びせず、若い担当者が粹に感じながら働けるよう声をかけています。これから年を重ね、60というタイミングでその後の人生設計をどう考えていくかは、まだ未定ですが、オーバー60の尊敬すべき大先輩が多くいる中で、なぜ70%になるのか…職場でも、若い職員の中でもよく話題になっています。その理由についてお話を伺える機会があるといいなと思っています。ご指導ありがとうございました。
- 子供と教員の笑顔づくりは、自分も目指しているところです。笑顔は生きがい、やりがいを表すバロメーターだと思いますので、今後も笑顔で溢れる学校を目指して頑張っていこうと思います。
- 教頭として大切にしなければならぬことを考えさせられました。
- 貴重なお話をありがとうございました。「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」新人教師だけでなく岐阜県の全ての教員が目指すべき指針であると同時に、管理職として、職員を育てる大切な視点であることがよく分かりました。また、「一人一人を尊重することとは」「あたたかいまなざしで寄り添う教師とは」について深く自身に問うことができました。また、常に新しい情報を入手し、職員への情報提供や職員指導に務めることなども分かりました。児童生徒と職員に寄り添う教頭としての責務を自覚しながら、信頼される学校づくりを推進していきます。
- 岐阜県が求める教師像に、「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」が加わったことはとても大切なことだと思います。ベテランの方で、忘れがちで、威圧的になったり、感情的に指導されるため、児童が落ちつかず、困っています。さまざまに試みているのですが、「自分は一生懸命やっているのに」の自負、自ら学ぼうとしない姿勢、できれば厄介なことはあと回しにする習慣…。児童の指導以上に難しく、フォローの仕方に思案中です。また、保護者にも、威圧的であったり、特別支援教育への理解に乏しく、ご立腹されたり、簡単に断られたりする方がいらっしゃるの、保護者への現在の教育のあり方をご理解いただくことも大切だと感じます。ありがとうございました。
- 「あたたかいまなざしで寄り添う管理職」の言葉に感銘を受けました
- 私達教頭ができること。それは良い職員集団を作ることであることがよくわかった。自分自身、教職員に対してきめ細やかな対応をできているとは言えないので、今後意識的に、動いていけるようにしたい。

- ・ 納得できるお話ばかりでした。承認・感謝を伝える・人は情で動くを、いつも意識できるよう、日々頑張りたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 「我が意を得たり」というのが第一印象です。教員・教頭である以前に、人としてどうなのかという目で自分自身を見つめていきたいと思いました。特に「全員挙手」「同じです」「ハンドサイン」について私はずっと違和感を覚えていました。そこに人の心はあるのか？と思うことが多々ありました。また、信頼できる管理職、信頼できない管理職についてのお話から、その違いは「人としてのあたたかさ」があるかどうかだと思います。実際に「私がルールだ」という管理職の態度に苦しむ職員を見てきた経験があります。私自身も「あなたと話しているとイライラする！もういい！」と突き放されたことがありました。そのときのことを思い出すと今でも悲しくなります。人の心の痛みが分かる教師でありたいと改めて思いました。ありがとうございました。
- ・ 児童生徒も教職員(同僚)も、一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添うことが大切である。もっともなことでありながら、では、どのような言動が寄り添うこととなり、児童生徒や教職員にその思いが伝わるのか、難しいものだと思います。そのことについて、具体的に、「校長をどんな時に信頼できるか」「信頼されていると思う時」と示していただき、大変よく分かりました。職員の強みをつかみ、伸ばすための助言、見守り、そして、任せる。そんな管理職になりたいと思いました。青木先生のもとで勤めさせていただきました。実際に思うままに様々なチャレンジをさせていただきました。そして、しっかりと支えていただいていた経験があります。管理職として心掛けることは、「職員への感謝」。そして、「常に学び続けること」。どんなお立場になっても、先生のおっしゃることは変わらず、私自身も見習い、大切にしたいと思いつけています。自分自身が管理職となり、職員の皆さんに何を示すことができているのか、やりがいをもって楽しく勤めていただけているのか、とても不安でした。今なお不安ではありますが、青木先生のお話から、していただけてきたことを思い出し、職員と子どもたちと共に、「今日が楽しく、明日が待ち遠しい学校」をつくっていききたいと、前向きな気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・ 児童や先生方を尊重し、あたたかいまなざしで寄り添っているか、信頼される教頭であるか、今の自分を振り返ると、課題ばかりです。
- ・ 信頼されない管理職など見て、自分にもあると感じ反省しました。職員室内での自分の笑顔や明るさが職場を明るくするというのを、朝にそのとおりであると思い、心がけようと思っています。
- ・ 職員一人一人に寄り添い、信頼される管理職になることで、温かい職場が生まれ、子どもたちも安心して学ぶことができる学校にしていきたい。ICTや時事情報について、私自身ももっと情報を得て、知識を増やしていきたいし、職員にわかりやすく伝える力を身に付けたいと思った。
- ・ GIGAスクール構想に伴う様々な情報機器の活用について、教育の根幹にある何を大切に何を教えていくか、さらに危機管理の面については自分なりに蓄積してきたものがあるというお話しに、原動力をもつことができました。実際の情報機器の活用については得意な先生、若い先生に意気を感じていただける場にしていけたらと思います。また、授業中のハンドサイン等についてのご意見について同感です。何事においてもそれが定着してきた意味をなくして、形だけ残しがちです。私たち自身がその状況に合ったどう感じるかという視点をもっていききたいと思つています。ありがとうございました。
- ・ 私は、教員としての立場が変わり、自分自身、仲間(職員)への接し方も随分変わったと思います。同時に、人材育成や、全ての先生方が気持ちよく働けることの難しさも痛感しています。一方で、常に「学級担任だった時、学級担任だとしたら…」を心掛けて職務にあたっています。学級担任の時に子どもたち一人一人に真摯に接し向き合っていたかと言われるればそうではなかった自分でした。教頭は、副担任の立場ですが、その反省忘れずにこれからも職員や地域、保護者と向き合っていこうと思つました。ありがとうございました。
- ・ 「みんなの笑顔がみんなの笑顔を運ぶ」モットーとしていますが、青木先生のお言葉から背中を押していただいたような気がしました。子どもも教師も同じで「居場所と出番で自信」が大切です。これからも双方向の意思疎通で「つなぐ役割」を担っていきます。
- ・ 貴重なご講話ありがとうございました。児童ひとりひとりを一人の人間として尊重して、あたたかいまなざしで寄り添う教師が求められていると改めて認識できたとともに青木義務総がお話されたとおり、それは、我々教職員も同じだということ肝に銘じようと思つています。教頭職は、児童生徒の教育はもちろんのこと、教職員を見守り、指導していく役割がとても大きいです。私が日々意識していることは、この人のいうことなら聞きたいと思われるようになることです。なかなかたどりつくこちは、難しいですが、義務総が仰る通り、少しの成長や進歩を見逃さず価値づけていくことや、苦しそうな時に声をかけていく目を持つてこちだと思っています。義務総がおっしゃる本物のコミュニケーションがとれるよう私自身の人間性も磨いて行かねばと思うことができました。
- ・ 今の管理職に求められることをコンパクトにまとめてお話しいただき、大変わかりやすかった。改めて、管理職としての自身の在り方を振り返り、子供と教職員の安心と成長を支えていきたい。
- ・ 生徒に寄り添うように、管理職は先生方にも寄り添っていくことが重要になることを改めて確認することができました。また、情報を常にアップデートして対応していくことが、信頼や安心にもつながっていくと感じました。ありがとうございました。
- ・ すべての職員、ひとりひとりを尊重し、常に温かい眼差しで寄り添う。そんな管理職であり続けたいと改めて強く思いました。資料の中にあつた「組織は知で動き、人は情で動く」の言葉はとても心に残りました。管理職として、学校の要となりながら、笑顔溢れ、心ある指導をこれからも続けていきたいと思つています。ありがとうございました。
- ・ 職員が働きやすい職場をつくるためには、自分自身の自己研鑽が必要であること。自分自身が学べる人間であること。その上で、様々な知見のもと、職員が困りそうなとき、または困ったときに支援ができる。まずは管理職としての覚悟と人間力をつける。職員と簡単には信頼関係を強固にできない。信頼してもらえよう、日々の積み重ねが必要であることを強く感じた。
- ・ お久しぶりです。白川村立白川中学校でお世話になりました。加藤です。先生のお話は、白川中学校で、個性豊かなあの3年生の子どもたちに対する姿勢とまったく同じだなと感じました。以前勤めていた学校で、校長先生から「学校経営は学級経営に帰結する」と教えていただいたことがあります。自分はどんな思いで教員を目指してきたのか、もう一度足元を見つめていきたいと思つています。僕は今、多くの先生方に助けていただきながら、多くの子どもたちや保護者と関わっています。自他を尊重し、自分のよさや持ち味を発揮する子どもと教師を育てられるように、また頑張っていきます。先生もお体には十分に気をつけてください。時間がありましたら、ぜひ飛驒にお立ち寄りください。長文失礼しました。

- 子どもや教師の笑顔のために、きちんと叱ることのできる教頭になりたいと思いました。
- 教育会の動向を知ることができたと同時に、初めて知ること多かつたことから、自らが情報を得られるように日々情報のアップデートに努めなければいけないのだと感じました。
- 多岐にわたる内容でしたが、そのすべてを網羅しなければ、教頭として管理職としての職務を全うできないのだと再確認しました。自身が先生方に支えられて毎日を過ごしていると感じています。4月から赴任しましたが、幸い職員室が明るくなったと職員が言ってくれています。その点だけは頑張っているかなと少しホッとすることができました。感謝の気持ちを忘れないで、頼りになる、いざというときに力を発揮できる教頭になりたいと感じました。とても勉強になりました。2回視聴しましたが、何回でも視聴したい内容でした。ありがとうございました。
- 管理職を志す教員が減ってきていることを教えていただきました。私たち教頭が生き生きと働き、魅力あふれる働き方を若い先生方に見せていかなければならないと感じました。そのためにも、仕事を精選し、働き方改革を進めていきたいと強く思いました。ありがとうございました。
- 改めて管理職としての責任の重さと役割について再認識することができた。「主役は子どもたち」であり、主軸を子どもたちにおくことを常に頭に置きながら勤務していきたい。このような話を聞くことで、意識が日常化されるので、大変ありがたいと思いました。
- 多岐にわたる内容について、改めて教頭職の大切さを学ぶことができました。今日、今からの職務に活かしていきます。ありがとうございました。
- 私たちに寄り添う気持ちでいていただけることに感謝です。また、今後の展望も聞けてよい学びの機会になりました。
- 青木先生のお話は様々な分野のことがありましたが、視聴する間、引き込まれてしまいました。そして目からうろこでした。教頭として、大切にしなければならないことは、教職員に寄り添うこと、承認して感謝することであると改めて教えていただきました。動画から学んだことを少しでも実践できるように努めていきたいと思いました。ありがとうございました。
- とても分かりやすく教頭として求められていることを話していただき、改めて自分を振り返る機会をいただきました。日々のコミュニケーションなどで培う信頼関係が無ければ、相手に響かないことなどを常に意識して、教頭としての職務に励みたいと思いました。また、時代の変化に伴い、自身をアップデートをしていく必要性を感じるようになりました。
- 「教職員一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職」という言葉を受け、改めて自分を見つめなおすきっかけとなりました。職員がどんなことを考え、どんなことを求めているのかなど、寄り添っていきたいと思います。
- 全員挙手、なるほど、ハンドサインなど子どもの世界でしかないものについて、一人の人間として尊重するという視点でとらえなおすべきという点について、じっくり考え自校の実践を再考していきたい。またGIGA構想での市町村格差も異動により実感しています。2期目に入ることを踏まえてうまくいかなかったこととどうするか、教頭会やICT部会等と交流したり、教育委員会に伝えたりして子どもに還元していきたい。
- 「教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職」という言葉を受けて、改めて自分を振り返るきっかけとなりました。職員がどんなことを考え、どんなことを求めているのか、寄り添いながら共有していきたいと思います。
- 日々の忙しさに追われている自分を自覚、反省しましたし、教職員としての原点に気づかせていただきました。
- 教頭として、自分自身について振り返るとともに、今後についてご示唆いただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 語る際のエピソードトークの大切さは、日々先生方に話す際感じております。普段から自分事として考えていただけるよう気を付けて話すことを心がけます。また、管理職として、叱ることから逃げず、機を逃さず端的に叱ることが先生方の成長にもつながることを改めて感じました。タブレット端末を道具として学習に生かせるよう、長けた先生方に夏季休業等利用して研修を取り入れることも検討したいと思います。多くの年齢差のある先生方に支えられ成り立っていることに感謝し、若い教師が育つ学校になるためにベテランの先生方に協力していただき後押しをお願いしつつ自ら率先して指導していくよう努めます。
- 一人の人間として尊重、あたたかいまなざしで寄り添うことを、改めて大切にしたいと感じました。また、若手のやりたいことを後押しし、笑顔が溢れる学校にしていきたいと感じました。
- 管理職に求められているものを再確認出来た心新たに、若手教員に信頼される管理職になっていけるようにしたい。
- 全員挙手、ハンドサインは、教諭の時から違和感があり、実践してませんでした。協調生がない人物と思われていたかもしれません。でも、話しを聞いて、本当にすっきりしました。今後も「理に叶う」自分でありたいです。
- 大切なことをわかりやすくお話いただきました。特に、教頭としてどうあるべきかというお話は、日々の忙しさと忘れがちなことを思い出させていただき、また真摯に自分の職務にあたっていこうと決意を新たにすることができました。
- 大変参考になるお話がたくさんありした。今後の活動の糧にしたいとおもいます。
- 非常に興味深いお話をいただきありがとうございました。色々胸に刺さりましたが、中でも「若手のやりたいことを後押しすることが管理職の役割」と言う言葉。本当にその通りで、私もそんな教頭でありたいと感じました。本校は若い先生方が多いため、是非明日から心がけていきます。ありがとうございました。
- 管理職としての使命感ややりがい揺らぎを感じる時が、日々の業務の中です。今回のメッセージをお聴きしたことで、その拠り所となる知見を得ることができました。教育が持続可能を持続続けるために、考え何十年先の教育を担う人材を育成し、遺していくことに力を尽くします。ありがとうございました。
- 昨年度の講話は、教頭に求められることが多すぎて、気が重くなりましたが、今年度はギガスクール構想についての情報を得て今後の教育について教頭の立場から考えるような内容もあり、視野が広がりました。職員に対しても、温かいだけでなく、叱る指導についても言及されていて、現実的な視点からの管理職の在り方についても納得しながら聴くことができました。
- 温かいまなざしで子どもたちが子どもたちらしく進んで活動できるように、まず先生方に明るく生き生きと働いてもらえるように、進んで全力で働いていきたいです。
- 日々職務に追われていますが、大切にしなければならないことは、いつも一緒だと感じています。忙しいで終わるのではなく、先生方とかかわりながら、常に心にゆとりをもち、管理職として勤めていかなければならないと感じます。
- 教頭として大切なことを再確認できました。自分は、教頭職はバランスが大切だと思っています。最新の知識・知見、温かさ、厳しさ、楽しさ、真面目さ、ゆるさなどバラ

スよく出し引きして、居心地の良い環境をつくっていきたいと感じました。ありがとうございました。

- ・ 教頭先生が明るく温かければ、職場も明るく温かくなる。それは本当にそうだなと感じます。力になれているのだろうかかと自信をなくしてしまう時もありますが、虚勢を張らず、先生方がやりがいを持ってご活躍いただくことを応援できる管理職でありたいと感じました。
- ・ 教員採用パンフレットから話が始まったが、これから教員を目指す人たちへの言葉の多くが、何年も教育に携わっている我々教職員も、改めて襟を正して受け止めなければならないことであると、改めて考えさせられました。
- ・ 日々忙しい中ですが、お話をお聞きして、改めて先生方との関係を見直していこうと思えました。本校は若い先生方が多く、ベテランの先生方から多くのことを学んでいます。時にはうまくいかないこともあり、悩んで前向きにならないこともあるようです。表情を見ながら声かけをしています。同じ若手の中で解決できることもあるので、お互いの強みを大切にしながら、繋いでいくこともしています。子どもたちの幸せと先生方の幸せは、同じように作られていくものと捉え、日々、関わっていこうと思えました。ありがとうございました。
- ・ 教員採用パンフレットのお話しが印象に残りました。語句を置き換え、自分自身をみつめたり、職員に投げかけてみたいと思います。
- ・ 教頭として自らを省みる機会となりました。教頭がその職員集団の雰囲気を作ることが心に残った。教頭として、常に自分は温かく明るく職員や子どもに接したいと思う。
- ・ 教諭として苦労してきたことが、現在の自分の強みとなっています。授業や生徒指導などで悩んだあの頃があるからこそ、今の自分があると考えます。先生方を尊重し、大切にすることはどういった事なのか、今一度考えたいと思いました。変化の激しい時代に、管理職としての職責を果たす為、自分も学校というチームの一員として協働のあり方を考えて行きたい。
- ・ 教頭として、管理職として、初心にかえり、改めて大切にしたいことがたくさん詰まった講話でした。特に、若手教員や、担任としての自信を失いかけている職員に対する支援のあり方、対応の姿勢について、深く考えさせられました。教頭としての自分の強みは、要支援児童に、同目線まで下がって、直接関わりながら、できたことを大袈裟に誉めること、笑顔にすること。そして若手職員の育成支援です。これからも自分の強みや良さを活かしながら、教頭としての職を誇りをもって全うしていきたいと思えます。
- ・ 今勤めている学校の先生方の担任という立場として、笑顔を大切にしていきたいと思った。ついすっかりと自慢話をしてしまうところがあり、反省している。今までの当たり前だと思っていたことが、そうではないという考え方もしていなければならない。自分自身の信念として、子どもと職員の命と心を守り抜くというものがあるが、改めてこの信念に固い決意が加わった。
- ・ 児童生徒を1人の人間として尊重し、温かいまなざしで寄り添う教師 具体的に描いてエピソードとして語りながら、同僚と共に歩んでいきたいです。特に、大人の世界でありますか？の言葉が心に沁みました。勇気がもらえるお話、ありがとうございました。
- ・ お話にあったように笑顔あふれる職場になるようこれからも日々努めたいと再確認できました。
- ・ お話の中にあつた、Communicationの大切さを、日々感じています。子どもたちと接する時と同じように、先生方にも、どんなことを伝えるにしても、普段からのコミュニケーションがあつてこそ、本当に伝わるのだと思います。また、先生方がやりがいと思っていること、やろうとしていることについて、よく理解し、後押しできる存在でありたいと思います。

- ・ 児童相談所での2年の勤務を終え、教頭として着任しました。小規模校なので学年部で全学年の体育の授業受け持っています。できないことができるようになったときの子どもたちの笑顔に接すると、教員の素晴らしさとやりがいを実感しています。青木総括監のお話を聞き、改めて、全ての子どもと先生方にこの素晴らしさを感じてもらいたいと思います。本校にも新採講師がいます。彼女が自分らしさを発揮し、自信を高め、子どもたちとの笑顔になれるよう、努めたいと思います。
- ・ 児童を、また職員を一人の人間として大切に接していくことをこれからも大切に、また、しっかり行っていきたいと思えました。そうした、職場の土壌を作っていくことを、自分の務めとして実践していきたいと思えます。子どもたちと、職員の笑顔があふれる学校にしていきたいです。
- ・ 今後の教育や若手育成の大切さについて再認識しました。
- ・ 子どもたちに寄り添う教職員と同じように、教職員に寄り添う教頭として、日々、できることを実践していきたいと感じました。それぞれの年齢、経験、現状に応じた対応を考えていきたいです。
- ・ 子どもたちの笑顔をつくることとして、教職員の笑顔をつくること、このことは自分が教員として授業に毎日取り組んだり、学級担任として子どもたちとふれあったり、部活顧問として子どもたちと一緒に同じ目標に向かって頑張っていた時に、常に思っていたことです。現在、教頭として5年目になりますが、今もそのことは変わりません。青木先生のお話をお聞きしてあらためて教職を志す者の生きがいと今後の生き方を再認識することができました。「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」になってもらえるよう、教頭として「教職員(同僚)を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職」になれるよう日々努めていきたいと思っています。そのためには、先生方と今以上に積極的にコミュニケーションを図り、先生方がやりたいことを真摯に受け止め、後押しをし、褒めて、認めて、知らせていくことができる管理職になっていきます。日々、様々なことがアップデートされる世の中ですので、先生方を取り巻く様々な状況にもアンテナを高く張り、同僚から悲しい思いや辛い思いをする方がないように日々精進するとともに、「まずはやってみる、チャレンジしてみる！」ことをたいせつにICT活用も進めていきます。今日は、大変貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 「教職員の笑顔が子どもの笑顔をつくる」という言葉が心に残りました。若い先生が多い職場であるため、日々パワーをもらっています。久しぶりの中学校ということもあり、自分自身が学ぶことが多いです。校長先生のリーダーシップのもと、公表会という1つの目標に向かってチームでつぎすすむ職員集団は心地よいです。職員のパワーが子どもたちのパワーにつながっています。ICTの活用も進んでいてついていくのが精いっぱいですが、積極的に推進しています。後半に例があがっていた性暴力については、研修を行い未然防止に努めています。教職員の未来をつぶさない、子どもの心を傷つけないためにも同僚性を大切に、気を配っていきたく思います。
- ・ 若手の教員のやりたいことを後押しできるような話ができる教頭でありたいとあらためて思いました。どうしても、過去の自慢話をするつもりはなくても、過去の成功体験や苦労した話をもとにしてしまいがちなので、そうではなく、何が大切なのか核心を明確に伝えるようにして、逆に相手の話を主に聞くことを大切にしなければいけないと感じました。暖かい雰囲気のある職場環境、職員集団を作りたいと願って働いてきました。こちらの動きをみなさんが認めてくださり、こちらの話に耳を傾けていただけ下さることに日々感謝しながら勤めています。これから

も職員がお互いに、意見を交わしながら仕事に打ち込める環境を大切にしていきたいと思えます。

- ・ 若手がやりたいと考えていることの後押しができるように、これからも、小さな一歩を見逃さないで褒めて、承認したり、感謝を伝えたりすることを継続していきたい。また、教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添うことで、職場の笑顔さをさらに増やし、子どもたちの笑顔に繋がるようにしていかなければならないと、強く感じました。実践につなげてきます。
- ・ 教員になりたい若者は一定数いると思うが、世間の教員という仕事に対する評価が低いから、そういう若者も不安になるのだろう。以前と比べて教員という職業は特別なものではなくってのに対して仕事の種類や量はほんの少しずつ減っていかず、地域や家庭から求められるものは増えたり、難しいものになったりしている。それに対応しながら超過勤務を減らすために、一部の職員の仕事を減らして、他の人に背負わせているような面もある。このままでは若者が教員を長く続ける気持ちにならないのも無理はない。これから教員という職業が特別に尊敬を集めるものになることは考えられないのだから、これまで学校が善意でやってきたことも、家庭や地域社会に移行していける世の中を作っていかなければならないと思った。GIGA スクール構想が進まない背景に、ベテラン教員が二の足を踏んでいることがあると思う。ICT はきっと素晴らしいツールであると思う。しかし、学生時代を含めて数十年そういうものを使わずに仕事をしてきた人が、教員人生も残りわずかとなった今、全く違う方法で仕事をするのは難しいだろう。研修会はあってもそれは本来の業務に加えて行うことになる。研修を受けたとしても、ことあるごとに誰かの助けを借りないと簡単な仕事もすすめられないというのは大きなストレスである。もっともっと時間をかけてすすめるべきだと思う。
- ・ 教頭として求められていることを再確認することができ、すぐにでも実践していけることは、明日からでも心がけていこうと思いました。
- ・ 職員が相談しやすい、話しかけやすい雰囲気づくりに努めたい。そして、職員の心に響くよう話をしたい。
- ・ 管理職の知識をアップデートすること。教職員の心に響く言動ができる人であり続けたい。内容は一つ一つ重いが、それだけやりがいがあると感じた。
- ・ 「あなたの笑顔で、子どもたちも笑顔に」とても理解でき共感できます。子どもたちが、先生を気遣うようなことがあってはいけません。子どもらしく笑顔あふれるように活動できることが、子どもたちにとっては幸せなこと。たとえ忙しとしても、子どもたちに忙しさを感じ取られることがないようにしたいし、改めて、子どもたちの笑顔のために、職員一同取り組めるようにしたいと思いました。
- ・ まずは自分がゆとりをもてるようにし、広い視野をもちたいです。
- ・ 現在、教職を目指す方、また若い先生方、本校の教職員に、私はどのようにうつっているのだろうかと考えました。もう一度、またはこれからもこの学校で働きたい、この仕事を続けたいと思える職場環境にできているのだろうか。温厚な人間で、温かいだけでなく、頼れる人間としてうつっているのだろうか。私と勤めることが、教職員の学びにつながっているのだろうか。など多くのことを考えさせられました。ありがとうございました。
- ・ 若手職員の素敵な笑顔を見ながら、自校の職員の笑顔を感じていました。管理職自身も笑顔でいるのかと自問しました。忙しい中でも、子供の前、保護者の前、そして何よりも職員(チームメイト)の前では、元気で明るくしたいと思いました。情報のアップデート、教育の時事ネタにも精通し、職員から信頼を得られる教頭でいたいと思

いました。日々の劳いの言葉をいただき、ありがとうございました。

- ・ 動画を視聴しながら、私が以前「この教頭先生がいると不思議と安心して働けるなあ」と感じた教頭先生がいらしたことを思い出しました。今、その教頭という立場となった自分が、あの頃の教頭先生のような存在になれているかは分かりませんが、子どもたちはもちろんのこと、職員にも“自信と安心”を与えられる存在でありたいと改めて思いました。大変学び多きメッセージでした。ありがとうございました。
- ・ 全員挙手、ハンドサイン等、今までの当たり前を当たり前としない、子供を主体とした新しい価値観を職員と共に積み上げていかなければならないと改めて感じています。私たち教員や子供達のことを真剣に考えてくださっている事が久々と伝わって来ました。ご多忙を極めていると存じますが、ご自愛ください。今後ともよろしくお願ひいたします。
- ・ 自分自身の「当たり前」を絶えず疑いながら、「謙虚・誠実・感謝」の気持ちで、全職員・児童生徒に向き合っていきたいと決意を新たにすることができました。職員が笑顔になり、児童生徒が幸せになるための指導・支援に邁進できるようにするために、今年度特に、①徹して聞き、思い・願いを受け止めた上での納得感ある調整を行うこと、②職員一人一人が「思いを受け止め、他とよく連携することのよさ」を実感できるようにすること、に力を入れていきます。ありがとうございました。
- ・ 子供たち1人1人を尊重していないと考えられる姿として、4つの例を示されましたが、自分がこれまでやってきた内容も多く含まれていたため、ドキッとしました。今後はそのような視点をもって、授業参観、助言をしていきます。また、管理職に対しての様々なアンケート(先生方による)の実際を示していただいたので、できているところは継続し、できていないところは取り入れたり改善したりして、管理職としてレベルアップしていきます。青木先生の語り口調がとても聞きやすく、かつ分かりやすく大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 子どもも教員も笑顔で学校生活をおくれることを大切にするために、よりそえることを大切にしていきたいと思えます。また、自分が笑顔で子どもや教員に接することをこれからも大切にしていきたいと思えます。本校職員の不祥事につきましては、本当にいろいろな方に御心配をかけました。自分たちが教職員であるという意識を再確認し、子どもたちの学校生活が安全で、充実したものとなるように全職員で一丸となって取り組んでいます。保護者、地域の方のご協力もいただき、進めていっている現状に感謝しています。今後も職員一同で力を合わせて信頼を取り戻していきたいと思えます。
- ・ 元気が出ます。教頭として、教職員の笑顔、子供たちの笑顔を支える存在であり続けていきたいと感じることができました。ありがとうございました。
- ・ 児童生徒に寄り添う教職員を育てるために、寄り添う管理職でなければならぬと強く感じた。昨今、教職員の想像を絶する不祥事が多発していて、保護者だけでなく子どもたちとの信頼関係を築くことも難しくなっているように感じる。未然防止に徹底して努めていきたい。ICT 教育をはじめ様々な指導が求められる中、教職員の資質向上をめざすために組織力の向上は必須である。チームで取り組める職員の間関係、風通しの良い職場環境をつくっていくことが、全てにおいてプラスの効果があると確信した。
- ・ 教頭として、信頼されるような仕事、声掛け、温かさをもたなければいけないと思えました。職員室の担任として、笑顔で、そして、的確なアドバイスができるように努力します。タブレットの国からの補助も出るので、ありがたい

と思います。少子化が進み、本校も人数が少なくなっていますが、楽しい学校をつくって、将来の希望をもてる子供に育てたいです。

- ・ 教頭には目に見える結果以上に非認知の能力を発揮する大切さを再確認した。
- ・ 教頭になって3年目、教職員に対して、笑顔で接すること、否定的な言葉を遣わないこと、まず話を聞くことを心がけています。しかし、仕事が山積してくると表情が陰しくなっていることが自分でもわかります。職員に「教頭先生、お疲れですか?」と心配されてしまい、猛反省です。「教職員から心配される教頭」ではなく、「教職員から信頼される教頭」を目指して、笑顔を決やさないようにしようと思います。また、情報のアップデートについて、忙しさを理由に疎かになっていると感じています。「学び続ける教師」を支援するためにも、自分自身が学び続ける教師でなくてはならないと思いました。貴重なご講話をありがとうございました。
- ・ 厳しい時代だと、本当によくわかり、苦しくなった。身が引き締まった。教頭の中に、動画にあるような視点を満たす人は何人いるのだろうか。私なんか教頭をしていいのかわからない。自身が全くふさわしくないことや自身の甘さを突き付けられたような気がして、同僚にも、児童にも、岐阜県にも申し訳ない思いがした。でも、仕事が山積みで、すぐにやめることを決断することはできない。夜の職員室で、一人で動画を見ながら少し涙が出た。何も優れた能力はないが、学校や子どもたちが好きな気持ちは持っているつもりなので、同僚にできるだけ迷惑をかけないようあと2年、60までは全力で勤めたいと考えている。貴重なお話をありがとうございました。期間中に、もう2~3回見せていただき、じっくり考えたいと思います。
- ・ 「教職員の笑顔をつくり、子どもたちの笑顔をつくる」まさに教頭としてこのことを絶対に忘れずに仕事をしていきたいと強く感じました。そのためにも教職員にも子どもたちにも積極的にコミュニケーションを図っていきたく思います。常日ごろ、私自身も心がけていることですが、教職員に感謝を伝えること、承認することを大切に、必要なことはしっかり叱る、指導できる教頭であり続けたいと思います。また、「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」については、具体的に話せる教頭になれるよう日々、学び続ける姿勢で職務を遂行していきたいと思っています。
- ・ 1人の人間として尊重しあたたかい眼差しで寄り添える教職員を育てるために、管理職である私が教職員を尊重し寄り添うことが大切であると感じました。残念なことに、最近は信じられないような教職員の不祥事が多すぎます。信頼を失ったと言い切られても仕方がない状況です。ICT教育をはじめ現場はなかなか多忙が解消され内面もありますが、一人一人の強みを管理職が理解し、組織で取り組んでいくことが、危機管理や風通しの良い職場環境にプラスに働いていくと感じています。まずは、私自身が笑顔でいられるよう努めていきたいです。
- ・ 若い先生が大変多く、また60歳を超える常勤及び非常勤講師の先生方に支えられている本校の職場で、どの職員も自分の持ち味を発揮し、今の時代を生き抜く子どもたちに確かな教育を提供するためのヒントをたくさんいただきました。子どもたちに寄り添う先生の熱意に寄り添う教頭でありたいです。
- ・ 教職員を笑顔に、それが子どもを笑顔にするという言葉が印象に残った。
- ・ 教頭としての今の自分の姿を改めて見つめ直すことができました。先生方の笑顔のために、そして、子供たちの笑顔のために、自分自身が行動で示した方がよいこと、示さなければならないことなどを示唆していただきました。子供たち、保護者、地域の方々、そして、職場の先生方

にとっても、近い存在でありたいと実感しています。ありがとうございました。

- ・ 学校の教職員の皆さんが笑顔でやりがいをもって頑張るためには、教頭の笑顔とゆとり、寄り添い、承認、感謝が大きな原動力であると再認識しました。しかし、青木総括監がお話しされたように、具体的に語り伝えられているかと振り返ると、まだまだ抽象的で十分でないと感じました。本当にその先生が欲している言葉や支援とそのタイミングを考えながら支援を行い、一層寄り添い温かく働きやすい職場を作りたいと思います。
- ・ 若い職員、ベテランの職員、県費会計年度任用職員、町費会計年度職員等、どの方と接していても、すごいなぁと感じることが確かにある。分からないことは、自分から尋ねることも多々ある。互いに苦手なところは補い合って、学校に関わるすべての人々の幸せのために自己を発揮していくことの素晴らしさを実感している。今後は、学び合ったことを自分から発信して、より質の高い教育活動が展開できるようにマネジメントしていきたい。具体的に今、社会科の授業実践で「個別最適学びとはどのような学びなのか」を実践しながら子どもたちの学びの様子や発言内容、他者との関わり具合等をもとに検証している。本校では、生徒指導事案や保護者対応等で考え合いたい事案が生じた時は、即時に「ちよい研」を実施している。その場を使って、私自身が実践して感じたことを発信していきたいと考えている。このような、日頃の自分自身の働き方を省察する場を設けていただき、誠にありがとうございました。
- ・ 今、教育現場での問題を多岐にわたって話題に挙げていただきました。児童の反応については、耳が痛く感じました。元々ツールの一つだったはずが、評価が行いやすいという点で結果を追求してしまったと感じています。価値観も変わってきていることを念頭に置いた指導を心掛ける必要があると感じます。不祥事事案についても定年や採用状況についてなど、そのほかの事案もすべてアップデートの感覚が必要であることを心掛けていきたいと思えます。日頃の業務をこなすために、最新の情報になかなか気づけない場面も多く、大変直感させていただきました。ありがとうございました。
- ・ 「一人一人を尊重し、あたたかい眼差しで寄り添う」今の自分にできているのかと、自問自答しました。寄り添い方は、馴れ合いでも、放任でも、厳格すぎでもだめで、やはりその人の人間性が大切です。一人一人をよく見る、対話する、そこに、それを受け止める管理職の健康で健全な身体や余裕が必要だと思いました。また、「知らなかった」では済まされない、犯罪が起きないように、情報をアップデートし職員に情報を共有することは、職員や子供たちを守ることもつながります。さらに、情報化も進みます。管理職として、私自身がこの先の時代を見通した最新の情報を学びとり、先生方と情報共有して、笑顔がたくさん見られる学校の要として、努力していくことの大切さを改めて感じました。
- ・ 今後は考えるうえで、とても参考になる内容でありありがとうございました。自分は、今年度で役職退職をする立場なので、残りの期間でどのような選択をするのか考えていきたいです。教師の仕事は好きなので、子供たちに貢献できるようにしていきたいと思えました。また、残りの期間で、自分の経験値から職員に伝えていけることは伝えていったり、教頭としてできることを考えていきたいと思えました。
- ・ 知りたい内容を端的にまとめて話していただけた。
- ・ 教頭の笑顔が職員室の雰囲気をつくるということを胸にどの職員にとっても居心地のよい職場を作っていきたいです。

- ・ 教頭職に就いて3年目、日々、課題と感じていることに対してご指導をいただけたように感じました。子どもを本当に尊重しているといえるのか、教職員のための思って指導すべきところで指導できているか、若手職員が教職の魅力を感じながら働けるよう組織として支えているか等、これからも自問自答しながら、管理職という責務を果たしていきたいと思えます。ご指導ありがとうございました。
- ・ 当たり前という言葉は何度も冒頭に言われておりました。本当に当たり前のことだと思っています。なぜ、今総括監がその言葉を強調されたかを考えました。つまり、当たり前のことも、県は言うてこなかったとの反省があるのではないかと。そして、当たり前の事も、知っていながら、知らないふりをして目の前の業務に逃げてしまう、その上で業務の多さを言い訳にして当たり前ができなくても仕方ないと、自己防衛に走ってしまう思考回路に陥っている教頭、校長が多くなっている、と言いたいのだけれど、婉曲的に言われているのではないかと考えました。岐阜県の教員は「いい子」が多く、不満を持ちながらも我慢して教育行政に納得しないけれど、目の前の子どものために働いてしまっている。それを知りながら、知らない体でその勤務形態を強要するような県下の教育現場。人的補償も給与優遇もなく、現場の職員の頑張りや、意識改革を謳って頼る状況が勤務市では続いています。市や県は予算がなければ動けないとは思いますが、私は当たり前を実行しなければ意味がないと考えているので、教頭会から意見を聞きたいという点に希望を持ってお伝えしています。現場の当たり前は、人的補償が2倍なら、2倍職員の笑顔が増える、です。1.5倍なら1.5倍増えます。当たり前です。行政にどう繋がるか、政治のことは分かりませんが、現場に当たり前を伝える以上、行政の当たり前にも取り組んで欲しいと感じました。今回の総括監のお話は何の違和感も感じませんでした。全くその通りです。現場でできることを私はやっていこうと思っています。県も同じ思いでやって頂いていると信じています。
- ・ 自信がなく日々不安であった気持ちが落ち着きに変わる素敵な話でした。自分がすべきことがはっきりしたと思えます。先生方が子ども同様に一人一人が自信を持ち、アイデアを出して仕事ができるよう支えていきたいと思えました。ありがとうございました。
- ・ 教員採用試験の募集の言葉を「同僚」「管理職」に置き換えることから始まり、私の心にずっと入ってくる研修内容で、たいへん勉強になりました。現任校では利他的な職員ばかりで私の方が助けていただいているばかりですが、研修にあったように、「信頼できる管理職に」「職員に信頼されていると感じてもらえる管理職に」を心がけながら、具体的に職務に取り組んでいきたいと思えます。また、数年後に60歳となりますが、第二の人生についても考えるきっかけをいただきました。ありがとうございました。
- ・ 定年延長にかかっているいろいろな働き方の職員が出てきています。実際、本校でも再任用ハーフと高齢者部分休業の職員が1名ずついます。小学校のため、教員の配当数としては担任扱いとなります。(本校では、学級数+教頭、教務、生徒指導)そのため、他の職員がその分を補う形となっており、負担が増えています。中学校への配置ならまだしも、小学校に配置するなら、非常勤講師を加配とする制度をしっかりと整えていただきたい。一人一人を大切にしたいという思いと負担を増やしたくないという思いが両立できず、困っています。
- ・ 働きやすい職場環境を作るために、職員一人一人を見守り、声をかけられるきょうとうになりたいと感じた。
- ・ 改めて教頭という職務の重みを見つめ直し、生徒、保護者、地域、そして何よりも同僚の先生方に信頼される教頭を目指そうと気合いを入れることができました。
- ・ 職員の笑顔のために尽くすこと、それが子どもの笑顔につながることで、そのために何を大切にしていけるのか、具体的な資料等もあり、考えることができました。ありがとうございました。
- ・ 管理職としての在り方、GIGA スクール構想のこれから等が、非常に分かりやすく「明日から実践しよう」と元氣な気持ちになれました。
- ・ 自分の立場であるべきことがきちんと見えました。ありがとうございました。
- ・ 先生方の笑顔を通して子どもたちを笑顔に、というお言葉に込められていたメッセージは、自分が教員になりたいと思った原点と重なるところがあります。とても心強く思いました。
- ・ 子どもたちにも、現場の先生方にも「一人の人間」として、温かく接して来られたことが伝わるような講話でした。「指導」という名のもとに、なんでも否定や人格の否定と感じてしまうような接し方で心を痛める先生がいる学校を作りたくないと改めて強く思いました。また60歳以降は、収入面の話がありましたが、私自身であれば「収入よりも、一人の人間として扱ってくださると伝わる場所なら働く気持ちを持っている」という実感をもっております。貴重なお話をいただきありがとうございました。
- ・ 改めて教職員に寄り添う そして 信頼される教頭になっていきたいと感じました。
- ・ 最新の教育に関する情報を常にアップデートしていく必要があることを再認識しました。どのように行っていくのかは私の課題です。
- ・ 端的でわかりやすく、愛情のこもったメッセージをありがとうございました。私たちに求められることが本当に1年1年増えており、その中でも重要なことを優先的にお伝えいただき、頭がクリアになりました。ありがとうございました。
- ・ 本校はありがたい事に、若手の職員にやる気と元氣があります。昨年度より学級数が減り、単学級が多くなる中、授業研究や生徒指導、保護者対応など一人当たりの仕事量は減っていない状況ですが、職員同士で声を掛け合い、なんとか1学期が終わろうとしています。1学期終業式では、子供たちは勿論、職員に対しても校長先生からうんと褒めていただこうと思っています。「教職員を一人一人の人間として尊重する温かい眼差しで寄り添う」このことを心掛けて来学期も頑張ります。
- ・ 教頭としての在り方や、今後考えていかなければならないことを改めて学ぶことができました。
- ・ 教頭としての役割を再確認しました。
- ・ 子どもたち一人一人を尊重するために「大人にしないことは子どもにもしない」と聞いたことがあり、子どもたちを尊重する態度や行動を見直していくことは自分もとても大切だと思っています。また、先生方を尊重することはもちろん、大変だとされる教師の仕事を続けている先生方は同志として心強いです。ただ、指導する立場で考えると、現代は変化が早く、アップデートしてもらうには理解・共感してもらう必要があると心がけていますが、なかなか難しいと思うし、自分も勉強不足だと感じることもあります。他に、GIGA スクール、信用失墜行為、再雇用など、タイムリーな話題も多くとても勉強になりました。
- ・ 管理職として、必要なときにはきちんと叱ることも大切だと改めて感じました。教員としてやってきたことを活かし、相手を大切にすることこそ認め、励ますとともに、指導すべきことはきちんと指導して、先生を育てていきたいと思えます。
- ・ 60才をまさに越えようとしている今次の働き方について自分自身も考えているところでタイムリーであった。自分自身が若い人の力になっているか心配であるが、気を引き締めて頑張ろうと思った。

- ・ 職場環境の原動力はコミュニケーションであるという言葉が印象に残った。教職員の言動に共感、傾聴し、学び合える職員集団をつくりたいと改めて感じた。この1学期間、教職員全員と毎日一言以上は交わすことに努めてきた。個々の教員の頑張り感謝の言葉をかけ、今後も寄り添っていききたい。
- ・ 日頃悩んでいることや不安に思っていることが講話にありました。実際に、職員集団にうまく意図を伝えられなかったり、年配の教諭に対して適切な指導がしづらかったりしています。日頃の感謝の気持ちの伝え方がよくないのだろうと、改めて思いました。また、明確な指示や指導ができていないのも原因だろうと感じています。まずは、一人一人に寄り添い、日頃の感謝の気持ちを伝え、日々の業務をねぎらった上で、ゆっくりと話していこうと思えます。
- ・ 学校の教職員の担任となったつもりで、教職員はもちろん児童生徒一人一人を大切にできる教頭でありたいと感じました。
- ・ 教頭として、その日その日を精一杯務めることの繰り返しでここまで来ています。青木先生のお話を拝聴し、私自身が忙しいことを理由に最新の教育情勢や法律、行政等について十分勉強できていないことを反省しました。今日からアップデートを心がけていきます。ありがとうございました。
- ・ 「一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う」ということを、子どもに対しても職員に対しても意識していきたいと思いました。承認、感謝をもっと言葉で伝えていくことも必要だと感じました。本校では、子どもたちが自ら自分の学び方を選択する学習を大切にしています。放課後には、そのことについてのミニ研修が職員室で始まることも少なくありません。いつもその中にいられる教頭でありたいと思っています。お話から自らも学び続けアップデートしていくことが大切であると思いました。
- ・ 子どもを、職員を守るために、正しく「今」を知り、理解することの大切さ、一人一人の職員の心に響く指導をする大切さについて学びました。日々、職員一人一人の方とコミュニケーションをとることで、小さな変化に気づき、どの先生方も安心して仕事に向かうことができる、働き甲斐のある職場づくりを目指しています。本校の職員は、本当に熱い思いをもち、チームとして互いのことを考え、つながりを生み出しながら子どものために頑張ることができます。私が今、あるのは、職員のみなさんのおかげです。では、私は職員のために何ができるのか。今の私は、自分の感覚で動いていないか、その働きかけは、自分よがりになっていないか、本当に心に届いているのか考えました。もっと、最新の情報(教育に関すること、危機管理に関すること、働き方に関すること)を、正しく理解するために、学び続けることが必要だと感じました。また、指導したその後までをしっかりと見届け、先生方が充実感を味わい、子どもに向かっていくエネルギーを貯めていけるようにしていくことも、今後さらに努めようと思いました。
- ・ 自分自身が、日々の業務に追われ過去の実践に捉われていないかと反省しました。自分をアップデートすること、先生方のために頑張ることを再確認しました。お話が聞けて、明日から頑張ることも明確になりました。ありがとうございました。
- ・ 雲の上の方が私たちに寄り添ってくださり、畏れ多いことだなと思いました。オンライン研修がうれしいことは、貴重なお話を何回でも何回でもいつでもどこでも拝聴できることです。通勤中にも毎日拝聴し、勇気と元気で希望をいただきました。子どもたちのためにも、一緒に働く教職員の仲間のためにも、「この学校ですべて働きたい。」とみんなが思えるような職員集団になれるように頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・ 子どもたちを一人の人間として尊重した支援ができていくか、日々の支援を振り返り検討していきたいと感じました。また、ICTの活用については、より積極的に進んでいきたいと思いました。働き方改革を進めながら、働きがいを感じられる職場づくりに努めていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・ 児童、職員一人一人を大切にするとどうということか、改めて考えさせられました。児童の「同じです」は「何が同じなのか」、「なるほど」は「なにがなるほど」なのかを問い返すことをしているかどうか、学びを形式的にしないことの一つでもあると思えます。教師一人一人が、児童を大事にするとはどのようなことかを、自分の経験を踏まえて職員で考えていきたいと思いました。また、私自身も、「若手の職員を中心に、やりたいことを真摯に聞いて、実現できるように支援をしているか」「児童にも職員にも笑顔で接しているのか」など、様々な点からいろいろ思いました。今年度、新任教頭として勤務をしている中で、「初めてのことから分からないので仕方がない」「仕事が多くて忙しいのだから仕方がない」などを理由して、児童や職員一人一人をよくみて、寄り添った行動をしていないのではないかと自分自身を振り返りました。職員にとっては、新任教頭だから仕方がない、ではないと思えます。児童や保護者にとってはそれ以上だと思います。児童や職員のために、改めて自分のできることは何かを考え、また、児童にとってよりよい未来になるよう、職員と共に意見を出し合い、今まで以上に同じ方向を向いて取り組んでいきたいと思いました。
- ・ 「児童生徒・教職員を1人の人間として尊重し、温かいまなざしで寄り添う」ことを大切にすることが、子どもたちの安心感や笑顔につながり、それが信頼される学校運営につながるということを、今以上に職員と共有していこうと思えます。また、その思いが子どもたちや家庭、地域にしっかりと届くように具体的な取組を提案していくことが、自分の責務だと感じました。また、ICTについては学校内での活用法をさらに交流し、子どもたちにとって有効な活用の仕方、新しい活用の仕方を共有していく必要があると思いました。若手とベテランの職員をつなぐ鍵ともなり得ると思うので、組織的に取り組んでいこうと思えます。ありがとうございました。
- ・ 児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師とは、具体的にどんな教師なのか、また、これは職員と管理職にそのまま置き換え考えることができることを教えていただきました。すぐに実践していきます。ありがとうございました。
- ・ 全員挙手、ハンドサインへの違和感、共感します。しかし、これを良しとしている根深い価値観を覆すことの難しさも感じています。
- ・ 教育環境が激変している中で、生きがいをもって教育に当たる教師を育てる難しさを感じながら聞いていました。
- ・ 「児童生徒(教職員)を『一人の人間』として尊重する」…言葉としては「当たり前」のことと思っていたが、「その具体的な姿を」と問われると、ハツとする自分がいた。日々、様々な業務に追われることが少なくはないが、生徒の様子、そして所属する教職員一人一人の取組や変容を捉え、それぞれのよさやさらに伸ばすべき点を見付けることができるように努めていきたいと思った。そして、それらを伝え共有(「届いてなんぼ!」)しながら、共に高め合える「学校」となるようにしていきたい。
- ・ 教頭職1年目として、毎日手探り状態ですが、教職員との人間関係づくりを大切にとは考えて努めています。職員が多く、なかなか全ての方に同じようにということは難

しい中、「誉める・認める」「感謝する」ことはその都度心がけていますが、「叱る」「助言する」ことで育てることはまだまだできていません。あたたかいまなざしで寄り添える管理職となれるよう、自身も学び続けていく姿を示しながら勤めていきます。目指す姿を具体的に示していただけ、この3ヶ月振り返ることができました。ありがとうございました。

- とても心に残る講話でした。どの講話も深く共感し、また、そのような姿を目指したいと思うものでした。一度ではなく、何度か聞きなおしました。何度か聞きたいと思うものでしたので、心に残る部分をメモしながら聞きました。特に私は管理職になり2年目ですが、自分がお世話になった教頭先生の姿には到底足元にも及ばないと思っています。日々、自問自答の毎日です。ただ、自分の力を先輩と比べて落ち込むのではなく、一つ一つできることをこつこつと取り組みたいと思いました。先生方も生徒たちも、一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教頭になっていかなければならないと感じました。職員室の担任という気持ちで、先生方がやる気をだせる雰囲気をつくり、やりたい！ということの後押しできる教頭になっていきたいと思っています。ありがとうございました。
- 「児童生徒」を「教職員」に読み替えて…という説明は、とてもよくわかるお話でした。忙しさはあるものの、一期一会で同僚となった先生方、子ども達と、誰もが楽しく学べる・過ごせる学校をつくるために役に立てるよう、気持ちを再認識することができる講話でした。
- 教頭職6年目になりますが、毎年仕事の内容、子どもの問題、保護者の問題が変わりその対応が本当に大変だなあと最近特に感じています。また、若い職員も増えてきましたが、子ども掴みが苦手な教師に対しての言葉かけに苦慮しています。そんな中で、職員全員で学校行事や授業に対して一緒に考え実践し、うまくできた時の喜びは、管理職になっても同じでうれしいものです。一人では何もできません。つらくても、前向きに考え、明るい働きやすい環境づくりに努め、笑顔で取り組んでいきたいと思えます。講演ありがとうございました。
- 雑多に押し寄せる業務に忙殺される毎日です。自分の教頭としての役割について、青木先生のお話を聞き、その重要性を改めて感じることができました。学校内でのパイプ役として、校長とのやりとりは多いものの、職員全体への気配りや助言、指導など、自分は足りなかったのではないかと、思います。職員が「働きやすく笑顔あふれる」職場にするために、もっとできることがあるのではないかと、考えていきたいです。また、信頼される管理職となれるように、自分の言動も顧みていきたいと感じました。職員室の「担任」として、若手職員にも寄り添い、頼りになる教頭になりたいです。一方で、職員の交通事故や軽微な違反、個人情報取扱いなど危機管理への意識の弱さがあるため、そうした面では厳しく指導ができるよう心がけていきたいです。ありがとうございました。
- 日々の仕事の忙しさで、目の前にあることをこなすだけで精一杯ですが、教頭の仕事の大きさに改めて考えさせられました。子どもの幸せのために、職員の幸せを常に考えられる教頭でありたいと思いました。そのため情報の収集も力を入れなければ、と思いました。ありがとうございました。
- 今年度から教頭として働いています。(教職大学院2年目)学校現場が多忙の中、先生方と子ども達のために何ができるのだろう、と考え、少しでも役に立てよう研究実践を進めています。しかし、校内では抵抗勢力が無いわけではないので(憶測です)校長先生から「まずはやってみなさい」「ダメだったらまた考えればいい」と背中を押してくださる言葉をいただき、その言葉のお陰で夏休みまでなんとか実践を進めていくことができました。この

言葉は、まさに、講話の中の「承認」にあたる言葉だと実感しています。また、今年度赴任して、職員から「〇〇をやってみよう」という主体的に動こうとする言葉を聞くことが少ないと感じています。働き方改革と働き甲斐とのバランスが難しい時代ですが、私のように学校現場で夢や希望をもって働くことができる職員が一人でも増えるよう、職員への「承認」を大切にしたい関わりをしていきたいと改めて感じています。承認＝「あなたのことをちゃんと見ていますよ」だと考えます。見えない部分の小さな努力や変化に気づき、言葉で伝える営みを関係づくりの土台としていけるよう務めていきます。GIGAスクール、不祥事への対応など経験値と知識のアップデートが管理職にとって重要な資質だと理解できました。学べる環境を与えていただいているこの2年間の日々を1日1日大切に過ごし、大学での「知」を現場で還元できるように頑張ります。ありがとうございました。

- 「一人の人間として尊重する」ということについて、「本当に現状でいいのか」とお話を聞きながら考えることができました。教頭として、子どもたちのためになる教職員の人材育成の役割をもっと果たすように自分の行動を見つめ直し、実践したいと思いました。
- 子どもを一人の人間として尊重し、温かいまなざしで寄り添う指導の在り方を振り返ることができた。全員挙手、授業中における児童生徒の「どうですか?」「同じです」などの画一的な反応を求めてきたことを見直し、子どもたちの置かれた状況を把握し、一人一人に寄り添う指導をしていく。教員が管理職に求める像、例えば、管理職が子ども知ろうとしているか等、管理職は教員の求めていることに真摯に受け止め、共に汗を流すことができるように教員をサポートしていきたい。
- 教頭の視点で考え、最新の情報を入手しながら、適切な時期に必要なことを伝えていくことが、先生方の一助に繋がることは意識していましたが、先生方が望むことを丁寧にとらえ、独りよがりにならない支援が必要であることも改めて感じました。判断基準の曖昧さは、共通理解・共通行動にブレが出て、学校の運営や職員関係に支障を来すことがあります。「知」と「情」を持ち合わせ適切に判断しながら学校運営を支えていけるよう、更に努力していきたいと思いました。
- 職員室の担任として、職員室を笑顔であふれる場所にしたいと思っています。また、教頭が率先して動く姿を教職員に示すことが、信頼を得ることだと思います。坂本小に努めていってほしいすべての職員の皆様「この職場で働きたい」と思っていただけのように、日々、感謝と愛情をもって先生方と接していきます。
- 教頭として何ができるのか、今一度考え直す機会となりました。もう一度視聴して、子どものために、教職員のためにできることを考え、実践していきたいと思っています。ありがとうございました。
- 紹介された信頼できる管理職、信頼できない管理職について、自分自身を振り返る視点にしたいと思いました。毎日、全教職員に声をかけるようにしているので、これからも継続したいと思っています。
- 「一人一人を大切にすること」を改めて、自分の実践やこの頃の授業を通して考えることができました。それをどう職員へ伝えていくか、実感できるようにしていくか考え実践していきたい。また、職員のウェルビーイングにも当てはまる。職場環境の改善について求められていると実感した。
- 教頭は職員室の担任ということによく聞きますし、実際、多くの先生方が教頭を頼りに(教頭を利用して)働いているように感じています。担任の時は、子どもたちと真剣に向かい合い、共に学級を高めていこうと、時には熱く伝えながら取り組んできました。ただ、教頭になって、そこは

大事だと分かっているが、いろいろな人間関係の中、やはり躊躇してしまうこともあります。一番エネルギーがいるのは「叱る」時というのは、その通りだと思います。その部分はたしかに自分ではできていないように感じています。今、自分が取り組んでいることは、自分からの声掛け、先生方が努力していることへの認め・称賛です。担任時代、自分の頑張っていることを認めてもらえたときはうれしかったし、自信になりました。見てもらっていると思うだけで前向きになれたように思います。だから、それだけのことですが、そこは大事にしていこうと思っています。あれもこれも大変な役職だと思いますが、先生方が少しでもがんばろうと感じれるように、これからがんばっていこうと思っています。講演をありがとうございました。

- ・ 教頭として自分に何が足りなくて、今後何を大切にしていけばよいのか、しっかり方向性を示していただき、自分のやるべきことが明確になった気がしています。ありがとうございました。出来れば、この動画のプレゼンの資料を頂けたらと思いました。
- ・ 職員や子どもたちの笑顔を守れるようにしなければならぬと再確認できました。
- ・ 子どもたちや職員の笑顔を守らなくてはならないと再確認しました。
- ・ 子どもたちと職員の笑顔を守ることの大切さを再認識しました。
- ・ 忙しくてもあたたかさを忘れず、教職員の背中を後押しすること、笑顔にすることを常に忘れないことの重要性を再確認した。
- ・ 先生方の笑顔あふれる職場にすることは、笑顔あふれる子どもたちにつながると思います。そのために、自分自身はどうか、何ができるのかを今一度考えていきたいと思いました。今回の視聴をとおして、改めて考えることになりました。ありがとうございました。
- ・ 教職員(同僚)を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職となれるよう、今まで学級経営や学級経営で大切にしてきたことを生かして努めたいと改めて考えることができた。自分自身も常に学び続けて情報をアップデートできるようにしたい。
- ・ 2年目を迎えてもなお、自身のことでいっぱいいっぱい、共に働く先生方と対話することや先生方に感謝を伝えることが十分にできていないこと、的確に情報を把握し、チームとして方針を定め、すぐに動くことが十分にできていないこと等、まだまだできていないことが本当に多いことを改めて痛感しました。先生方や子供達への貢献度を高める営みを充実させ、学校全体がいきいきとするよう、地道に歩み続けたいと思いました。
- ・ 教職員の笑顔のために働くことが、子どもたちの笑顔につながるというお話、強く共感しました。また、教育時事や法規への強さは、自ら学ぶことを心掛けていかないと身につかないと思いました。
- ・ 自分がしていただいたことのどれだけを、教職員の皆さんに返すことができているか、と思いました。教頭があたたかいと、職員室の雰囲気はよくなる。。。そうでありたいと思いました。また、ICTの活用、主体的・対話的な学び、など時代の流れで求められています。非常に魅力的です。できるところから、少しでも取り組んでいきます。自分にできることから、背中を押していただきました。ありがとうございました。
- ・ 本校にも毎年3名ずつ初任者が配属されています。笑顔で子供たちに向かうことができるようフォローしていきたいと思っています。性暴力について、日々新聞やテレビ等から流れるニュースのなんと多いことかと思えます。まずは、本校から児童を傷つける職員を出さないこと、職員とのコミュニケーションをとり、風通しをよくすることを心

に刻みました。おっしゃる通り、アップデートしていくため、夏休み前の終礼では学んだことを必ず伝えます。気持ちが引き締まりました。ありがとうございました。

- ・ 教職員の笑顔、子供たちの笑顔、笑顔の学校づくりを大切にしています。先生たちの持ち味を大切にしていきたい。
- ・ 私は苦手なことが多く、そのため新しい職場では、迷惑をかけています。でも、校長先生が私の特性にいち早く気づいてくださり、声をかけてくださいます。そのお掛けで、仕事をこなすことができています。そんな管理職でありたいです。職員室に目を向けると、私の声掛けで、救えそうなことやうまく行きそうなことがあります。ためらわずに今は声をかけることを意識しています。そのときに気を付けていることは、職員を一人の人間として尊重することです。教員としてまだまだな面はあるけど、その人も家に帰ればお父さんでありお母さんです。もしくは大切な息子さんであり娘さんです。よく子どもを指導するとき、その背景にある保護者の顔を思い浮かべて、指導することを意識するように職員に伝えますが、私たち管理職が職員を指導するときも同じです。言わねばならないことがあるときは、一人の人間として尊重し、その人の背景のご家庭やご家族を尊重することで、パワハラは避けられると思います。心配しているのは、心を込めて指導する管理職にたいして、心ない対応をする職員がいることです。特に、管理職より経験年数や年齢が上の方にありがちです。管理職も一人の人間として尊重してもらうことは甘えでしょうか？そんなことが起きない職場にしていくためにも、私は自分をさらけ出して、これからも本音で職員と語っていききたいです。青木先生の温かいお話しに大変感銘を受けました。ありがとうございました。
- ・ 「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」の具体について、若い職員をはじめベテランも含めて、また私自身が考える機会をもちたいと思います。また、児童生徒を教職員に読み換えたとき、教職員が生き生きと子どもたちの前に立つことができるよう、人事評価を通じた職員とのコミュニケーションを含めて、小さな一歩を誉めるようにしたいです。こうしたことの積み重ねが職員のキャリアアップにつながるようにしたいです。またICT活用についても、学校内格差ができないよう、私の得意なICTスキルを生かしてリーダーシップを発揮していきます。
- ・ 教頭として、教職員も子供たちも笑顔になれる学校にしていきたいと改めて感じました。先生たちにも子どもたちにも寄り添って一緒に成長していきたいと感じました。また、ICTもより有効に使えるように勉強をしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 教頭として大切にしなければならないことをたくさんお話していただいたと思います。私も、職員とのコミュニケーションを大事にするように心がけています。特に、自分の基準で話を進めないように、話をよく聴くようにし、相手の立場や思いを理解するように努力しているつもりです。若い先生方がやりたいことが、うまくいくように応援したいとも思っています。でも、お互いに苦しいのは時間がないことではないでしょうか。時短勤務の先生、ご家庭の状況で早く帰らなければならない先生、お休みをとられる先生も多くいらっしゃいます。当然、出張もあります。教頭、教務が補欠授業に入るだけでは足りず、せっかく確保した担任の先生方の空き時間に補欠に入っていたくともあります。本当はいけなないのでしょうか、校長先生にも入っていただいて、職員室に鍵をかけたこともあります。先生方自身の人生が充実していないのに良い教育はできないと思っているので、働き方改革には大賛成です。でも、朝は、勤務時間の開始と共に児童玄関を開けなければなりません。15時35分に帰りの会が終わっ

て、勤務時間の終了は16時30分。保護者への連絡をしたり、会議があったり、次の日の準備もあるでしょう。教育委員会でも、精一杯、できることをしていただいていると思っています。が、先ほどのような現実の中で、どうするとよいのか悩むことも多々あります。今の状況の中で何とかするしかないと分かってはいるのですが、タイムマネジメント、校内での工夫では、限界もあります。どうしたらよいものでしょうか、と書いてしまいます。嘆いていてもどうにもならないので、子供たち、また、先生方の笑顔のために、できる限りがんばりたいと思います。

- 『笑顔があることで、自分もまわりもがんばれる。ともに成長につながる。互いを明るくやりぬくことができる。』など、私たち、教頭の仕事『教職員の笑顔をつくり、子どもたちの笑顔をつくる』は、本当に大切なことだと思っています。そのために、管理職として、一人一人に対応した言動が本当に必要で、どんな場でも教職員、子どもたちの思いを感じて対応していきたいと改めて思いました。また、児童に対しても、教職員(同僚)に対しても、『一人の人間として尊重すること』『温かいまなざしで寄り添うこと』を常に意識し、相手を大切にしていきたいと考えます。やはり、人として尊重することは、相手を思いやり、交流することでよりよい関係をつくりあげていくことにもつながると思うからです。そのために、話にもあったように『具体的に…』を大切にします。そして、最新の情報を得ること、伝えることが、若い教職員を育てることにつながっていることを忘れずにいたいと思います。『一人一人の職員の得意を生かすこと』、『学が合う職員集団をつくること』を意識しつつ、自分自身がこれからも学び続けること、周りを見ること、周りへ広げていくことを大切にしていきたいと思いました。
- 子ども達のために、先生方のために、自分にできることを精一杯やっていこうとあらためて感じさせていただきました。「こんな先生になりたい!」「先生のおかげ!」そんなことを思ってもらえる人間になりたいし、なれるようさらに努力していこうと強く感じました。青木先生、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。
- 若手教員が増えている今、丁寧な指導と寄り添う姿勢の大切さを感じている。見守ることや任せてみることに、時には毅然とした姿勢で道筋を示すことなど、日々心に留めて勤務にあたりたい。
- 教頭としての忙しさ、校務の多様化を感じます。その中で、子どもたちの様子、先生方の様子を気にかけていく必要があり、そうする事で笑顔あふれる学校につながると思っています。経験を活かしてという事がありますが、経験を上回る、想定しないような事案が日々現れるように感じます。教頭もアップデートしながら日々の校務に当たらねばと思っています。
- 「教職員の笑顔をつくり、それを通じて子どもたちの笑顔をつくる」のが教頭(管理職)の役割であるということが心に残りました。また、こんな管理職のもとでは働きたくないという意見の中に、自分も該当する項目があったので、そうならないように気を付けていきたいと思いました。自分は、これまで子どもも「一人の人」として接してきましたが、それが当たり前ではない職員もいるようなので、ハンドサインや決まりきった反応等を見直して提案していきたいと思えます。
- 教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う管理職、という視点で、学校を見つめ、コミュニケーションを図っていかなければ、という意欲をもちました。大変わかりやすいお話をしていただき、明日からまた学校で頑張ろうと思えます。ありがとうございました。
- 青木総括監さんの動画を朝から視聴し、今一度原点に帰ろうと思えます。教頭2年目、毎日忙しくて追われて…でも子供に救われて泣かされて、笑顔と元気をもらってそ

んな充実した生活を送っています。率直に言えば日々の業務に不満や不安がないわけではありませんが、ストレートに思いを届けてくださった青木先生のお話は心に響きました。教職員の担任、そう考えればこれまでの学級経営を振り返ってもいろいろな人がいて多様な考えがあって…当然なことでした。教頭として「その職員のやりたいことを後押しする」ということを特に意識してコミュニケーションをとっていききたいです。そのために、人事面談での個々の目標や思い、健康上のこと、家族のこと等ふまえて先生たちの笑顔につながる「その人らしい教育活動」ができるよう共に創りたいと思います。お忙しい中、ありがとうございました。私も自分らしく日々研修し、いつかは自分の憧れている先生のような管理職になれるよう努力し続けていきたいと思えます。

- 教頭職に就き2年目になりますが、昨年度も今年度も「自分はあまり職員の力になれていない」と思うことが多くあります。「教頭は職員室の担任」と思っていますが、分掌事務の多さを理由に、さまざまなことをおろそかにしていることを痛感しました。今一度、「やりがいを感じる職場」になるよう職員の働き方、生徒への接し方、職員の表情をよく見て、少しでも職員の力になれるよう声をかけていきたいと思いました。身が引き締まる思いでした。ありがとうございました。
- 話を聞くと、どれも「当たり前のこと」でしたし「その通り!」と思うことばかりでした。だからこそ私たちは日常の当たり前を、より丁寧に、大切に取組まねばならないと思いました。一教師として、恥ずかしくない生き方をし、学校の仲間と共に、より良い学校、より良い地域作りに貢献できればと思いました。
- 現在の教育課題や管理職として心がけなくてはならないことが、具体的な資料を基に教えていただきました。今後の学校教育活動や自身の管理職としての声かけ等に生かしていきたいと思いました。
- 日頃心がけていくことを改めて再確認させていただきました。知識のアップデートについては忙しいなど理由をつけず、アンテナをはってしていきたいと思いました。貴重なお話有難うございました。
- 一人一人の子供たちや教職員を人間として尊重し、温かいまなざしで寄り添う教師を日々意識して勤務していますが、まだまだできることがあるともいますので、今後も自己研鑽したいと思いました。
- この職務について二年目になりましたが、改めてこの仕事は人との関わり(職員)が大切だと感じました。主任を務めていた時のように接してはいけないと校長がよく言われますがその意味がよくわかりました。昨年度に比べ仕事内容が少しずつわかりはじめた今だからこそ、先生方に寄り添った仕事ができるように努めていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 教頭として日々大切にしなければいけないことを具体的に教えていただき、自身の姿を見つめ直すことができました。
- GIGA 構想と次期学習指導要領との関係や60歳以降の働き方の確認等、管理職として知っておかなければならないことについて改めて考えさせられる内容だった。今回の研修をきっかけに、自分でも調べてみたいと思った。
- 管理職として、人材育成のために、一人一人に合わせたキャリアプランを共に考え、その人の指導のよさ、対応のよさを具体的に伝え評価していくことを大切にしたいです。教職員にとって職場環境がよくなることで、子どもたちの笑顔につながるのを、感謝の気持ちをもって、よさも、叱ることも誠意を持って伝えていきたいです。
- 「温かいまなざしで寄り添う教師」が大切であるように、同じく「温かいまなざしで寄り添う管理職」がいかに大切であるかを痛感しました。「具体的にどんな言葉?」「具体

的にどんな行動？」という具体を挙げるができなければならないなど思いました。ありがとうございました。

- ・ 教頭の立場に寄り添った熱い励ましをありがとうございました。教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添うことに対する自己の振り返り、ICTに長けていなくても本当に子どもためになっているのか、先生の負担を減らすことになっているのかの視点をもってあたること、知識のアップデートをしていくことなど、すぐにでも取り組んでいくべきことの方角を示していただきました。ありがとうございました。
- ・ 教頭に求められる役割を忘れず、児童生徒、保護者、職員、地域の方々とうき合っていきたいと思えます。
- ・ 具体的に分かりやすい、まさに実践に基づいた内容、語りで大変勉強になりました。「児童生徒(※職員)を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」「子どもも教員も教頭も笑顔」は、管理職の立場で必要不可欠なことは勿論ですが、教職歴関係なく「教員」として、「人」としても大切な立ち返るべくことだと実感しました。また、「当たり前」をどうおもわれますか？」「大人の世界にありますか？」この視点も、今年から3学級4人で担任する「チーム担任制」、「縦横でつなぐ生徒会活動」、自由進度学習・ロイロノートの活用などの「若手が挑みたい授業推進」など新たな取り組みを、昨年度から「何のためにするのか」に立ち返り職員同士、職員と生徒と話し合いながら、職員・生徒と地域の方々へ聞きながらの視点につながっていて、大切であり、これからも欠かせない視点だと再確認できました。教頭として、教員として暖かくも「はっ」と刺激を受け自身を見つめ直す機会となりました。より一層「先生になってよかった」などと職員がやりがいを感じ、生徒達が笑顔で自治的な活動、主体的な学びを積み重ね、成長を実感でき笑顔になれるように、精進していきます。貴重な機会をいただきありがとうございました。
- ・ 笑顔をつくるのが私たち教職員の仕事であることが温かいお話から伝わってきました。「届いてなんぼ」「組織は知で動き、人は情で動く」のお言葉もとても印象的でした。教頭として、言っているだけでは、なかなか効果がないことを実感しています。どうすれば伝わるか、どうすれば動けるかを考えて行動するようしていますが、教職員の協力が日々とてもありがたいです。また、「パワハラを恐れずに指導」は、強い言い方ではなく、丁寧に分かりやすく、端的に話すようにしています。大人に物を言うことは、かなりエネルギーが必要ですし、こじれると修復が難しいです。校長先生に相談し、校長先生のご指導のもと行動するようにもしています。「教頭が温かければ、職員室は温かくなる」ということから、職員室の担任ということも肝に銘じて取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・ 教頭が管理職としてどうあるべきかだけでなく、職員の健康管理にも配慮したお話であることや、子どもを軸足としたお話で、とてもよく分かりました。
- ・ 現在の管理職に求められている役割を再確認できた
- ・ 今、目の前にいる職員に対して自分はどうかであったか振り返ることができた。子どもも保護者も多様化する中で、教師として教壇に立つ若い先生方に、心底やる気ややりがいをもって働いてもらうために、後押しできる教頭でありたいと思った。また、一人一人差別も区別もなく、大切にしたいと感じた。
- ・ 今、求められている管理職の役割を再確認できた。
- ・ ICTを活用した学習の工夫により、今後の学校教育が大きく変化していくことを強く実感させられました。日々若手職員が活用し、児童生徒・教職員にとって有効な活用になっていることも感じながら、自分もこの変化についていけるように頑張らなければ、と思えます。

- ・ 「あなたの笑顔で子どもたちも笑顔に」令和7年度岐阜県教員募集をあらためて拝見し、若い先生方の笑顔の眩しさと、これからの岐阜県の教育を支えていただくエネルギーを感じました。私は教頭として、日頃から、校長の経営方針のもと、職員の皆さんがエンパワーメントを高め、先生方の創意工夫が生み出され、それが発揮されるような環境を整えることを大切にしています。今日、青木義務教育総括監様のお話を聞かせていただき、方向は間違っていないと、再認識いたしました。そして自分なりに、児童生徒を、また、教職員を、一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師の具体を、改めて描きたいと思えました。ありがとうございました。
- ・ 教職員に寄り添う管理職でありたいという思いは同じで、自分の課題でもあります。信頼できる管理職である具体は自分の今を振り返りになりました。教育時事に精通している、若手がやりたいことの後押しも自分に足りているのか振り返ることができました。先生方の笑顔が子どもの笑顔につながるよう日々努力していかなくてはと思います。ありがとうございました。
- ・ 青木先生の講話を視聴させていただいたことで、教頭としての自分を振り返ることができ、大変有意義な時間でした。つい先日、「児童を一人の人間として尊重する」ことの大切さを全職員で共有しましたが、次回の職員会では、どんな言動がそれにあたるのか等具体的な姿を一人一人に思い描く時間をとって、「資質向上ミニ研修」を実施したいと思います。また、自分自身に今足りないことの一つは、教室を見て回ることです。実際に、自分の目で見ないと認めることも助言もできないので、職員育成の点で努めていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・ 「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教師」を具体的に考えてみたときに、子どもたちだけにやらせていることについて、ハンドサインであったり、校則であったり、本当に子どもたちに力をつけることになっているのか、子どもたちを大切にしているのか等を問い直してみることが大切であることに気づくことができました。どこか教師側の都合に、子どもたちを無理矢理付き合わせているだけの部分もあるように感じます。
- ・ 改めて、「職員室の担任」として職員の話をよく聞いたりアドバイスに乗ったり、認め・励ましながらチームを作っていきたいと思えました。
- ・ 今まで当たり前と思ってやってきたことは本当に当たり前なのか、考えていきたいと思った。
- ・ 教頭は職員室における担任の先生であることを自覚し、職員を一人の人間として尊重しあたたかいまなざしで寄り添う管理職となるよう日々努力したいと思います。温かいメッセージ動画を作成していただきありがとうございました。
- ・ 大変温かな内容のお話で、日々の忙しさの中で業務している教頭にとってまさに、笑顔になれるお話でした。明日からの活力いただいたような気がします。
- ・ 管理職として職員とのコミュニケーションをとる場合の配慮や心構えを分かりやすく教えていただきました。職員の考え方も多様になり、相手が納得できるような接し方や言葉かけにより、モチベーションも高まってくると思い、一つでも実践してみようという気落ちになりました。ありがとうございました。
- ・ 職員室の雰囲気づくりを大切に、職員の挑戦を共有し寄り添っていける管理職でありたい。健康第一に働きやすい職場であるようにアイデアをだしていきたい。多様な社会環境の中で複雑化した人間関係への対応への助言、職員を守るために知識も付けていく必要性も強く感じている。

- ・ 本校も再任用の先生方にたくさん働いていただいているので、感謝をしながら気持ちよく勤めていただけるよう尽力したいと思いました。
- ・ 職員の笑顔をつくるために、教頭として邁進しなければいけないと改めて思いました。職員がやりたいことを積極的に汲み取り、挑戦できる環境をつくり見届け価値付けることを大切にしたいと思いました。
- ・ あたたくい眼差しで教職員に寄り添う管理職であるかどうか、今一度自分を見つめることができました。「無理なくていいよ」と私はよく言っていました、これが本当に、若手職員のやりたいことを後押しする言葉だったかという、「任せてもらえていない」「具体的なアドバイスがない」と感じる言葉だったのではないかと反省しました。
- ・ 教員志願者が減少している昨今の状況下で、いかに職員を育てていくことが大切であるか、改めて感じている。声をかけて、コミュニケーションを図ったり、授業のアドバイスをおこなったりしている。教員は一人一人の子どもたちを1人の人間として尊重しながら、子どもを育てていくことが重要であるが、その子どもを育てる教職員が、明るく元気に仕事ができる環境を、私たち管理職が作っていくことを大事にしている。先生方を尊重し、気持ちよく仕事をしていただけるような、仕事環境つくり、職員間の人間関係つくりをしていくことを大切にしていく。
- ・ 若手育成の重要性を再認識しました。頑張りすぎない、自分らしく、と育ててきた子どもが、教員となり、学校を中心となって動かしていかなければならない時代になった時に、学校はどうなってしまおうのだろう、と改めて考えました。再任用の先生方に日々助けられています。ありがたいことだなあと思いました。
- ・ 教職員として、自分がこれまで、諸先生方の姿や指導から学んだよさや経験で得たものを、これからの先生方に、よさとしてそのまま伝えていくのではなく、時代の流れとともにアップデートして考え、その先生方にあった内容や伝え方で納得が得られるようにしていくことが大切であると学びました。
- ・ 自己研鑽、信頼関係が、安定した教育活動と人材育成につながる。お話しいただいたことは、全て自分の今とこれからに関係することばかりです。気を引き締めて職務に専念していかなければなりません。
- ・ 職員が自分の長所を生かしながら生き生きと働けるように支えていきたいとあらためて感じた。そのために、職員をよく見届け、思いや願いを受け止めつつ、実現の方向を具体的に示すことができるようにしたい。また、自分自身が様々な情報を持ち、職員に提供できるように学びたい。
- ・ 改めて、子どもたちの笑顔のために、そして教職員が笑顔で生きがいをもって働けるように、温かな声かけが欠かせないと感じました。些細なことでも情報を共有し、全教職員で、子どもたちを支援していきたいと思って過ごしていますが、まだまだ足りないと感じることばかりでした。子どもたちに、教職員に温かく寄り添えるよう頑張っていきます。ありがとうございました。
- ・ 学校生活の中で、先生方が話しやすい職員室の雰囲気づくりに心がけたり、気づいた先生方のよさについて言葉に表現して伝えたりしてきた。今後は、更に、そのよさや得意なことを生かせる職員集団づくり、学び合う職員集団づくりにつながるように、自分がどのように行動していくとよいのかを考え、実践していきたいと思った。
- ・ 本校でも、「当たり前を見直す」を合言葉に、本当に子どもたちを大切にしたい授業とは何かと考えながら授業改善に取り組み始めたところです。「どうですか?」「分かりました」の話し方・聞き方からの脱却、なかなか難しいですが、少しずつ進めています。青木義務総の話聞き、今取り組んでいることの方角性は間違っていないと感じました。
- ・ 「児童生徒・教員を一人の人間として尊重し、温かいまなざしで寄り添う管理職」その具体を考えながら視聴しました。動画を視聴して一番感じたことは、先生方が子どもたちに対して熱意と温かさをもって接することができるよう、自分自身が姿で示し、一緒になって課題に向かっていける教頭でありたいということです。そして、自分の様々な業務の先には、子どもたちの最高の笑顔があるということです。良好な人間関係は、形式的な関わりでは築くことはできませんし、日々の積み重ねから生まれるものだと思います。常に先生方の思いに寄り添い、一人ひとりが得意を生かし、活躍できる場を設定していきたいです。そして、どんなことがあっても一緒になって考え、動き、喜び合って、先生方がご自身の成長や達成感を実感できるよう、支えていきたいです。青木義務総括監様から教えていただいたことを、今度は自分が先生方の心に届くよう、様々な形で伝えていきたいです。自分にしかできないことを精一杯やり遂げていきたいです。貴重なお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。
- ・ 義務教育総括監青木孝憲先生のお話を聞かせていただいて、本当に自分が「教職員を一人の人間として尊重し、あたたくいまなざしで寄り添う管理職」になることができているのか反省することばかりです。学校現場では毎日様々なことが起こり、その対応やその後の対策などで時間や労力を取られ、事務処理や外部機関・業者などの対応も多く、本当に忙しい日々を過ごしています。その中で、自分自身が児童生徒や教職員の様子をよく見て、的確な指導やアドバイスができていようには思えません。本当に自分のことで精一杯で、学校のこと、児童生徒のこと、教職員のこと、本当に考えているのか疑問に思えることもあります。しかし、先生のお話を聞きながら、できることからやっつけていかなければいけないことに気づき、少しずつがんばっていきたくです。このような気持ちにさせていただいたことに大変感謝しています。ありがとうございました。
- ・ 教頭(管理職)の立場から、配慮すべきことを丁寧に教えていただきました。特に、今まで当たり前として指導してきたことは、本当に当たり前なのか、一人一人を尊重しているのかという視点をいただいたことは、大変よく分かりましたし、さらに他の教育活動にもないかを今後見ていきたいと感じました。ありがとうございました。
- ・ 私たちの仕事は、「教職員の笑顔」をつくり、それを通して「子どもたちの笑顔」をつくる…毎日、その日の仕事に追われながら過ごしていると、この一番大切なことを忘れてしまいがちです。今日、改めて青木義務教育総括監のお話を聞いて、今の自分の立場が、立ち位置が、実は多くの児童・生徒の笑顔をつくる基となっているんだということを感じました。年度当初は、職員の様子を観察する時間を意識的に取っていましたが、今はあまり取れていません。この1週間で話しかけることのできていない職員もいます。職員の笑顔の数が子どもの笑顔の数だと考えるならば、その実態すら把握できていない自分がいます。「教職員の笑顔」を作るために自分がやるべきことをもう一度確認し、実践していきたいです。
- ・ 私たちは「笑顔」をつくるのが大切な仕事である。そのためには、「一人一人を人間として尊重すること」「あたたくいまなざしで寄り添うこと」である。しかし、めざしてはいるが、具体的には…と問われると少し考える自分がいた。慌たしい毎日を過ごしており、目の前のごことをこなすことで精一杯であった。自分が一人一人の職員に対してできているかを見直し、そして笑顔で突き進むことができる協働的な職員集団をつくっていきたくと感じた。
- ・ 教育現場に関わる諸課題について、端的にまとめられ分かりやすかったです。児童生徒にも、様々な立場で仕事をされている教職員にも寄り添い、あたたくい言葉がけな

ど、行動で示していくことが大切だと学びました。大変な仕事であることは変わりありません。自分の心身の健康と、仕事と自分事のバランスが最重要であり、まずは自分を一番に考え見つめなおし、他に対して寄り添うことができる自分であり続けることが肝要であると、再度思いました。

- ・職員一人一人を大切にすると言った時、職員にとって「仕事が楽になる」というのではなく、「成長できた」「学べた」と思えることが大切であるということに改めて心に刻みました。そのためにも、相手の思いや考えを受け止める姿勢で、職員との対話を続けていきたいと思いました。また、ICTに関して、私は得意ではありませんが、毎回の授業で自分の授業におけるタブレットの使い方を子どもたちと共有するようにしています。今後もよりよい使い方を工夫していきます。
- ・教頭として、先生方一人一人を大切にし、尊重し、先生方の笑顔が生まれる職員室、学校にしていくこと。そのことが、子どもの笑顔を生み出すことに繋がっていく。青木義務教育総括監様の誠実で真っ直ぐなメッセージを忘れずに、私のできることをやっというと思いました。ありがとうございました。
- ・具体的な視点で、目まぐるしく変わる状況にしなやかに対応しつつ、笑顔あふれる子どもたちや職員と共に在る教頭であるべきと痛感しました。また、定年延長の目前に迫った点にも説明いただけありがたかったです。
- ・原点回帰のきっかけになるメッセージをありがとうございました。「職員室の担任」と言われ、さまざまな環境、立場の先生方を支えたいと考えています。しかし、やはり「叱る」ことは難しいです。相手のことを知りながら考えをそれとなく伝えていきたいと思っています。「教頭先生に言われたから。」とは絶対に言われたいようにしたいと心がけています。何かいえば「パワハラ」と言われてしまう世の中。しかも、校内研修で指名した教職員が答えられず困っている姿を見て、ベテランの先生から「それはパワハラですよ！」と言われた衝撃は忘れられません。しかし、今回のメッセージを拝聴し、コミュニケーションのあり方、自分と相手の信頼関係の構築がなされていなかったからこのようなことになったのだと自省することができました。自校の教職員と子供たちの笑顔のために プラス1 の言動ができる教頭になりたいと考えました。ありがとうございました。
- ・普段、当たり前だと思っていることを、もう一度見直し、何のために、誰のために、何をねらっているのかといった視点を再考していかなければいけないと感じた。本校は、年齢が若く、使命感をもって勤務している先生が多い。そういった先生方が、さらに力を付け、充実感を味わいながら、教師として、人間として成長していくことができるような指導を心がけていきたい。
- ・自分では生徒や先生方を大切にしていると思いつまぬよう自戒していきたいと思いました。
- ・教職員の笑顔をつくり、子ども達の笑顔をつくる…そのために、自分は今どれだけのことができていて、今後どんなことに力を注いでいくのかを振り返り、考えることができる機会になりました。「当たり前」のことなのか？を問われたところでは、その一つ一つが一人の人間として尊重するためにやっていることなのかどうかということ、今後の職員への研修の場で伝えて、職員とともに考える機会をつくりたいと思います。信頼できる管理職像については、「共感的に人に接すること」「職員の思いを真摯に聞いてその思いが実現できるように考え、支援すること」「子どもを中心に話を聞き、明確に方針や指示を出すこと」など、日頃から意識し、心がけていくべきことばかりでした。子どももそうですが、日頃から職員を認め励まし、感謝を伝えることは今も心掛けていることですが、改

めてその大切さを感じました。GIGA スクール構想については、まだまだ課題が山積みの状況です。子ども達が困らないように、ICT 支援員さんも活用させていただきながら、進めていきたいと思っています。「職員の得意を生かす学び合う職員集団をつくる 個別最適を生み出す」…そうできるようにするために、自分自身が学ばせ姿勢を持ち続けて、日々努力していきたいと思っています。ありがとうございました。

- ・大事にしなければならない基本を改めて考えることができました。
- ・これまでの研修では、「信頼できる校長とは、」のようなアプローチが多かったと思うが、新任校長研の資料の中の「信頼できない校長とは、」という視点が、より、私の中で説得力があった。60歳後の自分の在り方も考えていきたい。そして、また、学校の年齢構成に合わせた学校づくりをしていきたいと思った。
- ・児童生徒・教職員の一人の人間として尊重し、あたたかい眼差しで寄り添うことがどういうことなのかを、深く考えることができた。青木総括監のお話は、心に響きます。職員の心に響く話をするために、今回の研修総会内容をもう一度、勉強し直していきたいと思っています。ありがとうございました。桜ヶ丘小 渡辺
- ・「一人一人の教職員を尊重し、あたたかなまなざしで寄り添う管理職」という言葉が心に残っています。そのためには「叱る」ことが必要となってくる。まさに、教職員一人一人の成長を願って見通しをもって行動することができるかを問われていると感じました。不十分なところも多々ありますが、精進していきます。
- ・教職員に寄り添う管理職という言葉が心に残りました。生徒に接してきたように、自分の得意分野を生かしながら先生方にも接していきたいと感じました。
- ・新任教頭である私は、赴任する前には、こんな教頭でありたいという思いを抱いていた。しかし、実際に赴任して、この3ヶ月、そのことができているかと問われると、胸を張ってできていると言い切れない自分がある。日々、できていない自分と向き合う毎日である。しかし、今回の講話を聞いて、改めて頑張っていこうという気持ちになることができた。職員と共に汗を流している自分であるが、承認の土台を築いていくことの大切さ、机上の空論ではなく、姿で示すことなど、自分らしさを発揮して頑張っていきたい。届いてなんぼという言葉は私も大切にしている。生徒同様、先生方も一人一人を尊重し、寄り添っていく自分でありたい。日々、苦しいと思うことが多いが、本日の講話で抱いた気持ちをいつまでも大切にしていきたい。本日は心に響く講話をありがとうございました。
- ・教頭は職員を育てる、そして子どもを育てることにつながるということを改めて認識し、日々、職員に対して、子どもに対して行うことを実践していきたいと強く思いました。
- ・今後の管理や指導に関して具体的にイメージできる視点を学ぶことができた。
- ・管理職としてあるべき姿がより明確になりました。自分らしさを大切にしながらも、教職員に信頼される管理職でありたいです。それが、子どもたちが楽しく活動する学校づくりにつながると思っています。
- ・児童を1人の人間として大切にすること、温かい眼差しで寄り添う教師を職員に伝える際、伝えつつも、理解してもらえつつもいるのではなく、具体的なエピソードを交えて、しっかりと職員に伝わるよう心がけたいと思いました。また、職員の努力、挑戦、成長、あるいはその過程を捉え、小さな前進であっても承認し、職員に感謝の気持ちを忘れず、接していきたいと思いました。仲の良い職員集団であれば、笑顔あふれる学舎になり、やがては子供の成長に繋がると信じていますので、職員を大切にしてい

の勤務にあたりたいと思いました。貴重な講話をありがとうございました。

- ・ 職場の先生方への指導について、青木先生から、自分がおこなってきた生徒指導(学級経営)と全く同じとお話いただき、改めてその通りだと思いました。自分の弱さは、先生方の努力や得意分野をいきいきと実践してみえる姿に対して思いっきり誉め認めるのですが、気になる部分については、相手を気付付けてしまうのではないかと考えすぎてしまい、思っていることの半分？も言えていないように思います。結局、問題が大きくなったときに後悔することになっているような…。もう一度学級担任出会ったあの頃を思いだし、職員室の真の担任になれるよう努力します。
- ・ 今年度新任教頭として勤務して4カ月が経過するが、教頭職として職員室における先生方への接し方や態度、醸し出す雰囲気については、青木総括監のおっしゃるように、職員室の担任であるという自覚をもって日々勤務することを意識している。これからも、教職員を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添うことのできる管理職を目指したいと思う。また、授業における「当たり前」の話題に関しては納得しながらお話を聞いた。現在の勤務校では全員一律に型にはまった学習規律を求めるといった意識からは脱却しつつあるが、今後さらに個別最適な学び、多様性が認められる学びの場の実現のために管理職として提案をしたり、現場を見て助言したりしていきたい。その際には、NextGIGA 端末整備のことも視野に入れながら、自らと自校の先生方の知識をアップデートしていきたいと思う。
- ・ 「全員挙手」、「ハンドサイン」のことについては、まったく同感です。どのような活動が生徒の「学び」につながるのかを最優先に考えていくべきだと思います。タブレットの活用については、たいへん耳の痛い内容でした。学校内格差があることは事実です。私自身が「タブレットありき」の学習過程を肯定してきませんでした。今後の授業の在り方も含めて考え方を考えていく必要があると感じました。私がかもっとも難しいと思っていることなか「人材育成」があります。「承認・感謝」には心がけているものの、「すべての職員に」とは言い切れません。また、教職員自身が「主体的に学ぼう」とすることの啓発も弱いです。コンプライアンスのこの含め、日常の中でどのようにかわり、どのような指導を通して岐阜県がめざす教員像に近づけていくかを再考する機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 本校講師の校内研修にて、岐阜県の教職員に求められていることを、教員採用試験のリーフレットを活用して行わせていただきました。子どもたちの笑顔を生み出すには、教師自身の笑顔が大切であること、教師としてのやりがいを感じ子どもたちに関わることで、子ども自身に還元できることを話しました。教師自身が笑顔一杯、子どもたちの前に立つことができるその基盤を作り上げ、支えていくことが管理職として大切であることを感じました。リーフレットに記載されている岐阜県の教師に求められていることは、校内研修の中でも他の教諭に広めていきたいと思います。「児童を一人の人間として尊重する」この言葉には改めて心に響きました。指導にあたる上で、そのことを常に頭に入れていきたいと思います。
- ・ 管理職として、同僚職員をさらに見届ける重要性を感じました。働きがいをもって児童に対応してもらえるよう、それができる環境を整備するのは教頭の務めであると理解してはいますが、一人の人間として尊重することを具体的に示せるように常に努力して、自分の力量を向上させたいと感じました。
- ・ 日々の忙しさに追われて、なかなか全学級をみたり、先生方の頑張りをタイムリーに伝えていなかったのではなかつ

たかと反省しました。職員構成は小学校ほど偏りはありませんが、ミドルリーダーを育てること、組織で動くことをここ2年、取り組んできました。これまで、すぐに教頭を頼る職員集団な面がありましたが、すぐに回答を求めたのではなく、こうやってみたいと意見を述べたり、組織で動くとする場面が増えてきました。本当にうれしい限りです。生徒に一人一人の自己有用感を育てるように、管理職として、職員の自己有用感、働き甲斐を感じる職場となるよう、学校長の想いを大切にしながら、学校の実態をよく見て、今後も取り組んでいきたいと考えます。

- ・ 児童・職員ともに一人一人を大切に管理職、また、温かく接する管理職、自分が今意識していることです。しかし、自分にゆとり(時間も心も)がないことが多く、十分なことできないと感じています。若い先生方に少しでも笑顔で子どもに向かって指導していただくための「いろは」を教えると共に、若い人から学ぶこと(特にICT関係)も今後も行っていく。新しい情報を取り入れたり、厳しく指導したりすることは苦手なので、今後意識して取り組んでいきたいと思う。「頑張ろう」という気持ちがアップしました。ありがとうございました。
- ・ 自分は、伝えたいことを語る際、エピソードトークができていないことが多いです。その他にも、自分自身の言動を見つめることができました。一人一人を大切にしているかという感覚は、今後も磨いていきたいですし、周りにも広めていきたいです。
- ・ 管理職がやるべき事は、担任が子どもにやることや学級経営と同じである事が大変よくわかりました。「教職員を一人の人間として尊重する」「温かいまなざしで寄り添う管理職」になれるよう精進していきたいと思います。また、「届いてなんぼ」「組織は知で動き、人は情で動く」という言葉も心に残りました。最後になりましたが、青木総括監の話され方に温かいお人柄を感じました。自分もそうなりたいなあと心から思いました。お忙しい中、本当にありがとうございました。
- ・ GIGA スクール構想での次の学習指導要領のお話や情報のアップデート、また教育時事に通じていないというお話は本当に耳が痛い思いで聴かせていただきました。職員を指導する立場として知識を常に更新する必要は重々感じていますが十分に学ぶことができず、日々の業務に追われるだけの我が身を振り返り反省しきりでした。教職員に寄り添う「管理職」として、期首面談の心構えやそれを活用した人材育成のお話では「事実を基に短く叱る」という言葉が心に残りました。承認と感謝のみならず必要な指導を的確に行えるようにしたいと思いました。「信用されない管理職像」ではないと自負していますが、「信用される管理職像」であるかと言えば断言できないところもあります。今後は少しでも千履近づけることができるよう努めていきたいと気持ちを新たにしました。最後に教職員の年齢構成のグラフはとても興味深く見させていただき、自身の今後の働き方も一考しなければいけない時期に来ていることも実感させられるお話でした。
- ・ 「自分は信頼される管理職になれているか」改めて自分自身の動きや職員への接し方を見つめ考える機会となりました。具体的な視点を示していただき、今後の自分の目指す姿が具体的にイメージできました。ありがとうございました。
- ・ 「求められる管理職」の像に近づきたいです。全員挙手が本当に子どもに寄り添ったものであるのか、そして「言説教も自慢もいらない」など、確かにその通りであると思えました。子どもの姿を自分の目で見て、そして先生方を後押しできるそんな教頭でありたいと思いました。
- ・ 「笑顔の教職員が笑顔の子どもたちを育てる。」子どもたちが安心して笑顔でいられる学校にするためには、教職員が子どもたちに寄り添ってその変化を見逃さずに迅速

に対応する心のゆとりが必要である。そのために教頭がいることを再確認することができた。

- ・お話しの始めの「今の実践は、子どもたちを本当に一人の人間として尊重しているのか」という問いかけがとても強く心に残りました。ハンドサインも含め、どこを見て仕事をしているのかと思う場面が多くあると改めて思いました。また、さまざまな意味のある教育活動が、形骸化していることも沢山あると思います。全ての職員が、教師という仕事の本当の楽しさを味わえるように、少しでも役に立てるように頑張りたいと思います。また、自分が笑顔で仕事をするのが、学校全体の笑顔につながるという自覚をもって、楽しく仕事をしていきたいと思えます。
- ・児童を育てる時に大切にしていることがそのまま教員育成にも通じることを、改めて感じました。しかし、若手育成に、どこまで要求して良いのか悩むことも多いです。辞めないように支えてばかりでは、他の教員の負担や不満もたまりません。職場の前向きな先生方に支えられて今日がある、有難い限りです。日々感謝を伝えることを忘れないようにします。ありがとうございました。
- ・教頭としてあるべき姿について、具体的に示していただき、できている自分、できていない自分を振り返ることができた。残り1年半、未来ある子どもたちのために、微力ではあるが力を尽くしたいと深く思うことができた。
- ・教職員や子ども、そして保護者、地域の方々など、幅広い人々を相手にし、それぞれの方々が安心して学校での教育に向かっていける体制づくり、雰囲気づくりが大切であると感じました。時代とともにGIGAスクール構想が発展したり、不祥事に対する見方が厳しくなったりしますが、周りの方々の信頼を失わないように、職員と協力して、学校運営に携わりたいと思えました。ありがとうございました。
- ・コミュニケーションをとることの大切さについて改めて考えさせられた。本校にも若手教諭が多いので、彼ら彼女らが楽しみながら様々なことにチャレンジしてもらえるように支えていきたいと感じた。
- ・日々の業務に忙殺されているが、改めて「組織は知で動き、人は情で動く」この言葉を実現するには、具体的に何をすればよいのか考えたい。また、様々な情報を取り入れ学校の組織力向上に活かしたい。
- ・今の教育現場、管理職に求められることについてたくさん教えていただき、大変勉強になりました。管理職(教頭)として、子ども・職員・保護者・地域の方などそれぞれ立場の人から信頼される存在になりたいと改めて思いました。特に、若い教職員が教員という仕事の魅力をさらに感じてくれるように、様々な面でサポートしたり指導したりしていきたいと思えました。GIGAスクール構想について、勤務校の地区でもタブレット端末の入れ替えの話が出ており、子どもたちのよりよい学びのために最適なタブレットが使える環境が大切だと感じました。学んだことを、自校の子どもたちや教職員に還元していきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・教頭という立場から、様々な視点に立ち、多面的・多角的に見る姿勢の大切さを学びました。ありがとうございました。
- ・教頭として職員の思いに寄り添い、一緒に学びながら、組織的に動いていける職員集団にしていけるように、がんばっていききたいと感じました。
- ・教室で担任教師が生徒に寄り添うように、職員室で教職員に寄り添い信頼される管理職でありたいと思えます。また、日々情報収集をしながら指導力もアップデートし、60歳以降も気力と体力を充実させて続けていけたらと思います。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。一人の大切な人間として、大切な子どもたちを育てて行きたいと強く思いました。先生

方も同じで、笑顔溢れる職場作りや、子どもたちに元気に話れる先生、学校を創りたいと感じました。ありがとうございました。

- ・管理職として、校長の学校経営方針を実現するために教頭として自分の職責を果たす重要性を再認識した。めまぐるしい時代の変化を注視し、子どもの成長、また全教職員のやり甲斐と成長を願い、情報を共有しつつ、必要な指導・援助をしていく。指導においては子どもも教員も事実の基に短くすばと叱ることが大切であり、感情を入れないこと。職員がやりたいことを真摯に受け止め、その思いが実現できるよう支援していくことも大切である。自分の職責を果たし、校長の信頼を得られるよう今後も努力していく所存である。
- ・職員が生き生きとやりがいをもって働ける環境づくりの大切さを改めて感じた。ただ、職員によって受け止め方が違うので、接し方も工夫しなければならないと日々思っている。想いを受け止め合える関係づくりに尽力していきたい。
- ・25年間、「当たり前」どころか、「これこそが教育」と信じて疑わなかったことを、見直すときに来ていると感じました。発想の転換が難しいのは、私と同世代の教員です。どのように伝えていけばよいのか、考えたいです。
- ・たくさんの元気をいただきました。自分が目指す管理職像が、より明確になりました。
- ・日々の業務の中で、自分の役割をもう一度見直して職員や子供たちと向き合うことができるよう努力していきたい。
- ・まだ2年目ですが、教頭として、まだまだ勉強が足りないと感じました。
- ・子供たちや教職員の笑顔を守るため、改めて寄り添う管理職でありたいと感じました。また、変化の激しい時代に対応することができるよう、様々な面で研修等を通して自分自身をアップデートしていきたいと思えました。
- ・職員が「やりがいがある」「職場が楽しい」と言うような笑顔あふれる職場を作ろうと感じた。
- ・同僚性の高い職員集団を目指していきたいと改めて感じました。
- ・管理職を複数年行っていると、気づかないうちにハラズメントをしていることがあるのではないかとこのことを時折感じます。自分の話し方を気を付けたいと思えました。
- ・「児童生徒を一人の人間として尊重しているかどうか」、今まで当たり前だと思っていたことを立ち止まって見つめ直すことの重要性を感じました。これまで当たり前のように学校文化として行われてきたことであっても実はそれは、教師の都合であったり、なんとなく今までもやってきたからということで続けられていることがあるように感じます。改めて、なんのためにそれは必要なのか、子どもたちの力となっていくのかどうか、自校の先生方と考えていきたいと思えます。また、いかに先生方のよさをいかし、いきいきと働いていただけるように普段のコミュニケーションを大切にしていきたいと感じました。ありがとうございました。
- ・管理職として、日々、人材育成の難しさを感じています。講話を聴かせていただき、一人一人に寄り添うことが十分出来ていない自分を内省しました。これからは「教師としての真の幸せを願って暖かい言葉をかけてあげられているか」と常に振り返りながら職員に接していきたいと思えます。「組織は知で動き、人は情で動く」を銘肝し、精進させていただきます。
- ・多くの課題がある中で、教頭の職務を全うしたいと感じた
- ・大変お世話になりました。久しぶりに先生の声を聞かせていただきまして、元気もいただきました。「児童生徒を一人の人間として尊重し、あたたかいまなざしで寄り添う教

師」、ご一緒させていただいた当時の先生そのものです。私がたくさんいただきました。立場が変わりましたが、若い先生たちに、この理想につながる思いや姿に気付いた時には、声をかけるようにしています。

- ・ 教頭の業務は、ありとあらゆるところに影響する、やりがいのある仕事だということを再認識しました。
- ・ 最後まで視聴出来ませんでした。すみませんでした。

2. オンデマンド開催した研修総会は、如何でしたか。



とてもよい 理由

- ・ 何度も繰り返し視聴できること、ゆっくりとメモができるし、行き帰りに時間がかかってしまう地域ですので、ほんとうにありがたかったです。
- ・ 時間が有効に使えた。
- ・ 内容がとても分かりやすく即実践に活かそうと思えました
- ・ 時間にゆとりがあり、学校の業務に支障が出ないため。
- ・ 時間の隙間を見て視聴できること、見返すことができること
- ・ 公務に支障のない時間に視聴することができるため。
- ・ 今の時代にあっていると思う。繰り返し視聴できることもよい。
- ・ 自分のペースでいつでも見ることができるから。
- ・ 学校での諸対応が頻繁に起こるため、なかなか学校を空けられないので、大変ありがたい。
- ・ 研修時間を自由に設定できてありがたいです。
- ・ 勤務の状況に合わせて、ちょうどよい時間を選んで学ぶことができるから。
- ・ 集合する時間を考えると、自分の空き時間に視聴できる。自分の空き時間や自宅でも視聴できる。
- ・ 空き時間に研修を受けることができ、期間指定もあるので、研修が都合のよい時間にできるのは、大変ありがたいです。
- ・ いつでも視聴できるため。
- ・ 自分の空いている時間で視聴ができるから。
- ・ 自分の都合で、研修を受けられるので。
- ・ オンデマンドでも、重要な点は十分伝わる
- ・ 出張手続きの負担がない。出張よりも職員室に長くいることができる。
- ・ ”・遠隔地の学校としては、参集地への移動の時間と労力がなくなるのがとてもありがたいです
- ・ ・生徒指導、来客、問題対応等の日々で、空いた時間にかつ、ストップや巻き戻し、早送りなどで聞き直したり、落ち着いて学べたりするのがとてもありがたいです
- ・ ・講義いただける先生の資料やお話がじっくり確認できるのでありがたいです”
- ・ 時間の融通が利きやすく、落ち着いて視聴できる。見返すこともできる。
- ・ 自分の都合で、隙間時間を有効に使えるから。
- ・ 時間をみつめて、じっくりと動画を観て学ぶことができました。
- ・ 学校の状況を把握しながら、本研修に臨むことができるため
- ・ オンデマンドなので、時間を有効に活用できるため。
- ・ 参集のための時間も惜しいから。
- ・ 今、自分が管理職として、大切にしていこうとしていたことを、具体的に再確認させていただきました。
- ・ 自分の研修したい時間に実施できるので大変ありがたいです。
- ・ 1. 研修を受けている最中にも、様々な事案が発生して対応しなければならない状況が発生した場合も、動画をいったん止めて対応できる。2. 1度の視聴では理解できないこと、記録できないことも、最視聴したり、とめたりしながら記録したりできる。3. 動画の時間が適切であった。
- ・ 学校職員にも迷惑をかけずに、自分で時間を見つけて視聴することができました。
- ・ 学校をできるだけ離れたくないですし、移動しない分、余裕をもって研修に臨めるからです。
- ・ 自校の実態に合わせたタイミングで研修を受けることができるため。
- ・ 授業や来客対応の合間に視聴することができました。途中で動画を止めても、止めた場所から再生ができたり、必要な言葉や数値を見直したりできました。
- ・ 再度確認したい内容を何度も観ることができるため
- ・ 繰り返して聞き直すことができたから、聞いているときにも、電話等の対応があったため。
- ・ 自分のタイミングで研修ができる。
- ・ 青木先生のご講話が、今の自分にとってたいへん意義のあるお話だったからです。
- ・ こちらの都合に合わせて研修を行うことができるため。また、必要な部分は再度見返すこともできるため。
- ・ 学校業務を停滞させることなく研修ができたことです。
- ・ 自分で時間のある時を見つけて視聴をすることができたため。
- ・ 空いた時間を使って研修ができるから。(本日も留守学級等が入る現状でした)
- ・ もう一度聞きたいところやメモしたいところで、一度いいしのできる。合間に研修できるので。
- ・ 自分の時間で研修ができる。何度も書き直せる。資料を見ながら、動画を一時停止して堪忍ができる。出張の往復時間がいらぬ。出張旅費が不要。その分をほかに回せる。
- ・ 自分の業務のタイムマネジメントをして視聴することができるので、有難いです。
- ・ 移動時間がなく、時間に余裕ができてありがたいです。
- ・ 短い時間でしたが、多様な内容があったからです。

- ・ 時間のある時にできるので。
- ・ 学校方離れられることが困難な場合、自分のペースで学ぶことができる。
- ・ 教頭会で視聴しました。他の先生方と感想を交流することもできました。
- ・ 移動の時間がなくなり、業務への支障が減るため。
- ・ 移動時間がないことや隙間時間に研修を行うことができるからとてもよい。
- ・ 時間を有効に使えるため
- ・ 家で落ち着いて聞き、自己内省ができた。
- ・ 時間の調整ができ、都合のよいところで落ち着いて視聴することができるから
- ・ 自分の仕事の都合で、時間・場所に関係なく研修を受講できるから。
- ・ 見直したり、静止画にして確かめたりと自分のタイミングで見ることができる。
- ・ 職場の隙間時間に研修できるから。
- ・ 都合の良い時間に視聴することができるからです。
- ・ 勤務校の職場を想起しながら、義務教育総括監の話の照らし合わせながら聞くことができたこと。また、自分のあり方や職場監環境の改善につなげようとする気持ちを持つことができた。
- ・ 自らのタイミングで参加することができるため、何度も視聴できるため
- ・ 学校を離れることで、業務に支障をきたすため
- ・ ”紙面で承認できること、わかることは紙面でよい。効率的な研修総会になっている。
- ・ ただし、メッセージのようなお話を直接聞く機会も貴重であり、意味ある物であると思うが、小規模校では学校オンデマンドで研修できることは、学校運営上本当にありがたいです。”
- ・ 視聴中に急な対応があったり、視聴時間を選べたりするので、オンデマンドはありがたいかったです。
- ・ 移動にかかる時間が削減できる。研修の時間を自分で決めることができる。
- ・ いつでも研修を受講できるから。
- ・ 時間を見つけて視聴することができたから。
- ・ 自分のペースで視聴することができる。普段の職務から離れる時間を最小限にすることができる。
- ・ 時間に余裕がある
- ・ 講話タイプの研修であれば、今回のように、時間の融通が利くオンデマンドは大変ありがたいです。
- ・ 遠距離であることや、タイミングを選べるので多忙化解消につながる。
- ・ ①聞き逃してしまった言葉、文字についてもう一度戻って視聴できる。②学校を離れることなく、自分の隙間の時間を確保して視聴することができる。③急な対応ができて、一時停止してその後の視聴を続けることができる。④聞きながら、疑問に思ったこと、知りたいことについてその場で調べることができる。
- ・ 自分の空いている時間を見つけ、集中して参加できる。また、動画なので繰り返し見たいところをみることができ
- ・ オンデマンドであれば、勤務の状況に合わせて落ち着いて講話を聴くことができます。
- ・ 週22コマの授業を担当させていただいており、参集型での実施だと、児童や他の教員に迷惑をかけてしまうからです。
- ・ 都合に合わせて研修ができるため。
- ・ 往復時間を含めて、時間を有効に使えるから
- ・ 空いた時間を見つけてじっくり視聴することができて良かった。
- ・ 新任教頭のため学校を離れる機会が多く業務が滞ることがあるので、オンデマンドはありがたいです。また、授業

- も多く担当しているため自分のペースで研修できることが素敵でした。
- ・ 内容が充実していたから
- ・ 人員不足の学校を離れることは、不安であるため、オンデマンド開催の方がありがたい。
- ・ オンデマンドでも十分研修することができるから。他の職員に迷惑をかけなくても済むから。研修の時間を自分で設定できるから。働き方改革にもつながるから。
- ・ 空いた時間に研修できるため。
- ・ 忙しい合間に研修ができるからです。
- ・ 自己の働き方に合わせて、計画的に研修することができるため。
- ・ 時間効率がよく、見直すこともできる。
- ・ 通り一遍の話ではなく、今、大切にしなければならないことが多かったため。
- ・ 参集型でないため、時間を縮小できるため
- ・ 自分のタイミングで視聴できたから。
- ・ 空いている時間に視聴できるから。
- ・ 参集型の場合、行けない可能性が高いから
- ・ 何を軸に教頭としてこれからやっていくべきかの基本を教えていただけたから。
- ・ 時間を選んで研修を受けられる。何度も視聴できる。
- ・ 何度も繰り返したり、止めたりして確かめながら学べることができる。字幕もとてもありがたかったです。
- ・ 時間に縛られることがないため
- ・ 時間と場所の自由度が高い
- ・ 時間に拘束されず、自分のできる時間帯で視聴できるから。
- ・ 日々の業務に追われる中で隙間時間を見出し、都合の良い時間に研修ができるため。
- ・ 自分にゆとりがあるときに研修を受け止めることができるから。
- ・ 時間があるときに研修できる。
- ・ 自分の勤務スケジュールや休日に自宅でも受講できるため。また、聞き返したり、メモを取る間に画面を止めたりできる。聞くことに集中できるのありがたい。
- ・ 自分のタイミングやペースで研修ができる。
- ・ いつでもみることができから。家でゆっくり繰り返し見ることができたから。
- ・ この時期に行う研修としては、オンデマンド開催によって、目的は十分達成できる。
- ・ 自分のタイミングで研修を受けることができます。
- ・ 同じ空間でご講話等を拝聴できないのは残念ですが、オンデマンドでも義務教育総括監様のメッセージは十分に受け取ることができます。会場への行き帰り等の時間を節約できるメリットが大きい。
- ・ 時間を見つけて参加できるため
- ・ 自分のペースで視聴できるから。出張で学校を離れなくて済むこと、勤務時間中に時間が拘束されなくてよいから。
- ・ 都合の良いときに視聴できるので
- ・ じっくり聞き直したいところに戻って再生し、メモをとることができたからです。
- ・ 増えるばかりの学校外の研修の中で、自分のペースで学べるから。
- ・ 時間を効率よく使えるので。
- ・ 忙しい中でも、自分の時間に合わせて研修をすることができる。
- ・ 時間がある時にゆっくり学ぶことができます。
- ・ 視聴するタイミングを自分で設定できるため
- ・ 学校行事などと時期が被るため、学外に出なくても良いのはありがたい
- ・ 自分で時間を決めて研修に向かえる。

- ・今年度、配信初日に体調を崩して視聴できなかった。また、虐待事案や救急搬送等、7月までに10件程度のこと
- ・が起きている。いつ、何が起ころかわからなので、学校を離れての研修は難しい。
- ・学校事情に合わせて研修できる。
- ・こういう機会がないと、落ち着いて教頭の職務に向き合うことが難しいため
- ・忙しい中、出張等で現場に迷惑をかけずに済むのは、ありがたいです。
- ・自分の選んだ時間に研修できることがよかったです。
- ・時間を見つけて視聴できるため。
- ・学校にいながら、好きな時間に研修できるから。
- ・現地までの移動時間がなくなる。空いた時間に研修ができること。
- ・日中は、授業、授業補充、会議など色々なことがあります。参集するまでの時間を、業務にあてたい。オンデマンドでも十分、内容が伝わります。
- ・この時期学校を離れることがたいへん難しい実情があります。
- ・自由な時間で視聴できる。
- ・都合よいときに視聴できる。
- ・学校を空けられないことが多くありますので、学校で自分のタイミングで研修を受けられるのはありがたいです。
- ・勤務地を離れることなく、時間の調整も容易であるため。
- ・時間のあるときに視聴することができるから
- ・研修しやすい時間・場所を選択することができるから。
- ・しっかりと自分の研修できる時間に取り組める。
- ・時間を有効利用できる
- ・”研修を受けたいが、時間的な制約があると受けられない。
- ・移動の時間の削減ができるし、自宅でも研修が受けられることがありがたい。”
- ・時間に縛られないから。
- ・時間があるときにゆっくりとみることができ
- ・自分のタイミングで視聴することができるため。
- ・自身で視聴時間を調整できるため。
- ・都合のよい時間に視聴できる。
- ・時間的に効率よく学ぶことができる。
- ・時間があるときにじっくりと視聴することができるから。
- ・時間の短縮ができ、今の時代に合っている。
- ・自分の時間のあるときに参加できる。また、複数回参加できるから。
- ・時間の拘束が少なく、余裕がある。
- ・学校を離れることなく、有意義な研修を受けることができました。資料や声、言葉から青木義務教育総括監の熱を感じました。
- ・時間に余裕があるときに視聴することができるから。
- ・大変ためになる話でした。また明日からがんばろうという意欲につながりました。
- ・オンデマンドということで、期間内にいつでも、何度でも視聴できるから。
- ・急な生徒指導等も多く、現場を離れることが難しいため。
- ・自分の空いた時間に参加できるから。
- ・自分のやりたい時間帯で参加できる。
- ・オンデマンドだとじっくり話を聞くことができる。また、移動する手間が省け業務の軽減につながる。
- ・学校を離れることが難しい立場だけあって、このような開催方法がとてもありがたかったから。
- ・自分のよい時間に視聴できることがよい。
- ・時間と旅費が節約できるから。
- ・いつでも視聴できる。
- ・大切だと思ったことについて繰り返し視聴することができる。
- ・参集の移動時間がもったいない。
- ・共感できることが多かったから。
- ・あいている時間にゆっくり視聴できるため
- ・参集型より時間も労力もともに負担軽減となる
- ・学校が落ち着いているときに、タイミングを見て静かに研修をすることができるため。
- ・教頭として、学校を終日あけることに不安を感じていたため、空き時間を使ったオンデマンドはとてもよかった。
- ・大切なポイントを何度も視聴できるから。
- ・働き方改革に繋がっている。
- ・空き時間で対応できたのはありがたかったです。
- ・繰り返し視聴することで理解が深まりました。
- ・大変忙しいので、計画的に時間を空けて研修を受けることができるから。
- ・高山からは遠いからです。
- ・自分の時間があるときにじっくりと研修ができるのでとてもよいです。
- ・空き時間などに参加できることで、業務に支障が出にくいため
- ・繰り返し視聴できるため
- ・繰り返し視聴できるため
- ・都合のよい日時に研修でき、学校業務も同時進行でできるため。
- ・出張する時間を削り、効率よく研修ができるため
- ・何度も見直すことができるため。
- ・期日が限定されると機会を逃してしまうから。
- ・今日、動画のお話を聞き、もう一度見ようと思いました。実際に話を聞けるのもよいですが、聞き直しができるのでありがたいと思います。
- ・学校が山奥にあり、行き帰りが大変である。また、その移動の時間がなくなればその分仕事ができる。
- ・勤務校にて対応できるから。
- ・移動時間の削減ができるから
- ・移動時間に子どもたちに先生たちに向き合うことができる
- ・移動時間の短縮、大切なポイントが端的に伝えられる。いつでも見直すことができる。
- ・効率
- ・学校現場にいてこそ果たせる責任があるため。
- ・時間や空間に縛られず、集中して研修できるため。
- ・自分の時間に合わせて参加できるから。
- ・学校を空けずに実施できる。
- ・時間的にゆとりをもって研修ができるから
- ・移動時間がかからず、負担が少ない。
- ・時間のとれる所で受講したい。
- ・学校を不在にすることなく研修ができるから。
- ・教頭としての役割を再確認することができたから
- ・自分で見つけた時間に研修ができること。
- ・空いている時間を使って参加できるから。
- ・タイムマネージメントがしやすく、また繰り返し学ぶことができるメリットがある。期間限定ではあるが、節目として大切にできる機会であった。
- ・空いた時間に話を聞くことができるし、聞きたい部分をもう一度聞くことができるから
- ・ゆとりがあるときにゆったりと見るることができたから
- ・講話のみであれば、オンデマンドで十分であるため
- ・移動時間がなく、授業等の調整をしなくても良いから。
- ・自分の都合がつく時間に落ち着いて視聴することができた。
- ・勤務地が中心地から離れているため、移動時間が必要ないのありがたいです。
- ・聴きたい所をもう一度聞き直したり、プレゼンを見直したりできるから。
- ・時間の有効活用 必要なところを繰り返し聴ける
- ・時間がある時に研修できるのでありがたいです。

- ・東濃地区で、岐阜までが遠いので、今回のような研修はありがたいです。
- ・自分の仕事の都合に合わせて視聴することができるため。
- ・自分の時間に視聴できるから。
- ・効率的で負担が少ない。
- ・業務内容とのバランスを考えながら、視聴することができるから。
- ・しっかり時間をとって、集中して話を聞くことができる
- ・自分の都合の良いときに確認できること
- ・いつでもどこでも研修を行えるから。
- ・職場を離れずに研修できるから。
- ・移動時間の短縮と、研修時間が自由に決められるため。
- ・自分のタイミングで研修を受けられること。
- ・時間を有効に使える
- ・自分のペースに合わせることができる。
- ・講話が直接聞けたらなおよかったです。
- ・研修の時間が自分で選べる。
- ・やはり学校を離れることは今の現況では他職員への影響等考えると厳しいかと感じています。今回のようなオンデマンド開催はありがたいです。
- ・時間に縛られず、見ることのできる時間に視聴することができる。
- ・移動もなく、時間を自分で考えて研修できるからです。
- ・時間を選んで研修を受けられることは大きなメリットです。議論するのであれば対面がよいですが、話を聞いて学ばせていただく内容なので、内容面からもオンデマンド研修で十分な効果があると思います。
- ・時間的制約がない。
- ・わかりやすく、最新の情報など多くのことがわかったから
- ・自分で時間を決めて研修を受けることができたから
- ・繰り返し動画を視聴できたことがありがたかったです。
- ・自分の時間に余裕がある時に、お話が聞けること、繰り返し聞けることの2点です。
- ・御指導をいつでも、どこでも、何回でも研修できる。1回目拝聴した時と、2回目、3回目拝聴した時と、自分の受け止め方が違ってきました。とてもありがたい。
- ・時間のあるときにじっくりと視聴できるから。
- ・自分の仕事のスケジュールに合わせて研修ができるので、とてもよいと感じました。
- ・この時期大変忙しく、学校外へと出て行くとなると自分にとって周りにとっても負担になる。オンデマンドの講演は、時間があるときに自分のペースで見ることができ、大変ありがたいと考えるから。
- ・研修する時間を自分で選べるところがよかった。
- ・自分のタイミングで参加できたことと、聞き直したいことを何度か聞き返すことができた。
- ・自分の都合に合わせて受けることができるため。
- ・時間に縛られることもなく、研修を受けることができるから。
- ・業務に支障のない場所、時間帯に落ち着いて研修に参加できるため。
- ・自分の都合のよい時に参加できるからです。
- ・自分自身が教頭として大切にしていきたいことを振り返りながら再確認できたから。・GIGAスクールと学習指導要領の告示等今後の見通しがもてたから。
- ・自分で視聴時間をマネジメント出来るので、平素の学校の仕事への影響が少なく、ありがたいです。
- ・じっくり腰を据えて研修に向かうことができるからです。
- ・自分の時間に、また繰り返し視聴できる点がよいです。
- ・下呂市は、どこに参集しても移動に時間がかかりますので、大変助かります。
- ・時間をうまく使うことができることと何回も視聴することができること
- ・時間を有効に使うことができると動画を何回も視聴することができること
- ・自分のペースで研修を受けられるから
- ・時間を選べるからです。
- ・時間がなかなかない中、じっくり視聴できるからです
- ・都合よい時に見られる。
- ・自分の仕事のタイミングで研修をすることができるから。
- ・ゆっくりと時間のある時に研修ができたから。
- ・出張に出ること、決められた時間に視聴することは大変なので、オンデマンドはよいと思います。でも、本当は、対面でお話を聴くに勝るものはないと思っています。生でしか伝わらないものがありますよね。
- ・時間を見つけてじっくりと向き合えるから。
- ・自分の都合のよい日時に視聴できるから。業務に合わせて視聴日時を決めることができるから。
- ・自分の余裕のある時間にじっくり視聴することができたから。
- ・自分ができる時間で研修できるからです。
- ・研修時間をフレキシブルに設定できる。
- ・本校のような小規模校では、なかなか出張に出ることが難しいため。
- ・繰り返し視聴が可能であるため
- ・空いた時間で研修を受けることができるから。
- ・時間にしばられないため 気になった部分の繰り返しができるため
- ・参集する手間や時間の確保が必要なく、学校を空けなくても済むから。
- ・日々の多忙の中、各自の任意の時間を用いて研修できるので。
- ・現状では忙しさに追われ、自分の姿を振り返ることが難しかった。今回の動画をゆっくり視聴し、自分に足りないものは何か、教頭としてどうあるべきか考えなおすことができたため。
- ・都合の良い時間に研修できるから。
- ・学びたい時間を選択できるためです。
- ・自分の振り返りになったから。
- ・自分にとって少し余裕のある日に動画視聴をすることができ、大切だと思う部分を繰り返し聞いたり画面を止めたりしながら、じっくり聴くことができたからです。
- ・自分で時間と場所を選んで研修できるから
- ・自分の仕事に合わせて研修できる点がとてもよい。
- ・視聴する場所や時間を自分で選べる点が大変ありがたいと思いました。
- ・自分の空いた時間に、じっくりと聞いたり、聞き漏らしたところをもう一度市長品お薄ことができるから。
- ・学校の状況に合わせて、自分の空いた時間に視聴できるため。
- ・研修を受講する時間のやりくりがしやすい
- ・それぞれの学校の状況がちがうため、それぞれに応じて研修ができるため。
- ・自分の都合の良い時間帯に視聴できるので、業務に支障がない。
- ・仕事の都合のよい時間に視聴できるため。
- ・自分で時間を見つけて研修することができた。また、資料のみと違い、講師の先生の熱量を感じることができた。
- ・平日の昼間、子どもたちや教職員がいる間に、学校を空けなくて済むから。
- ・学校を離れることなく、時間を有効に使って研修を行うことができるのでよかった。
- ・自分の都合に合わせて参加できるから。
- ・期間内で動画を数回視聴しました。オンデマンド開催は、自分の勤務状況に合わせて時間を見つけて視聴できることや、再視聴できることで、自分に足りないものや今後やるべきことについて考える機会が増えることが、大変あり

がたかったです。ただ、実際に生のお話が聞けることも貴重なことだと思いましたので、参集で聞いた後でもさらにオンデマンドで聞けるという状況だともっと嬉しいのです。

- ・自分の都合の良い時間に学ぶことができるから。
- ・自分の時間に合わせてゆっくり視聴することができた
- ・自分のペースで視聴できる。重点的に聞きたい部分などを、繰り返し視聴できるから。
- ・都合の良い時間に視聴し、学ぶことができます。
- ・学校現場は、やはり忙しく、学校を離れて研修をする時間に余裕がない。実際、今回の研修動画も、自宅で期限ギリギリで見ている。オンデマンドは、研修の時間も場所も選択できるのでありがたい。
- ・全員参集もそれなりの利点はありますが、自分の隙間時間にピンポイントで受け取れる点です。
- ・自分のタイムスケジュールに合わせて研修ができるから。
- ・期間中に、自校で、自分のタイミングで視聴することができたため。
- ・自分の時間で参加できるから。
- ・多忙の中、期間があり、研修がしやすいため。
- ・時間がある時に、聴き直しができる。
- ・自分のペースで研修ができるため
- ・自分の時間に合わせて、資料を読んだり、視聴したりすることができたから。
- ・会場までの往復の時間が短縮されるため。
- ・オンラインでもこの会のねらいは十分に達成されたから。(飛騨地区に勤める者にとっては、なおさら)
- ・自分の裁量の時間で視聴することができるため。
- ・ある程度、時間に余裕があるときに視聴できるのが有難い。
- ・自分の都合の良い時間帯に動画を視聴することができ効率的。
- ・じっくりと研修を受けることができる。何度も聞き直せる。
- ・行事等それぞれの学校でちがうため、期間をもたせていただけることが助かります。

よい理由

- ・どちらでも開催可能なため。
- ・自分で時間を設定設定することができた。ただ、研修途中に来客対応などの声がかかり、途中、中断しなければならなかった。
- ・勤務時間の合間を見て総会に参加できるから。
- ・時間を有効に使えるから
- ・自分の自由な時間に視聴できるから。
- ・再度、自己の在り方について考える良い機会になりました。
- ・自分のペースで研修ができた。途中で対応すべきことが入っても一時停止をして対応し、その後研修を行うことができたから。
- ・研修を受ける時間を自分で決めることができ、時間を有効に使うことができる。
- ・良いにしましたが、どちらとも言えないというのがほんとうのところ。
- ・時間がうまく使える
- ・何度も繰り返しお話を聞かせていただくことができるからです。参集型も、各地域の先生方と話ができる、聞かせていただく楽しみもあります。
- ・時間に縛られず研修を進めることができました。
- ・時間帯がいつでも視聴できること
- ・自身の都合でタイミングよく研修ができたから
- ・参集したい気持ちがあるが、職場を離れる余裕がない。
- ・市内の教頭会でみんなで観ることができるから。

- ・自分自身のタイミングで視聴でき、また部分的に見返すこともできるため。
- ・参集型以上に集中して講話を聞くことができたから。また、自分を振り返ったり見つめたりできたから。
- ・時間的な制約がないことや繰り返しお話を反芻することができること
- ・都合の良い時間に研修に参加できる
- ・自分の時間に都合をつけて視聴できてありがたいです。
- ・学校の終わった後や土日に見ることができるから。
- ・現在の県内の課題や、若手職員をどう育てていくのかなど、具体的な話で、明日から実行できる内容が盛りだくさんであった。
- ・時間がある時に自分のペースで研修ができたから。また、繰り返し聞くことができて、納得できるまで聞き返したり調べたりできたから。
- ・時間を有効に使えるから。
- ・職員室に残る職員がほほえない状況で、できる限り出張で学校を空けたくないため。
- ・参集する必要性を感じないからです。移動にかかる時間は無駄とリスクが高まるからです。
- ・自分の都合の良い時間に取り組むことができるため
- ・参集型と違い時間を有効活用できる。集中して受けられる。
- ・参集すると、時間を要する。オンデマンドで自分の都合で時間を見つけた方が落ち着いて研修できる。
- ・僻地からの参加は、どうしても多くの時間を使います。また、職員が少ないため、負担をかけることになります。
- ・本校は今年度全学級複式となっており、外部へ出かけることで人手が足りなくなってしまう状況にあります。それを少しでも解消できるので。
- ・小規模校なので、学校をあけることが困難なため、有り難かったです。
- ・自分の空いている時間に受けることができる。
- ・参集しなくても十分内容は理解できると思うからです。
- ・時間を見つけて研修ができるのでありがたいです。直接お会いしたかった気持ちもあります。
- ・交通費等を使わずとも開催できるから

- ・いつでも視聴できるから
- ・各校の事情に応じて研修を行うことができるため。
- ・話を聞くために移動しなくてもよく、時間が有効に使えるから。
- ・余裕を持って研修に参加でき、何度も繰り返し内容を確認することができるから
- ・自分の余裕ができた時間でじっくり視聴できるため。同僚と会えないことはさみしいですが…。
- ・参加しやすい
- ・研修総会はどちらにしても、講演会的なものだったからオンデマンドで充分とおもえた。
- ・研修内容及び研修方法について「よい」と判断した。
- ・自分の時間をコントロールして視聴できる。
- ・見たい時に見ることができる
- ・自分の履修しやすい時間に研修を受けることができる。期間内であれば、聞きたい内容を再度聴講できる。
- ・学校現場で研修できることがよい。
- ・参集しなくても、視聴だけでも十分に研修となるため。
- ・以前に見た内容があった気がするから。
- ・7月までの期間、学校を離れる出張が多かったのも、学校で、しかもオンデマンドでできたこと、という点では良いと考える。もちろん、デメリットもあるが。
- ・自分の空いた時間にじっくりと見ることでよかった

- ・対面や参集型の研修会も良いですが、交通費や移動時間を考えるとメリットが大きいと感じたため。
- ・講演の内容が良かった。
- ・出張にかかる時間を減らしながら、貴重なお話を聞いて今後の仕事へのモチベーションを高めることができたから。
- ・移動の時間がなくてよいから。都合のよい時間に聞けるから。繰り返し視聴できるから。
- ・学校から離れることなく、貴重なお話を自分の聞けるタイミングでじっくり聞くことができたから。(移動するだけ何時間かかると疲弊しがちなので、でもほかの教頭先生方にお会いできないのは少し寂しいですが…)
- ・勤務校で、自分で時間の都合を視聴できるため
- ・自分の時間の都合で視聴できるが、忘れてしまいがちになる
- ・移動の手間が省ける。
- ・時間の負担が少ない
- ・ぜひ実際にお会いして、お話を聴きたいと思いましたが、プレゼンを見返し、聴き直しながら、お話をじっくりかみしめることができた点は、オンデマンドの良さだと思いました。
- ・仕事の合間を縫って、視聴できるから。
- ・研修を受けることで考えがリニューアルされたり、再構築されるから。
- ・時間がある時に視聴ができるのはとてもありがたい。質問などができる場があってもよいのではないかと思います。
- ・自分の予定に合わせて視聴できるから
- ・時間の制限が少ないことは大変良いが、横の繋がりも欲しいと思います。
- ・当日、学校行事に参加できたことはとてもありがたかったです。しかし、落ち着いてから視聴しようと思っていたが、確認メールがあるまで忘れてしまっていました。役員の方の仕事を増やしてしまったという反省点から、このような評価です。
- ・出張しなくても良い
- ・この動画を市の教頭会で視聴しました。日頃の忙しさの中で、自分自身を振り返る機会は大事です。動画のみですと、せっかくのお言葉もしっかりと聞けなかったりするので、身近な研修の場で視聴できたことはありがたかったです。
- ・できれば参集型で、実際の空気感を感じながら研修出来ればよいが、オンデマンドは多くの方が参加しやすい方法であるから
- ・自分のタイミングで研修できるところがよいです。
- ・時間と気持ちに余裕を持って研修に臨むことができる
- ・学びたいことがしっかり分かりましたし、時間の負担のことを考えるとよいと思います。
- ・会場まで移動が長時間かかる教頭先生もいらっしゃいます。参集がよいと思いますが、中にはゆっくり時間をかけて配信を視聴された方もいらっしゃると思うから。
- ・自分にとって都合の良い時間で研修を受けることができるのでありがたいです。でも、やはりその場でリアルにやり取りができないことは、残念。やはりその場でお話を聞いて、その時に感じたことで感想や質問の交流ができたら良いなとも思います。
- ・職場を離れないで、受けられる時間帯に研修を受けることができる。しかし、画面上での研修になるため、講師の方との対面型にならないことは残念である。
- ・自分の仕事の見通しに合わせて実施できるから。
- ・時間的制限が少ない
- ・概念にとらわれない形にチャレンジすることはよいことです。
- ・とにかく忙しすぎるので、オンデマンドなら自由な時間に見ることができるため。
- ・自由な時間で大切なことを学ぶことができるから
- ・自分の時間が作れた時に研修ができるから
- ・立ち止まって考えることができる。時々、動画を一時停止して、じっくり考えて自己内理解をしてから次の話を聴けるのは学んだ実感を伴う。反面、自己解釈となってしまうので、青木先生の伝えたい本意とズレが生じている可能性があるのが、オンデマンドによる研修の難しいところだとも感じている。
- ・現場で生の講演を聞きたかった。
- ・学校をあけることが減るから。
- ・視聴期間がもう少し長いと夏休みに視聴できてさらにありがたいです。
- ・この時期目も回る忙しさで、オンデマンドでありがたかったです。(日中は見ることができず、勤務時間前に研修しました。それくらいの忙しさでした)
- ・学校の行事等もあり、なかなか現場を離れることができないため
- ・時間を見つけて視聴することができたから
- ・時間のある時に視聴できるため
- ・自分の時間の都合に合わせて視聴できる。
- ・都合の良い時間に、何度でも視聴することができる。
- ・自身の都合のよい時間に視聴することができてよかったです。
- ・学校を離れると、その分仕事が溜まります。オンデマンドにすることによって、自分で時間調整をして受講できるからです。また、期間内なら何度も話が聞けることもありがたいです。
- ・時間に縛られず、都合の良い時間に視聴することができるため。
- ・いつでも、自分の時間で研修を行うことができるため。
- ・生徒や保護者など、急な対応も入って来たことがあったことを考えると、自分のタイミングで視聴することができたから。
- ・時間を見つけて研修を受けることができたため。しかし、視聴期間が短く、夏休み期間に視聴できるとありがたいと思いこのようにさせていただきました。
- ・学校現場を離れることなく、勤務優先がなされて、学校の体制としてありがたいから。しかしながら、その時に参加しないと、ともすると見逃してしまう危険性もあるため。
- ・自分のペースで視聴できるため。
- ・時間を調整して総会に向かえる。
- ・いろいろと忙しい中で研修を行うことは大変なのでオンデマンドの形はよいとは思いますが、結局視聴が勤務時間外になってしまうところが難しい。
- ・遠方から時間をかけて参集することと比較すると、オンラインで行うことのメリットが高い。ただ、肌感覚で熱量を感じることは難しい。
- ・業務等にに応じて、視聴時間を自由に設定することができたり、大切だと思ったところを、繰り返し視聴することができるためです。また、本会場への移動にかかる時間や旅費等の削減につながり、その時間を校内業務に充てたり、予算を他に必要な経費にまわすことも可能になると考えられるためです。一方で、教頭先生同士のつながりや情報共有という点では、参集方にも利点があり、教頭先生方の多様なニーズに応えられるようにすることも必要と考えたので、「よい」としました。
- ・参集型の場合、日にちによっては、参加することができないこともあり得ますが、webなら確実に参加することができるから。
- ・研修は必要ですが、なかなか学校を離れることは難しいです。正直言いますと、休日に研修をしました。でも、聞いて本当にためになるお話でした。だから、こういう形をと

- ・ っただけで、私は感謝しております。でも、本当は顔をつきあわせて、研修をしたいです。
- ・ 自分の時間で学ぶことができるから。
- ・ 時間を有効に使うことができる
- ・ 中々学校を空けられない状況もあるため
- ・ 自分のペースで研修を受けることができるので、ありがたいです。
- ・ 一方で直接お話を聞いてみたい気もしました。
- ・ 日常の業務の合間で研修することができるのはありがたい。でもその時間を生み出すには、結局、休日や時間外になることがほとんどで、少しの負担感は否めないと感じました。
- ・ 今の仕事に対する自分の考え方を見直すことができるきっかけとなったからです。
- ・ 時間的に自由がきくことはありがたいのですが、直接お話を伺うことも必要かと思えます。
- ・ 現場を離れずに、学べることはよいが、参集して頭を合わせて交流する、ライブで聴き学ぶことも大切にしたい。
- ・ いつでも視聴できるから。
- ・ 自分の都合に合う時間に研修を受けることができるため。
- ・ 時間の融通がきくため
- ・ 参集型は、遠方から参加する先生方が大変だからです。
- ・ 自分のタイミングで参加できることはよい。
- ・ 自分の余裕のある時間に視聴できることはよいと感じた。しかし、参集することにもよさがあるようにも思える。
- ・ どの時間でもどの場所でもできるため。

- ・ 自分の都合のつく時間に落ち着いて拝聴することができる。
- ・ 時間を自由に融通できる。
- ・ 移動する時間が短縮でき、学校に勤務つつ研修を行うことができるのが良いです。
- ・ 十分研修できる。
- ・ 自分のスケジュールに合わせて調整ができるから
- ・ オンデマンドであれば、自分の時間を調整して参加できる。また、会場準備をする必要もない。そのこと自体はありがたいが、参集で行う事で務めの自覚がより強まることもあるのではないかと感じる。
- ・ 時間が自由になるから。
- ・ 管理職としての自覚と使命を再確認できたから
- ・ 自分の仕事の都合で時間をつくって、落ち着いて研修を受けることができるため。
- ・ 忙しい中、自分の都合のよい時間に見ることができるから。
- ・ 時間を有効に使って行うことができるから。
- ・ 直接お話をお聞きしたいと思いますが、業務が忙しく、学校を空けることには不安があるため。
- ・ 時間の短縮につながるから。
- ・ 職員が気持ちよく働く環境について考えることができた。
- ・ 自分の自由な時間に研修できるから
- ・ 自分の都合に合わせて視聴できるから
- ・ もう少し、期間を延ばして欲しいです。

惜しい 理由

- ・ 業務上、ありがたいのですが、直接お話を聞いてみたいです。
- ・ 直接、顔を見てお話を聞けるのがよいからです。表情、話し方から伝わる要素はかなりあると思っています。
- ・ 直にお話を伺ったり、他校の先生方と声を聞き合ったりできる機会があると、感じることもまた増えるのではないかと感じたため。
- ・ 本校は空き教室が少なく、落ち着いた環境で聞けなかったため、参集して聞けるとよかったです。
- ・ 自由に視聴するために時間を産み出さなければならぬので決まった時間で行えると助かります。
- ・ 私はまだ若いので、参集にして経験豊富な教頭先生方から助言をいただき、学びたかったからです。内容については、非常に満足しています。

- ・ 内容は、とても良いが参集することで、他の地区の教頭との交流ができると思います。
- ・ 参集方で、質問をしたり他の教頭と交流をしたりする時間があると有り難いから。
- ・ いつでも聞けると思うが、時間は生み出さないとならないためどんどん勤務外の時間にこの研修が追いやられ、いい研修のはずが、やっつけ仕事になってしまう。聞いた後すぐに共有ができないのが残念。
- ・ やはり、参集して対面で話を聞きたいです。
- ・ コロナ禍で教頭になり、一度も参集での総会を経験していません。ともに同じ立場の者と集い、他地区の方と話すこともできればと思います。
- ・ できれば参集で青木義務総括監の言葉聞くことや教頭先生方と交流できればと思ったから。

とても惜しい 理由

- ・ 業務と重なり、何度か見直すことになったから。

3. 来年度の研修総会について、現在のあなたの考えに一番近いものを選択してください。

